

## 2019年3月NHK中国地方放送番組審議会

3月のNHK中国地方放送番組審議会は、20日（水）、広島放送局において、11人の委員が出席して開かれた。

議事はまず、前回の審議会での答申を受け「2019年度中国地方向け地域放送番組編集計画」を決定したこと、およびこれに基づいて策定した「2019年度中国地方向け地域放送番組編成計画」について説明があった。続いて、放送番組一般について活発に意見交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、4月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

### （出席委員）

委員長	安井 弥	（広島大学大学院医歯薬保健学研究科 教授）
副委員長	上大岡トメ	（イラストレーター）
委員	伊藤 康丈	（イワミノチカラ 代表）
	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館 館長代理）
	坂本トヨ子	（株式会社サカモト 取締役会長）
	坂本 直子	（走健塾 ランニングアドバイザー）
	鷺見 寛幸	（大山町教育委員会教育長）
	松嶋 匡史	（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン 代表取締役）
	松本 協一	（双湖事業化計画合同会社 代表社員）
	宮崎 智三	（中国新聞社 論説主幹）
	渡部 朋子	（NPO法人 ANT-H i r o s h i m a 理事長）

### （主な発言）

< 「2019年度中国地方向け地域放送番組編成計画」について >

- 総合テレビの土曜午前10時55分から新たな中国ブロック放送の枠を設けたのはどのような意図か。

### （NHK側）

今年度は関東甲信越の「首都圏情報 ネットドリ！」を中国地方向け

にも放送していたが、各県の県域放送が充実してきていることを踏まえ、各県で放送した番組を中国地方向けにも放送することにした。

- 山陰地方の松江局と鳥取局が協力して「さんいんスペシャル」を制作しているのはとてもよい取り組みだと思っているが、山陽地方側でも隣接局同士で協力して「さんようスペシャル」を制作するのもおもしろいと思う。

(NHK側)

西日本豪雨に関しては広島局と岡山局で共同して取材、番組制作にあたっているほか、3月9日(土)のラウンドちゅうごく「まちづくりと国防のはざままで ～イージス・アショアの波紋～」では山口局と広島局が協力して制作した。テーマによってこれからも共同制作に取り組んでいきたい。

- 最近、再放送が増えたように感じる。働き方改革も関係しているのか。

(NHK側)

反響の多い番組などは、より多くの方にご覧いただけるようにさまざまなメディアや時間帯で何度も放送することが多くなっているので、同じ番組を目にすることがあるかもしれない。

- IT業界では「ハッカソン」や「ディレクソン」などのイベントが盛んだが、来年度、岡山局や鳥取局で予定されている「ディレクソン」はどのように行われているのか。

(NHK側)

一般視聴者に集ってもらい、あるテーマについて自分たちがどんな番組を見たいか話し合っ、番組企画にまとめていってもらい、そのアイデアを競い合うイベントだ。山口局では昨秋イベントを実施し、最優秀賞に選ばれた企画を実際に番組化して12月に放送した。

<放送番組全般について>

- 2月22日(金) ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「過去の教訓はなぜ生かされなかったのか～西日本豪雨の現場から～」を見た。地名や記念碑に過去の災害の歴史が留められていることについて、自分の地域はどうか、視聴者がもっと関心を持つように訴えかけてもよかったと思う。古い石碑は漢文で書かれていて内容がすぐ分からないことも多いので、内容を分かりやすく伝える必要性についてももっと触れてほしかった。東日本大震災の被災地では祭りなどを通して、記憶を風化させない努力がなされているが、西日本豪雨でも同様の取り組みが必要だと気づかされる番組だった。

(NHK側)

全国的にみて広島県・島根県・山口県は土砂災害の危険箇所が非常に多い地域だが、今回の西日本豪雨では日頃から危険性を知っていれば被害を防げたことも多かったということもあり、自分の住む土地の事を知るための助けになればと制作した。調べてみると昭和10年代くらいまでに作られた碑文のほとんどは漢文で、その内容を現代語訳して伝える取り組みも始まっている。番組で紹介した坂町小屋浦地区の碑文の内容は、まさに今回の豪雨災害の被害そのもので、先人の残したものはこれからも活かすことができると感じた。今回の番組がきっかけになればよいと思っている。

- 3月1日(金) ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「地方議会クライシス」を見た。議員のなり手がいないという各地の地方議会の危機的状況について、現状だけでなく、住民がみんな参加して町の新規事業を提案する鳥取県智頭町の百人委員会の取り組みが紹介されていたのは良かったが、地方の疲弊度が増し、なり手がいない中でそもそも地方議会の存在意義や役割について問い直すことも必要なのではないかと考えた。

(NHK側)

地方自治は民主主義の学校と言われ、市民から一番身近な政治であるにも関わらず、地方議会の議員のなり手が不足し、このままでは衰退してしまうという危機的状況は十分伝えられたと思うが、解決策については海外の事例なども紹介できると、もっと良かったと思う。また、地方議員にはどんなことが出来るのか、権限や役割についてあまり知られていないという側面もあると思う。いただいた意見を参考にしていきたい。

- 3月1日(金) ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「地方議会クライシス」を見た。どの地域も抱えている難しい問題だが、さまざまな事例を知らないと、どのようにすべきか考えることもできない。番組では鳥取県智頭町の百人委員会の取り組みを好例として紹介していたが、このような事例をいくつか紹介した上で、住民や議員など当事者を交えて議論すると、これからどうすべきか考えやすくなると思う。今回の25分番組では時間が足りなく感じたので、もっと長い時間をかけて深く掘り下げた番組にも期待したい。
- ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「地方議会クライシス」を見た。4月の統一地方選で、鳥根県議選や広島県議選は無投票選挙区の割合が全国でワーストになるのではないかとされている中で、タイムリーな内容の番組だった。また、定数削減や報酬引き上げなどの対策とその限界、鳥取県智頭町のような新しい取り組みも紹介していて、問題提起として良い番組だったが、議会がなぜ必要なのか役割についても少し触れられるともっと良かった。行政が適切に行われているのか、議会のチェック機能は大切なので、今後とも継続して取り組んでもらいたい。

(NHK側)

広島局を中心に中国地方の5局が協力して制作し、中国地方全体にわたる地方議会の課題として問題提起した。ただ、現行の制度を前提に議員の処遇を見直すにせよ、抜本的に制度を改めるにせよ、解決策は示すのは簡単ではないので、今後さらに踏み込んで考えていきたいと思う。

- ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「地方議会クライシス」を見た。今度の統一地方選で、選挙に行こうにも投票することができないかもしれないというアナウンサーの投げかけから番組が始まったのが新鮮だった。スタジオ出演した鳥取県伯耆町議会の若手議員が、率直に自身の体験談などを語っていたのがよかった。各地の課題や解決策もよく紹介されていて問題の多様性を感じたが、最後は時間が足りず、中途半端に終わってしまったような印象だったのが残念だった。
  
- ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「地方議会クライシス」を見た。地域のさまざまなものが崩壊の危機に瀕している中で、地方議会の崩壊の危機に焦点を当てた良い番組だった。番組を見て、海外と比べて日本の地方議会には女性や若者の議員が不足していることを改めて感じた。なぜ女性や若者の議員のなり手がいないのか。その点についての言及があっても良かったと思う。これからも継続して取り組んでほしい。

(NHK側)

女性の政治参加も大事なテーマのひとつだと認識している。政治分野での男女共同参画を推進する法律も出来たが、今後どのように実現されていくのか、注目していきたい。

- 3月9日(土) ラウンドちゅうごく「まちづくりと国防のはざままで ～イージス・アショアの波紋～」(総合 前10:55～11:20 中国ブロック)を見た。国防と地方自治がどうあるべきか非常に難しい問題について向き合った、タイムリーな番組だった。隣接した自治体と合併せず、独自に町おこしを進めてきた阿武町の決断の背景がわかりやすく説明されていると感じた。これからも継続して伝えてほしい。

(NHK側)

今回の「ラウンドちゅうごく」は広島局と山口局が共同で制作した。10分程度に再編集したリポートは3月15日(金)「ニュースウォッチ9」の中で全国放送もされた。

(NHK側)

担当記者が、時間をかけて粘り強く阿武町長との関係を作ってきたことで、単に出来事だけでなく葛藤や人柄も伝わる番組になったと思う。この問題はさまざまな見方があるので多角的な観点から継続的に伝えていきたい。

- 3月15日(金) ラウンドちゅうごく「あなたの大切なモノって何ですか?～広島県・岡山県の旅～」を見た。今回、5つの大切なモノとそれにまつわるエピソードを紹介していたが、取り上げるエピソードの数を減らしたほうが、より深く掘り下げられると感じた。また、リポーターの女性の「あなたの大切なモノは何ですか?」という問いかけはあるものの、詳しいエピソードはほとんどナレーションでの説明に終始してしまっていて残念だった。リポーターと取材相手のやり取りや、エピソードを聞いての感想など活かせると良いと思った。

(NHK側)

若いリポーターたちが年輩の取材相手にインタビューするとき、子どもや孫のような立場になって教えてもらうように話を聞けるというメリットもある一方で、人生の深みに迫っていく技術はまだまだ身につけていかなければならないところだ。「ひるまえ直送便」などの番組で経験を積み、スキルアップしている途中でもあるので、引き続き見守っていただけるとありがたい。

- ラウンドちゅうごく「あなたの大切なモノって何ですか?～広島県・岡山県の旅～」を見た。視聴後にほっこりとした気持ちにはなったが、ナレーション中心の淡々とした内容で、現場の臨場感は伝わってこなかった。

(NHK側)

「あなたの大切なモノって何ですか?」は事前取材なしで、ロケ先でたまたま出会った人にお話を伺っている。ぶっつけ本番で出会った人から人生の深い話を引き出すには高度な技術を要するのも事実なの

で、問題意識を現場で共有して、改善を図りたい。

- 3月8日(金) “テッパン” 話仕入れました！広島かたすみ食堂「上陸NG！大崎上島沖の“不思議島”」を見た。テーマの契島は長崎の軍艦島のように、行ってみたいと興味が湧いたが、島全体が工場で結局上陸取材は出来ず、島について遠巻きにしか伝えられなかったのはもったいなかった。取材先の大崎上島で出会った人のエピソードをクイズ仕立てで紹介していたのも不要だと思った。

(NHK側)

取材当初から契島には上陸出来ないことは分かっていたが、大崎上島の人たちと縁が深く、愛されてきた島なので、大崎上島の人たちとの関わりからその実像に迫っていこうとしたが、本当に知りたいことに手が届かないもどかしさがあったかもしれない。

- 3月2日(土) @ o k a y a m a 「心に響く ふるさとの歌声 ～みんなの校歌 スペシャル～」(総合 前7:30～7:55 岡山県域)を見た。子どもたちの笑顔や校歌を歌う歌声がとても印象的な、心あたたまる番組だった。ゲストの作家・あさのあつこさんの、校歌は子どもの頃の思い出とリンクして自分を支えてくれるような存在で、たとえ廃校しても歌は心に残り、新しい校歌と合わせて2つの校歌を子どもたちは持つことが出来る、という考え方はすばらしいと思った。3年にわたるコーナーの総集編とのことだったが、長期にわたる取材の深さが感じられ、非常に心に残る番組だった。

(NHK側)

「みんなの校歌」は夕方の地域のニュース情報番組「もぎたて！」のコーナーで、岡山局のキャラクターの桃太郎どーもくんが小学校を訪ね、学校の様子や、子どもたちと一緒に校歌を歌い触れ合う様子を紹介してきた。今回、3年分の総集編を制作するにあたり、中には廃校になった学校もあったが、その後の様子取材することで、子どもの成長や故郷への思いも伝えることができた。

- 3月8日(金)@okayama「おokayama町並み探訪 ～出雲街道～」を見た。新庄村のがいせん桜など非常に美しい出雲街道の風景が4Kカメラで撮影されていて、旅行に行ったような気分を味わえた。また、風情ある街並みが残る宿場町に暮らす人々に丁寧に取材をしていて、故郷の良さを伝えていくことは、地方局にしか出来ないことだと改めて感じた。このような美しい故郷の風景を伝えたり、郷土で生きていく指針につながったりするような放送に取り組んでほしい。

(NHK側)

この番組も「もぎたて!」の中で今年度続けてきた企画をまとめて「@okayama」として放送したものだ。平日の午後6時台に放送しているコーナーの総集編を金曜日の午後7時台に放送することで、ふだん見られない視聴者にも見ていただけたと思う。

- 3月1日(金)さんいんスペシャル「トレインクルーズ 瀬戸内海から日本海へ」(総合 後 7:55~8:38 鳥取県域)を見た。もともとNHKワールドJAPANで放送された番組とのことだが、カナダ出身の旅人が岡山から米子まで鉄道を乗り継いで、地方の風景や文化を外国人の独自の視点から紹介していた。旅の途中で薪をくべて沸かす風呂に感動したり、地元の料理に喜んでいる様子に、京都のような有名な観光地とは違う地方ならではの独特の楽しみ方を提供できると感じ、インバウンドを考える上でとても参考になると思った。撮影技術もすばらしく、海側から撮影した日本海の海岸線の景色が特に美しかった。

(NHK側)

国際放送で地域を紹介している番組を、各地の地域放送でも放送する取り組みが増えていて、今回、鳥取局でも初めて放送した。もともと英語で制作されていた「トレインクルーズ」の日本語版を制作し鳥取県内向けに放送したが、反響を見ると外国人の視点がとても新鮮だったと好評だった。今後も山陰地方を取り上げた国際放送の番組があれば積極的に放送していきたい。



- 3月15日(金)さんいんスペシャル「デザイナー 森英恵 ～服は着る人のために～」を見た。森さんの仕事への思いや向き合い方がよく分かった。森さんの色彩感覚やちょうをモチーフとしたデザインの原点が故郷島根の自然にあると紹介され、とても誇らしく思った。ふだん目にしている郷土の風景の価値に気づかないことの多い若者に向けて、ふるさとの良さを伝える番組にも期待したい。

(NHK側)

この「さんいんスペシャル」は松江局が制作した。番組の中では、森さんと同じ町で育った彫刻家澄川喜一さんのインタビューも伝えたが、地元島根を大事にするお二人の思いも伝わったと思う。これからも山陰ゆかりの著名な方を取り上げていきたい。

- さんいんスペシャル「デザイナー 森英恵 ～服は着る人のために～」を見た。女優の岩下志麻さん、佐藤しのぶさん、彫刻家の澄川さんなど出演されている方々は豪華だったが、世界的デザイナーとして活躍されてきた森さんのすごみなどもっと森さんの人物像に迫ってほしかった。また、ちょうのモチーフのルーツが島根にあると言ったが、どのような風景に触発されたのかももっと詳しく知りたかった。

(NHK側)

ちょうのモチーフのルーツに焦点を当てて深く掘り下げるアプローチもあったと思うので、意見は制作現場と共有したい。

- 2月25日(月)旬感☆ゴトーチ!「30分で六感治癒!な湯治旅～鳥取 三朝温泉～」を見た。リポーター役の鳥取局の五味哲太アナウンサーの笑顔が素敵で、番組の雰囲気をよくしていた。また、五味アナウンサーとは別に、地元の良さを伝える“ゴトーチハンター”が別の場所から中継することで、限られた時間の中で三朝温泉の魅力が余すことなく伝えられたのがよかった。ただ、番組の最後でジビエ料理を紹介していたが、多数の品々が準備されていたのに、少ししか紹介できなかったのは残念だった。作った料理長もがっかりした表情をしているように見えた。

(NHK側)

二元中継はこの番組のスタイルで、毎回この手法で全国各地からお伝えしている。今回“ゴトーチハンター”として登場したアラン・マリーさんは、三朝町の国際交流員として地域の魅力を海外に発信されている方で、彼女の視点から三朝温泉の魅力を紹介できたのもよかった。ジビエ料理の紹介については、放送後、料理長にお礼とおわびを丁寧に伝えたと聞いている。

- 3月3日(日)NHKスペシャル「“黒い津波”知られざる実像」を見た。黒い津波の威力、危険性を伝えるのに、実際の津波の映像を使いながら説明することで説得力が増したと感じた。番組の冒頭で「この番組では津波の映像とCGが繰り返し流れます」という注意喚起のためのスーパーをして視聴者に配慮していたが、配慮してでも実際の映像を使う意味があったと思う。ただ、番組の最後の曲はあまりにも暗く、怖い印象で、津波の脅威を伝えるためとしても、もう少し気を配ってほしかった。
- 3月17日(日)明日へ つなげよう ふるさとグングン!「みんなで描く 未来の町～岡山 倉敷市真備町～」を見た。被災された方々が集まり、地域の将来について話し合っていたが、その様子に住民同士、住民と制作者の間の信頼関係が感じられて、とても良かった。またサポート役に、阪神・淡路大震災を経験された方がいたのも良かった。阪神・淡路大震災は災害からの復興だけでなく、地域再生のひとつのモデルケースでもあるので、災害というテーマに限らず、地域の将来を考えるのに活かせる内容の良い番組だったと思う。

(NHK側)

「ふるさとグングン!」は、被災した地域を住民が主体となってどうやって再生していくのか、住民をサポートしていくことを目的に始まった番組で、今回は西日本豪雨で被災した岡山県真備町で収録した。真備町の復興の状況は継続的に伝えていく予定だ。

- 3月9日(土) ETV特集「誰が命を救うのか 医師たちの原発事故」を見た。事故直後の医療現場の混乱した状況が、震災から8年経ってようやく明らかになって

きたと感じた。事故直後、広島から福島の医療現場に支援に入った2人の医師が、その後、居を東北に移し、今も被災地で活動していることに感銘を覚えた。時間をかけて取材してきた制作スタッフに敬意を表したい。

- 3月2日(土) 中井精也のてつたび!「冬景色 日本海～山陰本線に行く～」(BSプレミアム 後6:30～7:29)を見た。長距離の路線だが、鳥取・島根・山口の各県のポイントを押さえて紹介していて、地元の人にとっては見慣れた風景が鉄道写真という視点から再評価されたのが良かった。衛星放送の番組はまだまだ見られない人もいると思うので、島根県向けに地上波でも放送してほしい。
- 3月1日(金)今日は一日“ありがとうFM50”三昧「クラシック編」(FM 後1:00～11:00)を聴いた。その中の初心者向けクラシック番組の歴代パーソナリティーが集って、硬い内容をいかにやわらかく伝えるかを話していた「やわらかクラシック」というコーナーがおもしろかった。コアなクラシックファンのニーズを満たす番組もあれば、初心者向けの番組もある、クラシック番組の豊富なラインナップはNHKの長所だと思う。また、パーソナリティーたちの耳の写真でデザインされたNHK-FM放送50周年を記念した特設ホームページもとても秀逸だ。

(NHK側)

「ららら♪クラシック」などEテレでも初心者向けの番組を放送している。広島局でも、大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺(ばなし)～」のテーマ音楽指揮も担当している下野竜也さんが音楽総監督を務めている広島交響楽団の定期演奏会をFM放送で放送している。これからもNHKのクラシック番組を楽しんでいただきたい。

NHK広島放送局  
番組審議会事務局

## 2019年2月NHK中国地方放送番組審議会

2月のNHK中国地方放送番組審議会は、21日（木）、広島放送局において、11人の委員が出席して開かれた。

議事はまず、「2019年度国内放送番組編集の基本計画」および「編成計画」について、報告があった。引き続き、「2019年度中国地方向け地域放送番組編集計画(案)」の諮問にあたって説明があり、審議の結果、番組審議会として原案を可とする旨、答申することを決定した。続いて、放送番組一般について活発に意見交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、3月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

### (出席委員)

委員長	安井 弥	(広島大学大学院医歯薬保健学研究科 教授)
副委員長	上大岡トメ	(イラストレーター)
委員	伊藤 康丈	(イワミノチカラ 代表)
	小嶋ひろみ	(夢二郷土美術館 館長代理)
	坂本トヨ子	(株式会社サカモト 取締役会長)
	坂本 直子	(走健塾 ランニングアドバイザー)
	佐田尾信作	(中国新聞社 特別論説委員)
	鷺見 寛幸	(大山町教育委員会教育長)
	松嶋 匡史	(株式会社瀬戸内ジャムズガーデン 代表取締役)
	松本 協一	(双湖事業化計画合同会社代表社員)
	渡部 朋子	(NPO法人 ANT-H i r o s h i m a 理事長)

### (主な発言)

<「2019年度国内放送番組編集の基本計画」および「編成計画」について>

- 「2019年度国内放送番組編集の基本計画」の「編集の重点事項」のうち「1. 命と暮らしを守る報道に全力を挙げ、安全で安心な暮らしに貢献」に関連して、大規模災害によって東京の本部が大きな被害を受けた場合にはどこがその役割を補完するのか。

(NHK側)

首都圏直下地震などを想定し、東京の放送センターの機能が停止した場合は、大阪放送局から全国放送を継続することになっている。いざという時の訓練も兼ねて、平日午後2時のニュース、金曜日の「ごごナマ」は大阪局から全国放送している。このほか、さいたま放送局に設備した報道別館からは、首都圏向けにラジオ放送することになっている。

- 「編集の重点事項」のうち「4. 東京オリンピック・パラリンピックの機会を生かし、その先の時代に貢献するための挑戦を」に関連して、“その先の時代”の社会をNHKはどのように捉えているのか。また、東京オリンピック・パラリンピックをきっかけに東京だけでなく地方も訪れてほしいと考えている人も多いはずだが、地方の魅力の発信をどのように行っていくのか。

(NHK側)

誰もが人格と個性を尊重し合い、多様な在り方を相互に認め合う、いわゆる“共生社会”の実現もその1つだと考えている。その一環として、字幕放送・手話放送・解説放送などの人にやさしい放送・サービスの拡充とともに、よりよいサービスの開発に放送現場と放送技術研究所などが連携して取り組んでいる。まず、東京オリンピック・パラリンピックに向け、高齢者や障害者、そして外国人の方にも情報が分かりやすくきちんと届くサービスの実現を目指し、そこからさらにその先に発展させていくという考え方で取り組んでいる。

地方の魅力の発信については、地域放送局が制作した番組を全国放送していくとともに、国際放送でも積極的に放送している。インターネットサービスも活用し、英語以外の言語も含めて、外国人に向けて日本の魅力、地方の魅力を伝えていく取り組みをこれからますます加速させていく。

(NHK側)

来日する外国人に向けて、インターネットを通じてNHKの国際放

送を見てもらうよう努めるとともに、外国人観光客などが多く宿泊するホテルで外国人向けの国際放送・NHKワールドJAPANを視聴できるようにすることにも取り組んでいる。外国人観光客にとって災害時には国際放送の英語での緊急報道が役立つので、そういった観点からも積極的に取り組んでいきたい。

- 「編集の重点事項」の実施にあたって勘案するとしている施策の「これまでの質的、量的評価の手法に加えて、個々の放送・サービスの『役割』や『到達度』などの視点を取り入れた、公共放送ならではの評価指標」についてももう少し説明をお願いしたい。

(NHK側)

量的評価とはいわゆる視聴率などのこと、質的評価とは番組について「知識が得られたか」や「新しい切り口で描いているか」などさまざまな側面から評価することで、これに加えて、番組を見ることで態度や意識に変化があったのか、番組の「役割」を果たせているのかについても評価する指標を作っていくことができないか検討している。

- 「2019年度国内放送番組編成計画」の「5. 補完放送等の放送計画」の「(4) インターネットサービス」について、別途公表されると記載のある「インターネットサービス実施計画」の内容について、公表後に番組審議会でも共有してほしい。NHKのインターネット業務の範囲が分かると、番組審議会からも番組と連動したインターネットサービスについて積極的に提言できるようになると思う。
- NHKは若い世代にあまり視聴してもらえていないことが課題だ。インターネット利用が中心の若い世代との接触を増やしていくうえで、Eテレは多種多様なきっかけを作っていると思う。「ねほりんぱほりん」、「植物に学ぶ生存戦略 話す人・山田孝之」、「香川照之の昆虫すごいぜ！」など挑戦的な番組はSNS上で話題になることで若い人たちとの接点になっていると思う。また、若い人たちが興味を持つような、NHKのイメージをよい意味で裏切る意外性のある番組の中には、世代を問わずひかれるものも多い。これらの魅力的なコンテンツから若者をはじめ幅広い世代に視聴者を広げていけるとよいのではないかと思う。

<「2019年度中国地方向け地域放送番組編集計画(案)」について>

- 「基本方針」の中で、「核兵器廃絶と平和への祈りをさまざまな手法を用いて全国、世界へと発信していきます。」とあるが、番組制作にあたっては「祈り」ということばですべてをくくってしまわないで、平和への「行動」につながるよう心がけてほしい。また、被爆者の高齢化も大きな課題だが、その一方で核実験やウラン採掘の現場などで今なお世界で被ばく者が増えているということもある。75年の節目に向けて、過去の出来事ではなく、現在の課題だということを視聴者の皆さんにも理解してもらえよう、スケールの大きい今日的な視点で捉え直す試みを期待したい。

(NHK側)

委員の問題提起・意見を踏まえ、ことしの放送について検討していきたい。2020年の被爆75年に向けては、35歳以下の若手職員を中心にプロジェクトチームを作り、柔軟な発想で次の世代にどのようにして被爆の問題を継承し新たな行動に結び付けるかを検討しているところなので、そこでも委員の意見を参考に議論を深めていきたい。

- 松江放送局の「重点事項」にある島根県知事選挙は44年ぶりの保守分裂選挙となる見通しで、今回の統一地方選の中でも特に難しい選挙になると思う。NHKの開票速報は頼りにされているので、出口調査なども含め、心して取り組んでもらいたい。
- 岡山は自然も文化も豊かだと思うが、その魅力が県内外でなかなか知られていないので、スーパーハイビジョンの美しい映像を通して関心を持ってもらえるとよいと思う。さらにそのコンテンツを活用して海外へも魅力を発信していけるとよい。
- 「さんいんスペシャル」は毎回、地域の課題に勢いよく切り込んでいて興味深く視聴している。地域放送局が制作した番組が全国放送される機会もあるということだが、“課題先進県”として地域の人たちが解決のために頑張っている姿が広く知られるように、全国にも放送されるような番組の制作に取り組んでもらいたい。

- 大山開山 1,300 年の節目の昨年は、数々の番組やニュースで取り上げられ、外国人観光客の増加や、全国的な認知にもつながったと感じている。この盛り上がりをも 1 年かぎりでは終わらせるのではなく、鳥取の豊かな自然・歴史・伝統文化を継続して取り上げて全国・世界に発信していただきたい。
- 山口放送局の「重点事項」の「地域の魅力を全国・世界に発信します」という記述について、最近も「瀬戸内の島々」が訪れるべき場所として海外の新聞で取り上げられるなど、瀬戸内地域に世界から注目が集まっている。地元にいると分からない海外から見た地域の魅力を掘り下げて伝える番組を放送してほしい。
- 諮問された「2019 年度中国地方向け地域放送番組編集計画(案)」については、委員から出された意見の趣旨が具体的な番組編成に尊重されることを前提に、番組審議会として原案を可とする答申をしたい。
- 異議なし。

(NHK側)

本日の答申を受け、このあと具体的な地域放送番組編成計画について決定し、3月の番組審議会にて編成計画について説明したい。

<放送番組全般について>

- 2月15日(金) ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「“うつ”になっても働き続けるには」を見た。15人に1人は一生のうちに一度はかかると言われるほど身近な病気なのに、自分が何も理解できていなかったということを改めて感じた。うつ病から回復した当事者の方々を番組に招いて丁寧に話を聞いていたが、経験者の実体験は学ぶところが多く、うつ病になった人とのつきあい方や社会復帰の手伝い方など参考になると感じた。

(NHK側)



うつ病から回復して働く能力があるにもかかわらず社会復帰が思うように進んでいないこと、それも労働力不足の一因になっているのではないかという問題意識もあって、今回の番組を制作した。経験者の実体験を交えることで、うつ病になった人が実際にどのように感じているのかについても理解を深められたと思う。職場などでうつ病の人を受け入れるための一助にしてもらえればと思っている。この問題については今後も取り上げていきたい。

- 2月1日(金) ラウンドちゅうごく「あなたの大切なモノって何ですか?～島根県・山口県の旅～」を見た。番組が始まったころと比べるとだんだんよくなっていて、リポーターがよいエピソードを引き出せるようになってきたと感じている。継続することでよりよい番組に育ててほしい。
- 1月18日(金) ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「織田幹雄 金メダルの先に見た五輪」を見た。日本人初の金メダリスト・織田幹雄さんのことを知るきっかけとしてはよい番組だったが、地元の偉人について深く知るには25分だけではもの足りなく感じた。番組を見て、逆境をプラスに捉える点など、為末大キャスターと織田さんに共通点があることが分かったが、そうした共通点に着目して伝える方法もあると思った。

(NHK側)

為末キャスターが織田さんと同じ陸上選手として共感するものは何かを分かりやすく伝えることを意識して制作したが、2人のアスリートとしての深い共通点にまでは届かなかったかもしれない。今後の課題としたい。2020年に向けてオリンピック・パラリンピックへの関心が高まることを踏まえ、為末キャスターの個性や知見を生かしてスポーツの魅力伝える番組も制作していきたい。

- 1月11日(金) ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「老舗家具メーカー 大逆転の舞台裏」を見た。企業の経営戦略でよく問題となる、顧客の要望を聞くことと

自分たちの強みを生かすことの相克がうまく描かれていた。アメリカのアップル本社で実際にいすが使われている様子を紹介するオープニングも視聴者の興味をひくのに効果的だった。地域経済を活性化していくうえで、中国地方の中小企業を積極的に紹介することで地元の期待を高めていくことも大切だと思う。

(NHK側)

今回、広島県の企業を具体例として取り上げたが、中国地方の多くの中小企業が、生き残りのヒントを得られることを強く意識して制作した。「2019年度中国地方向け地域放送番組編集計画」にもあるように、中国地方全体に共通する課題については、「ラウンドちゅうごく」などの中国地方向けの番組で取り上げていくつもりだ。地域経済の課題も重要なテーマの1つとして今後も扱っていきたい。

- 2月8日(金) “テッパン”話仕入れました！広島かたすみ食堂「密かなブーム！？廿日市の泳ぐ小さな宝石」を見た。改良メダカの話1つにテーマを絞ってさまざまな角度から伝えていたので引き込まれて見た。展示販売イベントの人出の多さにはたいへん驚いた。改良メダカが意外と高価な値段で取り引きされていて、趣味と実益を兼ねて副業にしている人がいることを紹介したあとで、安易に自然に返すと生態系を破壊するおそれがあることもきちんと伝えていたのはよい配慮だった。また、番組の最後の鉄板料理コーナーで紹介されていた創作料理も斬新で、料理コーナーまで楽しめた。

(NHK側)

番組開始当初は毎回2つの話題を紹介していたが、番組審議会の中でも出た1つの話題を詳しく伝えたほうがよいという意見も参考にし、1テーマに構成を変えている。

- 1月25日(金) @okayama「真備で 生きる ～介護現場 半年の記録～」を見た。西日本豪雨で被災した倉敷市真備町で介護に携わる方の活動を追っていた。この方を通して、被災地の介護現場で親身になって取り組んでいる人たちがたくさん

いるのだろうと感じた。また、単に現場の苦勞を伝えるだけでなく、集合住宅での介護の新たな取り組みについても紹介されていて、今後どうしていったらよいかという前向きな内容を含んでいたこともよかったと思う。

(NHK側)

今回の番組は発災時から取材していたディレクターが半年かけて信頼関係を築いたことでできた。「故郷で最期まで生きたい」という被災した高齢者の皆さんの思いを伝えられたと思う。倉敷市真備町については、新年度も継続して伝えていきたいと考えている。

- 2月19日(火)「しまねっとNEWS 610」を見た。2月22日が“猫の日”ということに関連して「猫ビジネス」について取り上げていた。社長の猫好きが高じて猫と人間の共生をテーマにした家具を製作している家具屋について、キャスターがコミカルに伝えていたが、「1度飼ったら最期まで面倒を見てほしい」というメッセージもしっかりと伝わってきた。珍しいサービスを紹介するだけでなく、そこに込められた思いもしっかりと伝えてほしい。

(NHK側)

取り上げた家具屋は、猫ブーム関連の話題を取材する中で巡り会ったようだが、いいコメントをもらうことができた。これに限らず、日頃の取材活動を通じてさまざまな地域の話題を取り上げられるように取り組んでいきたい。

- 2月8日(金)さんいんスペシャル「√るーとhigh↑2「カニ食べた〜い！弓ヶ浜半島鬼うま旅」を見た。番組レギュラーのマンボウやしろさんのキャラクターが際立っていてたいへんおもしろかった。サイコロの出目に応じた予算でカニ鍋を作るという企画だったのに、結局予算どおりにならなかったのには真面目な視聴者には違和感があったかもしれない。
- 2月8日(金)さんいんスペシャル「√るーとhigh↑2」を見た。以前、番組

でマンボウやしろさんとふれ合った方からのお便りを番組の中で紹介していたが、1つの番組が10年という長い間続いていることの意義を感じた瞬間だった。これからもこのような地元とのつながりを大切にしてほしい。

(NHK側)

古くからのファンだけでなく、新たな視聴者にも楽しんでもらえるように、この番組について紹介していくようにしたい。

- 2月1日(金) さんいんスペシャル「DNAで迫る弥生人のルーツ ～鳥取・青谷上寺地遺跡より～」を見た。司会の小島瑠璃子さんが視聴者に近い感覚で疑問を投げかけていて、科学的な解説も分かりやすくなっていた。ただ、2018年12月23日(日)放送の「サイエンスZERO」の再構成であることが気になったので、気にならないような工夫が必要だと感じた。

(NHK側)

「サイエンスZERO」は最新の科学の動向に関心のある視聴者に向けてEテレの日曜深夜に放送している。「さんいんスペシャル」を放送している総合テレビの金曜午後7時30分の視聴者層とはターゲットの異なる番組だが、身近な場所での新発見の話題についてなので興味を持ってもらえるよう放送した。

- 2月1日(金) さんいんスペシャル「DNAで迫る弥生人のルーツ」を見た。これまでの定説を覆す発見について興味深く視聴した。弥生人のルーツがテーマだが、縄文系の人がいつどのようにして日本に来たのかについても、もう少し説明があるとよりよかったと思う。司会の小島さんが番組を盛り上げていた。若者に見てもらうのにも効果的なキャスティングだと思った。

(NHK側)

知的な質問も嫌みなくできる小島さんの進行によって、難しい番組の内容が柔らかい印象になっている。科学のことを突き詰めて見たい

視聴者にはもの足りなさもあるようだが、演出で工夫していきたいと考えている。

- 1月11日(金) さんいんスペシャル「本物を超えて 松江から世界へ ー日本画家 宮廻正明さんー」を見た。苦勞して東京藝術大学に進み現在の地位を築くまでの人生は感動的だった。現在は東京を中心に活動されているようだが、地元に戻っての活動にも力を入れてもらえると、地域の活性化にもつながると感じた。また、文化財の保存とともに文化財に直接接触れる体験も可能にするクローン文化財制作を紹介していたが、文化財の観光への活用が課題となっている中で、たいへん参考になる活動だと感じた。

(NHK側)

宮廻さんは松江出身で島根県にも思い入れが深いので、引き続き宮廻さんの活動を追いかけていきたいと思う。また、このほかにも島根を拠点に活躍している方は積極的に取り上げていきたい。

- 2月15日(金) Yスペ!「全国に知らせたい! 山口県の珍名物めぐり」を見た。給食でおなじみのチキンチキンごぼうの由来や作り方をはじめ、知ってはいても身近にありすぎて突き詰めて考えたことのなかった山口県独自の文化について伝えていて、楽しく視聴できた。
- 2月8日(金) Yスペ!「島が導いてくれたわが道〜サッカー元日本代表・岩政大樹〜」を見た。日本代表にまでなった選手が、自分にはサッカーの才能が無いと早く気付いたからこそ成長することができたと言っていたのが興味深かった。また、岩政さんが小学生の頃よく練習した場所を訪れた場面で、カメラの前で実際にボールを触っているうちに小学生時代のその練習がプロとして得意としていたプレーにつながっていたことに自ら気付いたのはテレビならではのドキュメンタリー性のあるシーンだと思った。
- 2月8日(金) Yスペ!「島が導いてくれたわが道〜サッカー元日本代表・岩政大

樹～」を見た。周防大島出身で島の誇りの岩政さんの現役時代の話と引退後の活動について伝えていて、今まで知らなかったことがたくさんあった。2010年のワールドカップで日本代表に選出された時、岩政さんの祖父が喜んで叫んでいる場面は見ている私も感動してこみ上げるものがあり、まさに秘蔵映像だと思った。

(NHK側)

岩政さんの祖父の喜ぶ映像は、代表選出を見守るところを取材した当時のニュース映像だ。岩政さんを支える家族の思いを伝える効果的な演出になったと思う。

- 1月25日(金) Yスペ!「Nフェス!まるっと大公開SP」を見た。2018年12月24日の「Nフェス!ディス IS 山口愛」の舞台裏などを紹介していたが、イベント当日の盛り上がりが伝わってきて楽しく視聴できた。ただ、イベントの途中でゲストの山口県出身のモデルが席を離れる場面で「東京で仕事」と説明していたが、山口を盛り上げるイベントなのに結局東京の仕事を優先していると参加者は興ざめに感じてしまったのではないか。「仕事の都合で」などうまくぼかしたほうがよかった。
- 2月17日(日) NHKスペシャル 平成史スクープドキュメント 第5回「“ノーベル賞会社員”～科学技術立国の苦闘～」を見た。科学技術立国に警鐘を鳴らす、すぐれた番組だった。「クローズアップ現代」のキャスターを務めていた国谷裕子さんがノーベル賞受賞者の田中耕一さんをインタビューしていたが、受賞時の「クローズアップ現代」のシーンもうまく使用することで、現在の課題がとても分かりやすくなっていた。アーカイブスの活用法の1つとして、このような手法はほかの番組でも取り入れるとよいと思った。
- 2月16日(水) ETV特集「熊を崇(あが)め 熊を撃つ」を見た。雪深い鳥海山で熊狩りを続けている「鳥海マタギ」の仕事を取材するのは相当な苦労があったことと思う。よく取材できたなと感心した。

- 2月3日(日) 目撃! にっぽん「“村はなくなった”～西日本豪雨 限界集落の半年～」を見た。復興の方針を巡って住民どうしが言い争っているところも撮影できているなど取材対象者と丁寧に信頼関係を作っていたことをうかがわせる内容だった。大みそかに住民どうしで被災体験を語り合うシーンは印象的だった。一方で、災害対策は全く進んでいない状況で、次に豪雨があったらどうなるのか、住民の不安や厳しい現実について継続して伝えていってもらいたい。

(NHK側)

被災直後から取材を始め、毎日のように取材者が通うことで信頼関係を築いてきた。この市原集落を含め、広島放送局では継続して取材している地域がいくつかあるが、復興はあまり進んでいない現状もある。あらゆる手法を駆使して被災地の様子を継続して伝えていきたい。

- 1月28日(月) 深夜「ラジオ深夜便」を聞いた。翌日午前4時台の「明日へのことば」のコーナーでは広島市出身の歌舞伎義太夫三味線奏者・野澤松也さんにインタビューしていて、野澤さんの流れるような話し口に引き込まれた。古典芸能の伝承のために歌舞伎役者や狂言師など伝統芸能に関わる多くの方が地方公演など裾野を広げる活動に取り組んでいることを初めて知った。自分の生い立ち、歌舞伎の世界での経験をタイトルでもある「人生“台本”どおり」と表現していたのがとても印象的だった。ぜひ多くの人に聞いてもらいたい内容だった。
- 12月26日(水)「米子が生んだ心の経済学者～宇沢弘文が遺(のこ)したもの～」(BS1 後9:00～9:43)を見た。この番組で、山陰・米子の風土が彼の思想を育んだということを初めて知ることができ、著書や評伝などを改めて読むきっかけにもなった。生涯、自由主義経済を批判した原点となるようなエピソードも紹介されていて、最初聞いた時には違和感のあった「心の経済学者」というタイトルも、番組を見ているうちに、経済学は人の心の安寧のためにあるという意味だと分かって納得できた。地方のケーブルテレビ局が制作した番組を衛星放送で放送したということも画期的だと思った。

(NHK側)

ケーブルテレビ局制作番組をBS1で放送するのは今回で2例目と聞いている。「第43回ケーブルテレビ大賞番組アワード」「第37回地方の時代映像祭」の受賞作ということも踏まえ、午後9時という視聴好適時間帯で放送したため、反響も非常に大きかった。とはいえ、衛星放送をご覧になれない視聴者もいることを考慮して、鳥取県向けに総合テレビで2月22日(金)午後7時57分から放送することにした。BSと地上波それぞれの役割を生かして今後も地域に向けたサービスを充実させていきたい。

- 趣味どきっ!「不思議な猫世界 ニッポン 猫と人の文化史」(第1回～第8回)を見た。猫を単なる動物・ペットとしてではなく、日本文化にどのような影響を及ぼしてきたかという視点から捉え直していたのが新鮮で、たいへん興味深かった。スタジオの猫にも癒やされ、堅苦しくなく文化の勉強もでき、猫好きはもちろん、さまざまな世代の方に見てもらいたい番組だと感じた。

(NHK側)

「植物に学ぶ生存戦略 話す人・山田孝之」をはじめ、新しいスタイルに挑戦している番組がある一方で、この「趣味どきっ!」のようなりラックスして見られる番組もある、というように多様な番組を視聴者に提供していることがEテレのよさだと感じている。これからもこのような多様性を大切に番組開発に取り組んでいきたい。

NHK広島放送局  
番組審議会事務局



## 2019年1月NHK中国地方放送番組審議会

1月のNHK中国地方放送番組審議会は、17日（木）、広島放送局において、12人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向、2月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

### （出席委員）

委員長	安井 弥	（広島大学大学院医歯薬保健学研究科 教授）
副委員長	上大岡トメ	（イラストレーター）
委員	伊藤 康丈	（イワミノチカラ 代表）
	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館 館長代理）
	坂本トヨ子	（株式会社サカモト 取締役会長）
	坂本 直子	（走健塾 ランニングアドバイザー）
	佐田尾信作	（中国新聞社 論説主幹）
	鷺見 寛幸	（大山町教育委員会教育長）
	中村 寿男	（有限会社中村茶舗 代表取締役）
	古市 了一	（株式会社ふるいち 代表取締役）
	松嶋 匡史	（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン 代表取締役）
	渡部 朋子	（NPO法人 ANT-H i r o s h i m a 理事長）

### （主な発言）

#### <放送番組全般について>

- 1月11日（金）ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「老舗家具メーカー 大逆転の舞台裏」を見た。復活までの実際の物語と客観的な成功要因の分析がバランスよく構成されていて説得力があった。為末大キャスターとゲストの議論もよかった。会社を引き継いだ跡継ぎ社長の、最初はスーツだった服装が作業服に変わっていく様子に、仕事のやり方が変わっていったことがよく現れていたと思う。ただ、この会社の成功には新製品開発にあたり、日本のトップデザイナーが参加したことも大きい。自分の強みだけでなく、なぜトップデザイナーにコンタクトを取ろうと思ったのかについても詳しく触れてほしかった。

- 1月11日(金)「ラウンドちゅうごく」を見た。中国地方の地元企業の盛衰を時系列で紹介していて、生き残りをかける中小企業にはヒントになっただろう。出演していた経営コンサルタントの解説が分かりやすく、「得意」と「好き」を見つける」など番組で示していたキーワードがとても参考になった。

(NHK側)

今回、広島为企业を具体例として取り上げたが、中国地方の多くの中小企業が役立てることができるように生き残りのためのヒントを導き出すことを強く意識して制作した。今回、ゲストの専門家と為末キャスターの議論も事前収録して、キャスターのことばをできるかぎり番組に生かすようにした。「マーケティングを基に商品開発するという常識に囚われてはいけない」、「売れる商品を作ることを優先しすぎて自分たちの長所を見失っていないか」など、成功の秘けつをキーワード的に分かりやすく伝えてくれたので、中小企業の方だけでなく、さまざまな分野の人にとっても役立つ内容になったのではないかと思っている。どのようにしたら見やすくなるか、今後もさまざまな工夫に取り組んでいきたい。

- 12月18日(火)・25日(火)の「ひるまえ直送便」を見た。「あなたの大切なモノって何ですか?～ぶっつけ本番の島根県浜田市の旅」のコーナーで、小さなお店の秘めたエピソードを紹介していたが、地元の話題だったので興味を持って見る事ができた。また、日を改めて「しまねっとNEWS 610」の中でも放送していたが、時間帯を変えて放送することで見られなかった人も見る事ができるのでよい取り組みだと思う。

(NHK側)

このコーナーは若手リポーターたちが事前取材なしで、ぶっつけ本番で出会った方々から大切なエピソードを伺っている。どのようにしたらより深い話を聞けるか毎回試行錯誤していて、リポーターの成長

の場にもなっている。

(NHK側)

「あなたの大切なモノって何ですか？」は中国地方向けの番組のコーナーだが、島根県内を取材している時には、県域放送の中でも取り上げるようにしている。

- 12月31日(月) アナザーストーリーズ 運命の分岐点「衣笠祥雄ラストインタビュー～鉄人 最後のメッセージ～」(総合 後 4:00～4:59 広島県域)を見た。近しい人たちが語る逸話が散りばめられていて、衣笠さんについて予備知識の少ない人にとっても、よく知る人にとっても興味深く見られる、1時間があっという間に感じられる番組だった。衣笠さんの飛躍のきっかけ・活躍期・スランプに陥った時のことが時系列で紹介されていて、アスリートにも、一般視聴者にもためになることが多かった。初優勝の時のパレードの映像からは、ファンがどれだけ優勝を待ち望んでいたかが伝わってきた。自分の生まれる前の出来事を貴重な映像で振り返ることができるのは、歴史あるNHKならではの感覚だ。

(NHK側)

12月31日(月)に「カープレジエントストーリー」と題して、黒田博樹さん、新井貴浩さんを取り上げた番組と合わせ、アンコール放送した。年末の午後帯にもかかわらずとてもよく見られた。番組の最後で、何のために野球をやるのかという質問に対して、衣笠さんが子どもたちの見本となる大人の姿を見せるためと答えていたが、私たちもそうならないといけないと身の引き締まる思いがした。今後とも機会を見つけて視聴者のニーズに応える編成に取り組んでいきたい。

- 1月7日(月)の「もぎたて！」を見た。西日本豪雨から半年が経過した倉敷市真備町の課題を伝えていた。被災した自宅をリフォーム・再建しようにも建築業者が不足していて進んでいない状況を伝えていて、行政の対策が必要だと痛感させられる内容だった。

また、1月9日(水)の「もぎたて！」では、おでんに入れる倉敷市玉島のカステラ

かまぼこを取り上げていたのがよかった。地元の人以外はほとんど食べたことがないであろう食材を取り上げることで、ほかの地域の人にも関心を持ってもらうことができる。9日(水)の放送はキャスターが歌うオープニングで番組が始まったのも、NHKらしからぬ挑戦でよかった。ただ、途中音声の切り替えミスで声が途切れた箇所があったのは残念だった。

(NHK側)

音声トラブルは申し訳なかった。年末年始の慌ただしい時期でも気を引き締めて取り組むよう制作現場に伝えた。

- 1月15日(火) 「もぎたて！」を見た。前日の成人式の様子を伝えていたが、西日本豪雨の被害の大きかった倉敷市真備町の成人たちも晴れやかに参加している姿を見られてほっとした。いろいろな境遇の中、それでも前を向いて生きていく姿が伝えられていて応援したいと感じた。

(NHK側)

「もぎたて！」では、半年がたった今でもほぼ毎日被災地のことを伝えるようにしている。まだまだ復興が遅れている場所もあるので、そういう場所をきちんと取材し続けることが大切だと考えている。

- 1月16日(水) 「しまねっとNEWS 610」を見た。「ディレクターズ・ラボ」というコーナーで石見焼のすり鉢の工場の若い跡取りの奮闘ぶりを、創意工夫も失敗も含めて伝えていた。頑張っている中小企業の姿を伝えるとほかの人たちにもよい刺激になると思う。

(NHK側)

地場産業で活躍している若者を紹介することは、事業承継の問題にもつながっていくことなので、今後とも積極的に取り上げていきたい。

- 「いろどり」を見ていると、「スポーツ報道部」の力強くテンポのよい進行と、ゆったりとした天気予報の伝え方が絶妙のバランスだと感じる。特に天気予報のスロー

テンポなやりとりはお年寄りにも聞き取りやすい。

(NHK側)

「いろドリ」は若い出演者が多い。それぞれの出演者の持ち味を生かして内容の充実に取り組んでいきたい。

- 12月7日(金)さんいんスペシャル 小さな旅「開拓の希望 真っ赤に燃えて～鳥取県 大山町～」を見た。大山の紅葉の映像が地元においても見たことがないほど美しく大変驚いた。開拓村である香取地区に加えて他地区のことも取り上げていたが、香取地区に絞り、入植当時の助け合いの共同生活の様子や、2世3世に開拓精神を受け継いでいく様子を詳しく伝えてもよかったと思う。

(NHK側)

紅葉の映像はドローンによって撮影したもので、ふだん見慣れない角度からの景色で新鮮な印象だったのではないか。世代を超えて開拓精神がつながっていくことをもっと強調したほうがよかったという意見は制作現場と共有したい。

- 1月11日(金)さんいんスペシャル イッピン「暮らしに寄り添うモダンな器～鳥取・焼き物～」を見た。3つの窯元を紹介していたが、三者三様に使う人の気持ちを考えながら作っている様子をよく伝えていて、日頃使っている器に対する愛着が増す内容だと思った。また、地味になりがちな民芸品の番組で、リポーターの生方ななえさんが画面に花を添えていた。地元の民芸品の奥深い部分が伝わることで、愛用者が増えれば、産業の活性化、後継者の育成につながるのではないかと思った。

(NHK側)

作家の方々の協力もあって、地元の人でも新たな発見があるような番組になっていた。郷土文化など地域の資源をこれからもしっかりと伝えていきたい。

- 11月16日(金) Yスペ! 「緊急報告 周防大島町断水」を見た。番組の中で島

内の自主水源の必要性について町長が触れていたが、マスメディアで取り上げていくことが実現を後押しすると感じている。

- 1月11日(金) Yスペ! うまいッ!「世界に一つだけの… はなっこりー〜山口県〜」を見た。栽培の現場を初めて見られたほか、この番組で知った特徴もあった。山口県民にとっては身近な野菜だが、気軽に食べられる野菜だからこそ、県域放送に展開して特徴を詳しく知らせることが、地元野菜への親しみにつながるのではないかと思った。
- 1月15日(火) 「情報維新!やまぐち」を見た。沖縄離島から山口県に移住してきた靴職人の活躍を「My I SH I N」と題して紹介していた。地域で活躍する20代・30代を紹介することは、県内の同世代に向けて大切なことだが、NHKが若い世代にあまり見られていない中で、実際にどのようにしてその世代の人たちに見てもらうかは工夫が必要だと感じた。

(NHK側)

「My I SH I N」は管理部門の職員の提案で2018年4月から始めた。確かに後6時台の地域のニュース情報番組の中で放送するだけでは20代30代の視聴者に見てもらえないので、さまざまな時間に放送するなど工夫をしている。12月24日(月・祝)のYスペ! 特番「Nフェス! ディス I S 山口愛」(総合 後1:05~1:50 山口県域)も若い世代と接触するための取り組みの一例で、イベント会場には家族連れが多く訪れるなど手応えもあった。来年度も引き続き若者への接触に力を入れていきたいと考えている。

- 12月22日(土) 「“駅伝の甲子園!” 全国高校駅伝スペシャル」(総合 後5:00~5:59)と1月12日(土)「駅伝のオールスターゲーム! 全国女子・男子駅伝スペシャル」(総合 後5:00~6:00、6:05~6:43)を見た。昨年度に続く第2弾だったが、懐かしい過去の名場面映像をふんだんに使い、内容が前回よりも充実していて、本番の駅伝中継を見たいと思わせる番組になっていた。ゲストを少しずつ変えるなど視聴者

を飽きさせない工夫をしながら、毎年の定番にしていってもよいと思った。

- 12月23日(日) 目撃! にっぽん「光に向かって進め～サーロー節子 祖国へのメッセージ～」を見た。番組を通して、核廃絶へ向けたさまざまな取り組みだけでなく、人間的な魅力にあふれたすてきなことばがたくさん伝わってきた。日曜日の早朝の放送だったので、若い人たちにも見やすい時間帯で再放送してほしいと思った。また、短い日本滞在期間の中での取材では致し方なかったと思うが、お住まいのトロントでの日常生活の様子を交えるなどして人柄をもっと伝えられるとよりよかった。

(NHK側)

今回の来日にあたっては広島局では杉浦圭子アナウンサーによる単独インタビューを放送したが、若い人にも見てもらえる工夫を考えながら今後とも取り上げていきたい。

(NHK側)

視聴好適時間帯に地域向けの再放送を検討したい。

- 12月23日(日) 皇室この一年「人々に寄り添って～象徴を生きる～」(総合 前9:00～9:49)を見た。西日本豪雨の際も被災地にお見舞いにいらしていて、ご高齢のためお体の負担も大きいと思うが、本当に多くの被災地に足を運ばれ、その土地土地で人々を勇気づけられている様子を見る事ができた。天皇陛下と言葉を交わした方々が皆一様に笑顔になっていたのが印象的で、象徴天皇制の意義を改めて感じる事ができた。
- 12月31日(月) 「第69回NHK紅白歌合戦」を見た。サザンオールスターズと松任谷由実の思いがけない共演など、平成最後の紅白歌合戦にふさわしい盛り上がりで、家族一緒に最後まで楽しく見る事ができた。
- 1月7日(月)～10日(木) 「みんなで筋肉体操」(総合 後11:50～11:55)を見た。2018年8月27日(月)～30日(木)に放送されたシーズン1はシュールな画面構成

でインパクトを優先していたように感じたが、今回は負荷を軽くする方法も丁寧に説明していて、視聴者に一緒にトレーニングすることを促すスタンスに変化したと思った。今回も進行役の谷本先生のことばのセンスが光っていた。シーズン3にも期待したい。

- 1月14日(月)インタビュー ここから「日本画家 宮廻正明」(総合 前6:30～6:53)を見た。文化財保護と展示を両立するために本物を忠実に再現したクローン文化財を制作する宮廻さんの活動について紹介していた。素材・色合い・質感まで忠実に再現する過程を詳しく紹介していたのは大変興味深かった。また、文化財が身近にあった幼少期の松江での生活が現在の活動につながっていることも知ることができた。

(NHK側)

最新技術によって、本物がある場所に行かなくても芸術品に親しめる環境を作り、本物では不可能な芸術品に触れる体験を可能にするクローン文化財という考え方は現在大変注目を集めている。松江市出身の宮廻さんの活動は今後とも機会を捉えて紹介していきたい。

- 1月14日(月)プロフェッショナル 仕事の流儀「皿を割れ、ふるさとのために～地方公務員・くまモン～」(総合 後10:00～10:45)を見た。最初は冗談なのかと思ったが番組を見るうちに、失敗を恐れず挑戦することの大切さ、真剣に取り組めば人に感動を与えられるというメッセージが伝わってきた。人を笑顔にすることのすばらしさを改めて感じた。
- 1月5日(土) ETV特集 移住 50年目の乗船名簿 第2回「夢と希望と愛の軌跡」を見た。現在82歳の相田洋ディレクターが手がける番組で、1人のディレクターが1968年の最初の渡航以来、10年ごとに、50年間にわたってブラジル移民家族を追い続けていることに感心した。同じ畑を定点観測することで歳月の移ろいが一目瞭然で伝わってきた。



- 12月26日(水) 「米子が生んだ心の経済学者～宇沢弘文が遺（のこ）したもの～」(BS1 後9:00～9:43)を見た。地方のケーブルテレビ局が制作した番組を放送することもあるのかと驚いた。以前、著作を読んだ時に感銘を受け、ほかの人に伝えなかったことを、この番組は見事に伝えていた。Eテレなどで宇沢さんの思想の世界を分かりやすく紹介する番組を放送してほしいとも思った。

(NHK側)

単に地元の偉人というだけでなく、これからの地域経済のあり方や、地域での生き方を考える時に、非常に重要な論点を提示していると思います。今回は衛星波での放送だったが、地元に向けて地上波でのアンコール放送も検討したい。

NHK広島放送局  
番組審議会事務局

## 2018年12月NHK中国地方放送番組審議会

12月のNHK中国地方放送番組審議会は、20日（木）、広島放送局において、10人の委員が出席して開かれた。議事に先立ち「NHK経営計画 2018-2020年度」の修正についての説明と最近の番組について報告があり、議事に入った。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向、1月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

### （出席委員）

委員長	安井 弥	（広島大学大学院医歯薬保健学研究科 教授）
副委員長	上大岡トメ	（イラストレーター）
委員	伊藤 康丈	（イワミノチカラ 代表）
	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館 館長代理）
	坂本 直子	（走健塾 ランニングアドバイザー）
	佐田尾信作	（中国新聞社 論説主幹）
	中村 寿男	（有限会社中村茶舗 代表取締役）
	古市 了一	（株式会社ふるいち 代表取締役）
	松嶋 匡史	（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン 代表取締役）
	渡部 朋子	（NPO法人 ANT-H i r o s h i m a 理事長）

### （主な発言）

#### <放送番組全般について>

- 11月16日（金）Yスペ！「緊急報告 周防大島町断水」を見た。県域向けのニュースでは連日現状を伝えていたが、今回の番組のように被害状況や影響について一度整理してまとめて伝えることで、島外の人々の理解が深まり、情報が伝わりやすくなるように感じた。ネット上で一定期間、誰でも番組を見られるようにすることで、地元の窮状が広く伝わり、SNSなどを介して支援の輪が広がっていくことも期待できる。断水自体は12月1日で解消したが、法律上の制約のため事故を起こした船会社に損害額すべての賠償を求められないおそれがあるなど、今後、補償問題が課題になる。また、事故の背景にある運航体制の問題など、国際放送を通じて海外に向けて発信することで船舶業界の現状に警鐘を鳴らすことになると思う。

- Yスペ!「緊急報告 周防大島町断水」を見た。被害状況や影響について分かりやすく説明していて、事故を起こした船会社の無責任さに腹立たしく感じたし、橋の復旧のために多くの人が努力していることに胸打たれた。番組の最後で周防大島を実際に訪れることやふるさと納税が支援になることを紹介していたが、駆け足になってしまっていたのは残念だった。視聴者がすぐにできる支援は何か、きちんと紹介してほしい。

(NHK側)

今回の事故のような地域の生活に関わる重大なニュースについてこと細かく報道を続けるとともに、節目で分かりやすくまとめて伝えることは、地域放送局の大切な使命だと考えている。ネットを通じた情報発信の工夫や、国際放送への展開についても今後、検討していきたい。

(NHK側)

地域で起きたさまざまな問題の中にこそ、全国、世界で共有すべき問題があると、常日頃から現場にも伝えている。国際放送では毎年、全国の放送局が制作した200本以上のレポートを英語化して海外に発信している。今回の周防大島の事故についても検討していきたい。

- 11月16日(金)@okayama「岡山の未来は 起業家にあり!」を見た。岡山はベンチャー企業が多いことも、地域の信用金庫がベンチャービジネスを支援することで新たな雇用が生まれ、地域が潤う好循環ができていることも初めて知って驚いた。番組に出演していた女子高生が起業について真剣に語っていたのも好印象で、若者が就職のために都会に出て行ってしまうのではなく、地元に着することを促すことにつながるとよいと感じた。

12月14日(金)@okayama「ともに働く～障害者の解雇から考える～」を見た。就労継続支援A型を担う、いわゆる「A型事業所」が岡山県で相次いで閉鎖している問題について、助成金頼みのずさんな経営や、障害者の就労を支援するという目的とはかけ離れた運営の実態について伝えていた。障害と言っても一人ひとり千差

万別で、それぞれの個性を生かしながら、社会とつながり、必要とされていくことが就労の意味だと言う、障害者雇用に関する重要な問題に切り込んだ有意義な番組だった。

- 12月14日(金) @okayama 「ともに働く」を見た。障害者の就労支援事業を営むと一人当たり国からどれだけの助成金が得られるかなど、この番組で初めて知った。

(NHK側)

どちらの「@okayama」もスタジオにゲストを招いて話を聞きながらテーマについて掘り下げるスタイルだったが、「岡山の未来は 起業家にあり！」ではゲストの数が多く、それぞれの話をきちんと聞けなかった反省もあって「ともに働く」ではスタジオゲストを一人に絞って、しっかりと話を聞くようにした。事業所閉鎖問題については地域のニュースで継続的に伝えてきたが、今回、番組としてまとめることで、助成金の仕組みやその問題点、問題解決に取り組んでいる人の活動などについて、分かりやすく伝えることができた。

- 11月16日(金) “テッパン” 話仕入れました！広島かたすみ食堂「三次のレトロ自販機&竹原のアイドル魚」を見た。レトロなうどんの自動販売機が今も現役で地元の人たちの間で人気があることに驚いたが、実は地元食材を使った商品を提供していたり、地元の人が毎日自販機を大切に手入れしているといったエピソードが心に残った。竹原で愛されている地魚についてと一緒に放送していたが、全国各地に残っているレトロ自動販売機のことなど他にも知りたいことがたくさんあったので、レトロ自販機だけで一つの番組としても良かったと思う。VTRに登場した取材ディレクターが「なんとも言えない味」と表現していたのは良くなかった。最初、おいしくないのかと勘違いしてしまった。

(NHK側)

番組で紹介した三次市のレトロ自販機については、自販機の前に集う人々の織り成す人間模様などほかにも取り上げたい話題もあった。

こうした反省も踏まえ、12月の放送回からは一つのテーマに絞って掘り下げて伝えるようにしている。ディレクターのコメントについては視聴者からも厳しい意見を頂いた。ディレクターが出演し自らの言葉で表現する場面も増えているので、若手のうちから適切な表現ができるように指導していきたい。

- 11月16日(金)さんいんスペシャル「近藤泰郎のこんな所に弥生時代!？」を見た。番組で取り上げていた、鳥取県鳥取市の青谷上寺地遺跡については全く知らなかったが、最新の調査結果についてバラエティータッチで説明していたのが分かりやすかった。島根県内にも古代遺跡が数多くあるが、あまり勉強的にならずに地域の歴史について伝えることで多くの人に興味を持ってもらえると思うので、これからも同様の演出の番組に期待したい。

(NHK側)

6月8日(金)に放送したさんいんスペシャル「近藤泰郎のこんな所に城下町!？」の第二弾として制作した。他の自治体からも取材要望がくるなど、この番組への関心も高まっており、今後、この演出方法で地域を見つめる番組に取り組んでいきたいと考えている。

- 12月14日(金)Yスペ!「ザ・ディレクソン in 山口」を見た。若い人たちが山口に対して日ごろから抱いている「ディスる(否定的な意見を言う)」ことを「山口をもっとステキな場所にしたい」という“山口愛”の裏返しととらえて番組にしていこうとする試みがおもしろかった。どんな番組になるのか分からないリスクを受け、視聴者が見てみたいと思う番組を提案してもらい、新しいことにチャレンジしようとする姿勢がすばらしい。

(NHK側)

Yスペ!「ザ・ディレクソン in 山口」は東京の制作チームと共同して制作した。12月24日(月)にはディレクソンから生まれた特集番組、Yスペ!特番「Nフェス!ディスIS山口愛」(総合 後1:05~1:50 山口県域)を放送する。ディレクソンの中では他にもすてきな

アイデア、提案が出ていたので、ほかの番組でも活用していきたい。

- 「しまねっとNEWS 610」の中で放送していた“シリーズ平成”というシリーズは、平成の出来事を振り返るような中国各県の話題を取り上げていて、興味深く見ている。

(NHK側)

“シリーズ平成”は、中国地方の各局の報道グループが協力して、中国地方の平成の30年間を振り返るシリーズとして企画した。広島局が旗振り役となって、各局から提案を募ってラインナップを決めて、それぞれの地域の午後6時台のニュース情報番組の中で放送している。このほかにも、過疎や産業振興など中国地方共通の課題に対しては域内5局が協力して取り組んでいる。

- 12月7日(金)ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「がんばれ！後継ぎ～“大廃業時代”を乗り切るには～」を見た。後継者が決まっていない企業の割合を都道府県別に見ると、中国地方の各県が上位を占めていることに驚いた。番組では事業継承の解決策について伝えていたが、そもそも中国地方に後継者がいない企業がなぜ多いのか知りたいと思った。また、成功例だけでなく、失敗例も紹介することで、視聴者に問題の深刻さが伝わるのではないか。このテーマについては、今後も引き続き取り上げてもらいたい。

(NHK側)

ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「がんばれ！後継ぎ」は、10月の番組審議会でも話題になっていた島根県域放送の「しまねっとNEWS 610」のレポートを発展させて、中国地方全体の共通の課題として、他地域での取り組み事例も交えて取り上げた。中国地方は過疎や高齢化が進んでいることを前提として今回の問題を取り上げたので、そもそもなぜ中国地方で事業継承が困難になっているかの説明は不十分だったかもしれない。中国地方にとって非常に深刻な課題だと捉えているので、今後も取り上げていきたい。

○ 12月7日(金)ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「がんばれ！後継ぎ」を見た。「しまねっとNEWS 610」でレポートした時とは異なり、今回は、東京や大阪など他地域での事例が取り上げられていたのが参考になった。今回は親子問題に焦点を当てていたが、事業継承にはさまざまなケースがある。この課題を継続して取り上げ、全国のさまざまな事例を紹介すると良いと思う。ただ、スタジオ出演していたゲストの背景についての説明が少なかったので、どのようなキャリアを持った人なのか分かるコメントの説得力が増したと思う。

○ 12月7日(金)ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「がんばれ！後継ぎ」を見た。親子で事業継承をする場合に、仲を取り持つ人の存在が大切だという指摘があったが、自分自身の経験でも親の仕事を受け継ぐ際に第三者のアドバイスがあつて上手くいったことがあり、良い指摘だったと思う。継続的に取り上げ、中国地方での成功例など全国にも発信して行ってほしい。

(NHK側)

山口県は歴史的に都会志向の強い若者が多いと言われており、大学入学を機に上京しそのまま都会で就職し定年まで帰ってこない人が多いことが事業継承における課題になっている。今後、山口県域放送でもこのテーマに注目していきたいと考えている。

○ 12月6日(木)「ひるまえ直送便」を見た。杉浦圭子アナウンサーのサーロー節子さんへの単独インタビューを伝えていたが、彼女の核兵器廃絶へのメッセージだけでなく、その生き方や人間的な魅力も伝わってきてすばらしかった。生活情報が中心の通常の番組内容からすると異質な企画だったと思うが、内容が良ければ視聴者には必ず届くと感じた。広島には他にもそれぞれのジャンルで自らの生き方を貫いてきた魅力的な人物がいるので、その人たちの話をじっくりと聞くインタビュー企画に期待したいと感じた。

(NHK側)

「サーロー節子さんへの単独インタビューは、今回、杉浦アナウン

サーが広島局に異動し、「ひるまえ直送便」を担当した当初からの目標だった。自ら手紙で出演交渉し、今回の帰国に合わせて、忙しい中、単独インタビューが実現した。より多くの視聴者の方に届けるために「ひるまえ直送便」のほか、「お好みワイドひろしま」や「ひろしまコイらじ」の中でも放送した。

- 12月6日(木) ネーミングバラエティー 日本人のおなまえっ! 「京都お名前修学旅行 銀閣寺の謎」を見た。京都の名所を巡って、その名前を探る内容だったが、出演していた芸人のコメントが相手を茶化した失礼な言い方ばかりで笑いに転化できていなかった。NHKの番組でもお笑い芸人やタレントがたくさん出演しているが、単に人気があるから、というだけでなく、適材適所で起用してもらいたい。

(NHK側)

NHKの番組が若い人にあまり見てもらえていないという課題に対して、出演者の人選も含めて色々と工夫しているが、キャスティングについては視聴者のほか、番組審議会でも多くの意見を頂いている。今回頂いた意見も持ち帰り、制作現場と共有したい。

- 12月9日(日) 日曜美術館 「“決闘写真”を撮った男 林忠彦」を見た。太宰治とのやり取りなど、文豪との人間的なエピソードなどが紹介されていて興味深かった。映像の作りも良かった。

(NHK側)

今回、山口県の周南市美術博物館を紹介した。得てして文化情報も東京に偏りがちだが、地域の文化を発信する良い機会になったと思う。

- BS1では12月10日(月)から16日(日)までを「地域応援ウィーク」として、各地の放送局が制作した番組を放送していた。11日(火)には中国・四国の番組を集中的に放送していた。教育や地域づくりに携わっている人が関心を持つだろう番組もたくさん放送していたが、ふだんは忙しくて見られない人が多い。忙しい人にも情報



が届くような工夫や、放送後にもインターネットで番組を見られるサービスが充実すると良いと思った。

(NHK側)

過去に制作した番組を広く活用していくことは、NHKにとって大きな課題だ。放送を太い幹としながら、インターネットでの展開も充実させるなど、より多くの人たちにたくさん見てもらうような視聴機会の拡充を図っていく必要があると考えている。

- 12月4日(火)アナザーストーリーズ 運命の分岐点「衣笠祥雄ラストインタビュー～鉄人 最後のメッセージ～」を見た。連続出場中に衣笠さんに死球を当ててしまった元巨人の西本さんのインタビューなど、これまであまり知られていなかったエピソードや、書き留めておきたい名言の数々が紹介されていて興味深い内容だった。

(NHK側)

衣笠さんのインタビューは3月27日(火)放送のアナザーストーリーズ 運命の分岐点「広島カープの奇跡～弱小球団 30年目の革命～」の取材で収録したものだ。前回の番組で放送できなかった部分も含め、衣笠さんに焦点を当てる形で今回再構成した。衣笠さんの誠実な人柄、ひたむきな生き方が伝わる番組になった。

- 11月9日(金)増田明美のキキスギ? 「ラグビー×ボランティアで何が起きる? あふれ出る裏話」を、「らじる★らじる」で聴いた。2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、スポーツ選手だけでなく、選手や大会を支える人たちのエピソードを知る機会が増えるとよいと思った。また、聴取後にはホームページに掲載されている「増田明美のキキスギ? WEBマガジン」も見た。書き起こしに加えて、収録風景やエピソードに関連した画像を見ることができ、より一層楽しめた。放送を補完するサービスとして、充実させてほしいと思った。

(NHK側)

ラジオ放送がインターネットでも聞けるようになったことで聞かれ

方やリスナー像の把握が容易になり、内容の改善に役立てることが出来るようになった。番組の内容を放送後にホームページで書き起こしや画像でも楽しめるようにする取り組みは「読むらじる。」としてほかの番組でも力を入れていて、好評を得ている。ラジオは災害時の重要性も再認識されており、内容の充実に取り組んでいきたい。

- ラジオを利用した語学学習者にとって、インターネットラジオはクリアな音声で聴けるので聞き取りの学習に役立つ。ラジオ第2の「F r i e n d s A r o u n d t h e W o r l d」では世界各地から届くメールが紹介されていて、非英語圏の地域の人が懸命に英語でメッセージを送ってきている姿を想像しながら、楽しみに聞いている。

(NHK側)

国際放送NHKワールドJAPANでは、テレビ・ラジオ・インターネットを一体のものとして海外発信を展開していて、テレビやラジオを受信できない地域の人たちからもインターネットを通じてさまざまなメッセージが寄せられるようになっている。例えば、熊本地震のときには、NHKのニュースで被害状況を知った、シリアの難民キャンプの少女から励ましのメッセージが届いたこともあった。このようにして世界とつながっていくことが、われわれの財産になっていくと感じている。

- 海外出張時に在留邦人やほかの海外出張者から、せっかくホテルでNHKの国際放送が見られても英語放送しかなくて残念な思いをしたという意見を聞くことがある。せめて英語放送に日本語字幕をつけて放送することはできないかと思う。

(NHK側)

NHKの国際放送には、外国人向けの国際放送（NHKワールドJAPAN）と日本人向けの国際放送（NHKワールドプレミアム）の2つがある。NHKワールドJAPANは外国人向けに国際番組

基準に基づいて作られているなど、日本語字幕をつけて放送するのは難しい面もある。世界各地のホテルに、両方の国際放送を受信してもらえるようお願いする活動を続けていきたい。

(なお、欠席した委員より、文書で次の意見が寄せられた)

- 12月2日(日)小さな旅「開拓の希望 真っ赤に燃えて～鳥取県 大山町～」を見た。テーマ音楽と雄大な景色に山本哲也アナウンサーの柔らかい語り口がよく合っていて、開拓村の人々の苦労や暮らしぶりが爽やかで力強く伝わってきた。特に、香取村を故郷とする一世から四世が入植記念祭で「開拓の歌」を歌う様子には感動した。県外の知人たちからも絶賛の声が届き、誇らしく感じている。

NHK広島放送局  
番組審議会事務局

## 2018年11月NHK中国地方放送番組審議会

11月のNHK中国地方放送番組審議会は、15日（木）、広島放送局において、9人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向、12月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

### （出席委員）

副委員長	上大岡トメ	（イラストレーター）
委員	伊藤 康丈	（イワミノチカラ 代表）
	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館 館長代理）
	坂本トヨ子	（株式会社サカモト 取締役会長）
	佐田尾信作	（中国新聞社 論説主幹）
	鷺見 寛幸	（大山町教育委員会教育長）
	中村 寿男	（有限会社中村茶舗 代表取締役）
	古市 了一	（株式会社ふるいち 代表取締役）
	渡部 朋子	（NPO法人 ANT-H i r o s h i m a 理事長）

### （主な発言）

#### <放送番組全般について>

- 10月26日（金）さんいんスペシャル「断層 ～山陰に潜む地震リスク～」(島根県域・鳥取県域)を見た。2年前の鳥取県中部の地震、ことし4月の島根県西部地震など最大震度5強以上の地震が実際に山陰で発生しているので、深刻に受け止めて見た。鳥取県沖のF5.5断層や津波到達時間の想定が地震発生後11分から7分に見直されたことなど知らないことも多かった。断層や交通工学の専門家の解説を交え、津波や原発事故の避難の課題について25分間にまとめていたのは見やすかった。避難の際に配慮が必要な人をあらかじめ介助が必要な度合いで分類しておくことでスムーズに避難できた具体的な事例を紹介していたのは参考になると思う。一方で、原発の安全性に関連して避難計画の実効性を訓練で検証していくことが大切と指摘していた点はもっと強調しても良かった。

(NHK側)

今回、山陰地方の地震の原因になっている断層に焦点を当て、松江局と共同で津波や原発事故の避難の課題について伝えたが、25分間の中では十分に説明しきれなかったこともあると感じている。今後は伝えるべき内容によって、放送分数も含め柔軟な編成を検討していきたい。

- さんいんスペシャル「断層」を見た。番組の最後で専門家が常に備えることの大切さを語っていたが、備えるためにも情報はとても重要だ。「この地区の避難先はここ」など避難計画の具体的な内容も含めて、継続的に取り上げていってほしい。

(NHK側)

今回の番組では、島根県と鳥取県などが実施した地震と原発事故の複合災害を想定した訓練の結果も踏まえ、県外自治体の避難者受け入れ準備が不十分なことを指摘した。今夏の西日本豪雨災害では、地元住民の避難対応だけで手いっぱい県外からの避難者対応の検討まで手が回っていない現実も明らかになってきた。今後も継続的に取材していくつもりだ。

- さんいんスペシャル「断層」を見た。鳥取県岩美町での津波を想定した避難訓練の様子をレポートしていたが、そのリアルな様子にふだんいかに危機感を持たずに過ごしているか痛感した。足の不自由な方の避難の困難さなどの課題についても理解できて、とても有意義だった。地震と原発事故の複合災害が発生した際の避難の難しさについてデータを示しながら説明していたのが分かりやすかった。隣県の自治体で避難者の受け入れ準備が不十分だという行政の課題を指摘していたのも良い注意喚起になったと思う。まとめの部分で、原発再稼働にあたって国は原発自体の安全性は審査するが、避難計画の実効性についての審査がないことに触れていたが、避難計画の実効性も含めて稼働の判断をすべきだと、番組でもっと強く主張してもよかった。
- 島根原発で事故が発生した場合の避難計画では広島県も受け入れ先になっている

のに、地元住民には計画の内容が伝わっていない。「ラウンドちゅうごく」など中国ブロック向けの番組で中国地方全体の問題として掘り下げるべきだと思う。

(NHK側)

原発再稼働については、原子力規制委員会で原発の安全性について審査することになっているが、避難計画の実効性についても議論すべきではないかという意見もある。そうした議論の状況も含め、中国地方全体の課題として中国ブロック向けに伝えていくことも検討したい。

- 番組にする際には、原子力規制委員会の委員長などにも出演してもらおうと、住民の声が届いているのかなどについて、議論が深まると思う。
- 11月5日(月)～9日(金)の「もぎたて！」を見た。豪雨災害からの復興についてと11月11日(日)開催の「おかやまマラソン 2018」に向けた話題を連日取り上げていて、次の日の放送も気になり見たくなる構成だった。

豪雨災害については、倉敷市真備町でジャズ喫茶をテントで再開したというリポートが良かった。必要とされないのではないかと悩みながらも営業再開に踏み切ったという内容だったが、再開を悩んでいるほかの事業者を後押しするだけでなく、先頭に立って営業を再開した店舗に積極的に行くことが復興支援になることも伝えていて、示唆に富むリポートだった。

おかやまマラソンについては、出場するNHKのアナウンサーが地元民放局を訪問しエールを交わす様子を紹介していて、連日楽しく見た。おかやまマラソンは若者も含めて周りの誰かが必ず関わっている大きなイベントなので、こうした放送局同士の交流などもきっかけになって、幅広い年層の視聴者がNHKを楽しんで見るようになると良い。

(NHK側)

災害復興関連のニュースは地元には有益な情報を中心に継続して伝えるように心がけている。ボランティアセンターが真備町に移転したニュースを報じた際には、このニュースをきっかけにまだまだ片付けの人手が必要とされていることが伝わり、放送の翌日からボランティア

参加者数が増えたということもあった。被災地の現状を伝え続けていくことの必要性を改めて感じた出来事だった。

おかやまマラソンの実行委員会に各局とも名を連ねていることをきっかけにして始めた他局との交流は、視聴者から予想以上に好意的な反響があり、NHKに親しみを感じてもらうのに非常に有効だったと思っている。

- 11月2日(金)の「もぎたて！」を見た。60年の伝統を誇る岡山大学吟詩部を紹介していた。今も30名も部員がいて、生き生きと活動している様子を伝えていて、伝統がしっかりと守られていることを頼もしく感じた。あまりスポットが当たらない活動を取り上げると、関心を持つ若者ももっと増えると思うので、今後も積極的に取り上げてほしい。

(NHK側)

岡山はとても大学の数が多いところなので、このような若者たちの活動を今後も積極的に伝えていきたい。

- 10月31日(水)の「しまねっとNEWS 610」を見た。津和野の芋煮を紹介していたが、生産者にも焦点を当て、地域の食とそこに暮らす人々を丁寧に取材していてとても良かった。シリーズで定期的に放送してもらいたい。島根県西部や隠岐諸島などの地域についても積極的に取り上げてほしい。

(NHK側)

県西部の話題は、浜田支局を拠点に毎日紹介できるように取り組んでいる。隠岐諸島は地理的な難しさもあるが、できるだけ隠岐の話題も届けられるように取り組んでいきたい。

- 11月13日(火)の「いろ★ドリ」を見た。以前の番組審議会で鳥取は県東部の話題が多くなりがちだと指摘したが、最近はバランス良く取り上げられていると感じている。キャスターたちの掛け合いも見えていて心が和らぐ感じがして好感が持てる。

(NHK側)

米子支局のスタジオを活用し、県西部の話題を地元から発信していくことは意識している。キャスターはことし4月から入局4年目の五味哲太アナウンサーと鳥取県出身のキャスター2人が週交代で務めている。全員20代で、若いパワーではつらつと伝えている。

- 10月26日(金)「激唱!爆笑!大熱唱!～密着 のど自慢 in北栄町～」(総合 後7:55～8:25 鳥取県域)を見た。10月14日(日)放送の「NHKのど自慢～鳥取県北栄町～」の舞台裏を前日の予選会から紹介していて、250組から20組が選抜される様子を初めて知り、放送本番までにもものすごいエネルギーが注がれていることに大変驚いた。

(NHK側)

以前は予選会の模様を深夜にすべて紹介していたこともあったが、今回は番組の舞台裏としてダイジェストで紹介した。多くの視聴者に好評だったことも踏まえ、次回以降の予選会の放送については今後検討したいと思っている。

- 10月19日(金)さんいんスペシャル「√るーとhigh↑2 アラフォーの夏は終わらない in鳥取市」(島根県域・鳥取県域)を見た。カットの間の取り方が良く、編集のうまさを感じた。鳥取砂丘の映像も美しく、ゲストがロケの模様をイラストで振り返るエンディングも秀逸で、時間がたつのがあっという間に感じるほど楽しめた。来年3月で10年目を迎えるということだが、地元の人に長く愛されている地域番組は珍しいのではないか。どこかNHKらしくない点が長期間にわたっておもしろがられている理由だと感じた。

(NHK側)

「√るーとhigh↑2」は鳥取県域で毎週土曜日午後0時40分から5分間放送しているが、今回は長尺版で、金曜日の午後7時30分から鳥取・島根両県向けに放送した。あまりNHKを見ない人にも「こういうおもしろい演出の旅番組もやるのか」と気付いてもらいた



いという思いで制作している。見慣れていない島根県の視聴者の中には一部戸惑いもあったようだが、おもしろく見てくださった方の声はとても励みになる。

- 周防大島の断水について、地元の窮状については地域のニュースを中心によく伝えられていると思うが、周防大橋と船舶の衝突事故を起こした船会社の責任追及については不十分だと感じている。11月16日(金)放送予定のYスペ!「緊急報告 周防大島町断水」(山口県域)などに期待したい。
- 10月22日(月)鶴瓶の家族に乾杯「縁結びSP!石田純一と島根県飯南町ぶっつけ本番旅」を見た。出雲大社のしめ縄を飯南町で作っていることや、豊かな自然の中での生活を経験するために都会から留学してきている学生など、島根県民でも知らないことが多かった。ゲストの石田純一さんが和やかに進行していて、島根県民の人柄の良さが引き出されていたと感じた。

また、11月12日(月)鶴瓶の家族に乾杯「五輪柔道3連覇!野村忠宏と鳥取県米子市ぶっつけ本番旅」も見た。飯南町の回と同様に地元の人たちの人柄の良さが伝わってきたが、番組で訪れた商店街はシャッターを閉じている店舗ばかりで、深刻な実態があることを目の当たりにすることにもなって驚いた。
- 鶴瓶の家族に乾杯「野村忠宏と鳥取県米子市」を見た。野村さんの誠実な性格が伝わり、柔道をしている中学生とのやり取りなども和やかでよかった。
- 鶴瓶の家族に乾杯「野村忠宏と鳥取県米子市」を見た。市役所の前や商店街に本当に誰もいなくてさみしい印象を私も受けたが、地元の者でもあまり知らないような米子の良さが掘り起こされていて、番組を見てさらに地元のことが好きになった。ただ、野村さんが彼の大ファンと遭遇するなど偶然にしては出来過ぎていると感じてしまった。
- 11月上旬のBSプレミアムの「もっと!広島」キャンペーンでアンコール放送した番組をいくつか見た。そのうちの11月5日(月)イッピン「輝け ガラス一粒の宇宙~広島 グラスビーズ~」(BSプレミアム 前10:25~10:54)、11月6日(火)イッピ

ン「極上の毛先で 心地よく美しく～広島 熊野筆～」(BSプレミアム 前10:25～10:54)は、広島が昔から手工業が盛んで職人たちが力を発揮してきた地域であることを実感できるような内容だった。特にガラスビーズの回では、“職人大国”広島で女性の職人がどんどん進出して力となっていく様子を見られて大変興味深かった。

もう一つ、11月6日(火)「発見！体感！豊穰(じょう)と鎮魂の流れ 広島・太田川紀行」(BSプレミアム 後5:00～5:59)を見た。太田川の源流から瀬戸内海に至る流域の風土をたどりながら、最後には原爆へと至る構成は新鮮で、平和教育にも効果的だと感じた。また、外国語字幕を付けて放送すると海外からの観光客の皆さんにも役立つと思った。

(NHK側)

「イッピン」で取り上げたビーズ会社は非常に進取の気性に富む企業で海外進出を目指すなど注目を集めている。地場産業については女性の進出によって生まれている変化などにも注目して取り上げていきたい。「太田川紀行」での原爆の取り上げ方など、これまでとは違った視点や切り口で原爆を伝えていくことは、私たちにとっても重要なテーマだと思っている。

- 今回の「もっと！広島」キャンペーンを通して、過去に放送した番組は宝物の山だと改めて感じた。せっかく良い番組がたくさんあるのに視聴者が自らアーカイブから見つけ出すのが困難なのは残念。改善されれば教育現場での利活用ももっと進むと思う。

(NHK側)

アーカイブスの利用促進は大きな宿題だが、今回の「もっと！広島」キャンペーンのように、テーマを設定して過去の番組をアンコール編成していくことには、地域放送でも取り組んでいきたい。

- 11月9日(金)～11日(日)に広島で開催した「第40回 2018 NHK杯 フィギュア」に合わせて、岡山県域の番組で高橋大輔選手や田中刑事選手など岡山県出身のフィギュア選手を取り上げてよかったと思う。今回の大会に出場していたわ

けではないが、岡山県はフィギュアスケートが盛んなので多くの視聴者の関心を集めたと思う。

(NHK側)

高橋選手の現役復帰は地域のニュースでも取り上げたが、岡山県出身の選手の動向は今後とも地域放送で取り上げていくつもりだ。

(NHK側)

「第40回 2018 NHK杯フィギュア」にあたっては、長年フィギュアスケート取材している刈屋富士雄解説委員に広島県域放送番組にも出演してもらい見どころを紹介した。このように本部所属の職員にも地域放送に協力してもらおう一方で、広島局所属のアナウンサーも全国放送に出演して得意分野を伸ばすなどして、全体のレベルアップを図っている。

- 10月25日(木)あさイチ「笑いのチカラ！コラボ大喜利SP」を見た。ラジオ第1の「すっぴん！」で毎週放送している「日本一早い！大喜利コーナー」を、「あさイチ」の視聴者にも投稿を呼びかけ、テレビとラジオで同時に放送していた。テレビで見たあと、「らじる★らじる」の聴き逃し配信サービスでも聴けて、2度楽しむことができた。翌週の「すっぴん！」の大喜利コーナーの投稿数が大きく増えたようで、ラジオ聴取者の増加につながる良い取り組みだったのではないかと思う。ほかの番組でもこのようなコラボにぜひ挑戦してほしい。
- 11月5日(月)～10日(土)の連続テレビ小説「まんぷく」を見た。主人公たちの塩作りのシーンは、兵庫県赤穂市が監修したようだが、かつて瀬戸内海沿岸では至る所に塩田があり、製塩業が衰退したあと広大な塩田の跡地が、自動車工場など別の産業に利用されてきた歴史がある。連続テレビ小説で関心が集まるこの機会に中国地方の塩田を巡る物語を番組にしてみてもどうか。
- 11月8日(木)の「天才てれびくんYOU」を見た。島根県江津市からの生中継もあり、安来節をクイズにしたりしておもしろかった。Eテレの子ども番組の中

でも地域の特長を紹介する取り組みも大切だと思った。

- 11月10日(土) SWITCHインタビュー 達人達(たち)「伊東豊雄×小松義夫」を見た。番組でも紹介していた愛媛県大三島でのプロジェクトはしまなみ海道の大三島インターチェンジができたためにさびれてしまった大山祇神社の参道にかつてのにぎわいを取り戻そうという狙いもあったと聞いているが、その点について触れられていなかったのは残念だった。
- 海外出張先で在留邦人の方からNHKの国際放送の内容についての意見を聞くことがある。在留邦人の方たちの意見を聴くための番組審議会のような機関があっても良いと思った。

(NHK側)

国際放送の番組審議会の委員は日本国内の有識者で構成されている。NHKなどにメールなどで寄せられる在留邦人の方々の意見・要望は、番組編成や放送内容に反映するように努めている。

(なお、欠席した委員より、文書で次の意見が寄せられた)

- 周防大橋に船舶が衝突した事故について、被害や影響を地域放送では詳しく伝えていて大変心強い。一方で、きょうも橋に通行止めのおそれがあるためやむをえず欠席したが、全国のニュースでは断水など被害の一部しか伝えておらず、事故のために人やモノの流れが止まり島の産業や生活に深刻な影響を及ぼしていることが十分に伝えられていなくてとても残念に思う。11月16日(金)のYスペ!「緊急報告 周防大島町断水」にはとても期待しているし、この異常事態を全国に積極的に発信してほしい。
- 10月24日(水)「プロ野球ドラフト会議 直前SP!生放送“みんなのカーブ”県民大会議」(総合 後 11:50~25日(木)前 1:30 広島県域)を見た。深夜に気楽な気分で自分も参加している気持ちで見られる番組で、良い意味でNHKらしくなくおも

しろかった。出演者もバランスが良く、どの世代の人も楽しめる内容だった。特に“流しのブルペンキャッチャー”ことスポーツライターの安倍昌彦さんの知識や情報はファンには大変興味深いものだったと思う。ツイッターを使った演出も有効だった。

10月26日(金)ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「原爆との“壁”をなくす」を見た。多くの人が原爆に対して心理的な壁があると思うので、このような番組は平和教育の手法を探る上でとても参考になると思う。為末大キャスターの「数で何人と言われるより、この人の人生に悲惨な出来事があったんだと、一人の人として付き合おうと分かる」というコメントや、ゲストの「核問題・原爆は友人に起きたこと」という言葉に、自分事として捉えるためのヒントがあるように感じた。今までの原爆の悲惨さを伝える番組とはまた違った視点で原爆を考えるきっかけになる番組だった。

NHK広島放送局  
番組審議会事務局

## 平成30年10月NHK中国地方放送番組審議会

10月のNHK中国地方放送番組審議会は、18日（木）、広島放送局において、9人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向、11月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

### （出席委員）

委員長	安井 弥	（広島大学大学院医歯薬保健学研究科 教授）
副委員長	上大岡トメ	（イラストレーター）
委員	伊藤 康丈	（イワミノチカラ 代表）
	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館 館長代理）
	坂本トヨ子	（株式会社サカモト 取締役会長）
	鷺見 寛幸	（大山町教育委員会教育長）
	中村 寿男	（有限会社中村茶舗 代表取締役）
	古市 了一	（株式会社ふるいち 代表取締役）
	渡部 朋子	（NPO法人 ANT-H i r o s h i m a 理事長）

### （主な発言）

#### <放送番組全般について>

- 9月21日（金）ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「追跡！水辺に巣くう謎の“害獣”」を見た。“謎の害獣”というタイトルに興味を引かれて見たが、番組の序盤で害獣の正体がヌートリアであることが示されたあと、被害の実態や分布範囲、日本に導入された理由が順に説明されていた。番組を見ることで湧いてくる「なぜ日本に来たのか」「対策はどうすればいいのか」といった疑問が次々に解決していく番組構成で、最後まで興味を持ってみる事ができた。
- ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「追跡！水辺に巣くう謎の“害獣”」を見た。以前から存在は知っていたが、ため池決壊の原因となるケースもあることなど、今回の番組で新たに学んだこともあった。スタジオ出演していた専門家の解説も詳しくて良かった。番組の最後の為末キャスターの「自然の中で競技していると、本来コ

ントロールできない自然をコントロールしようとしてはいけないと感じる」という言葉に大いに納得した。

(NHK側)

山口局と広島局で共同で制作した。生活圏で見かけることもある「あの動物はなんだろう」という身近な疑問を番組にした。「ヌートリアについて伝える」と初めから言わず、番組の中で「問題の動物はヌートリアだ」と答えを明かすことで、視聴者に関心を持ってもらうようにした。

- 10月5日(金)ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「豪雨3か月 生活再建に必要なこと」を見た。広島と岡山の被災者のリアルな現状がよく伝わった。また、熊本地震の実例など、現状を打開するための具体策も示されており、NHKの取材力の高さを実感した。ただ、キャスターが被災地を取材していたが、圧倒的な現実の前に、的確な言葉が出なかったのは残念だった。スタジオ出演していた専門家が「生活再建のためには安全の確保とライフラインの整備が肝心」と言っていたが、これから政府や自治体の財政がひっ迫していく中で、今までのように砂防ダムを整備していくのは無理だと思う。そのような現実を見据えて、何をどうやっていけばいいのかを伝える視点が欲しかった。また、高齢者ばかりに焦点を当てていて、障害者の視点・課題に触れられていなかったことも気になった。

(NHK側)

被災者の立場に立って、今何が必要なのか、役に立つことを伝えようという思いで、広島局と岡山局の記者・ディレクターが共同で制作した。今回の広島の被災地は過去100年の間に土砂崩れを繰り返している場所も多く、そういった根本的な課題も含めて、長期にわたって継続して取り上げていかなければならないと思っている。障害者の問題については、例えば「ハートネットTV」で放送するなど、別の機会や番組の中で取り上げていきたいと思っている。

- ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「豪雨3か月 生活再建に必要なこと」を見た。番組の冒頭で、被災者アンケートを基に住宅の再建・ローンの返済・地域の復興という3つのテーマに絞ったのが大変分かりやすかった。スタジオの議論の中で

「まずは行政に相談すればいい」という意見があったが、行政が本当に具体的に答えられるのか、被災者が行政の窓口に来たときに、番組に出ていた専門家のように的確に答えられるのか疑問に感じた。また「独りで仮設住宅に住んでいると、まるで鳥かごの中にいるようだ」という被災者の言葉が心に響いた。東日本大震災では東北の被災地に赴き、支援活動を続けてきたが、同じようなことが、地元でも起き、それに対して自分自身が何をすべきかということを考えさせられた。

- 10月8日(月)のアナザーストーリーズ 運命の分岐点「広島カープの奇跡～弱小球団 30年目の革命～」(総合 前8:15～9:15 中国ブロック)を見た。自分も優勝パレードの場にいたので、その時の光景がよみがえりとても感動した。躍進のきっかけになったアメリカ人監督招へいや、若手指導者の育成など、弱小球団の中で当時どのように戦略を立てていったのかにも興味が湧いた。

(NHK側)

広島カープのセ・リーグ3連覇を受けて、今年3月にBSプレミアムで放送した番組を地上波でアンコール編成した。当初は広島県域での放送を検討していたが、カープ初優勝の時のインパクトを考え、各局と相談の上、中国ブロックの放送とした。広島はもとより、各県ともよく見られた。今後もタイミングをとらえた編成に取り組んでいきたい。

- 10月5日(金)の「もぎたて！」を見た。西日本豪雨から3か月の特集だったが、まとめて振り返ることで、豪雨の被害をふかんして捉えることができた。番組独自のアンケートでは、7割の人が心や体に変化が起きたという。豪雨から3か月たったからこそ分かる、さまざまな問題点が浮き彫りになっていた。また、弁論大会で豪雨災害について発表しようとする高校生を取り上げていたが、若い人の目から見た被災地の現状や、これからの自身の使命について伝えようとする姿、表情がとても印象的だった。このほかに、10月12日(金)の@okayama「豪雨から3か月～いま求められること～」や10月17日(水)のあさいち「西日本豪雨から3か月 暮らしを立て直すには」でも、岡山の被災地が取り上げられていたが、電話相談窓口など具体的な例が挙げられており、分かりやすかった。今後も継続して伝えてほしい。

(NHK側)

弁論大会に臨む高校生は、カメラマンの企画だった。災害からの復



興を一高校生の目を通して前向きに描いていた。今回、豪雨災害によって、目の前で奥様を亡くされ、現在みなし仮設住宅に入居しているお年寄りの方にも取材を受けていただいた。迷惑かもしれないと思いつつ、こちらの伝えたいという思いを受け止めていただいた。このような被災者一人一人に目を向けた放送を継続していかなくてはならないと思っている。

- 10月10日(水)の「もぎたて！」を見た。豪雨によるアルミ工場の水蒸気爆発のためアルミ片が飛散した近隣の田んぼで、アルミ片の除去が終わり、耕作を再開したというニュースをレポートしていた。番組では触れていなかったが、作物の安全性が心配になった。また、豪雨災害からの復興だけでなく、高齢化する地域での農業の今後についての大きな問題提起にもなったのではと感じた。さらに、洪水が家に迫る中、避難出来ずに亡くなってしまった障害者の親子についてのレポートには涙が止まらなかった。夕方の地域のニュース情報番組のなかで、これだけの盛りだくさんの内容を伝えることができるということにも感心した。

(NHK側)

障害がある親子の死については、時間をかけて取材し、信頼関係を作っていくことで放送することができた。豪雨災害については、これからも「もぎたて！」を中心に伝えていくが、幅広い視聴者に見ていただくために、金曜午後7時30分の番組をはじめ、さまざまな時間帯の番組にも展開していきたい。

- 9月14日(金)のYスペ!「出張COOL JAPAN in 山口」を見た。全国放送の「COOL JAPAN」が好きなので、今回の再編集版もとても楽しく見た。広島を訪れる多くの外国人観光客は、広島を見終わると、東京に帰ってしまう。今回の番組などもきっかけに山口にも興味を持って、足を延ばしてくれたらいいと思う。
- 広島を訪れる外国人観光客の多くが広島に宿泊せず、日帰りで関西方面に戻ってしまうという課題もある。外国人や修学旅行生がどうしたら中国地方で泊まってもらえるか「ラウンドちゅうごく」などで取り上げてほしい。
- 10月12日(金)のさんいんスペシャル「殿が育んだ茶の湯の街～松平不昧と松江

～」を見た。松平不昧が育て、広めた抹茶・茶道具・和菓子・料理など茶事に関わるものが今の松江に息づいていることが伝わり、大変楽しく見た。職人に対して不昧が「こういうものを作るように」と具体的に指示していたことなど、知らないこともあり勉強になった。

- さんいんスペシャル「殿が育んだ茶の湯の街～松平不昧と松江～」を見た。短い時間の中で、しっかりと松平不昧の足跡や歴史、今の松江の生活を伝えていた。島根県出身で、東京で活躍しているブロガー・西村愛さんの視点や言葉を使おうというねらいは良かったが、内容が盛りだくさんだったため、西村さんの視点を生かしきれていなかったのは残念だった。
- 10月12日(金)の「しまねっとNEWS 610」を見た。中小企業の後継者問題について伝えていたが、これはとても重要なテーマだ。何か良い解決策がないか、引き続き取り上げてもらいたい。また、ディレクターの紹介の際に、「父親がサラリーマン」とスーパーしていたが、意図がよく分からなかった。

(NHK側)

人口減少や少子高齢化が進む中で、事業継承は非常に深刻な問題だ。今後も継続して取材していきたい。担当ディレクターの紹介スーパーは、アナウンサーやディレクターに親しみを持ってもらおうという意図で入れている。ちょっとした遊び心でつけているので、そのコメントも楽しんでいただければありがたい。

- 10月12日(金)の「しまねっとNEWS 610」を見た。中小企業の事業継承問題では、なかなか踏み込めない親子の問題についてもよく取材し、分かりやすく伝えていた。島根県は課題先進地という側面もある。若いディレクターたちが取材しローカル放送で取り上げた課題でも、話題性があれば全国にも発信できるのではないかと思った。

最近、逆L字画面に雨雲レーダーを組み込んでいるのを見た。雨雲の動きが見えることで、自分の地域の危険性を予測できるのでよいと思うので、レーダーの見方についても折に触れて解説してほしい。

(NHK側)

「しまねっとNEWS 610」には「しまてん！」という気象予報士が気象解説をするコーナーもある。このコーナーも活用して、さまざまな情報を伝えていきたい。事業継承問題は「ディレクターズ・ラボ」というコーナーで伝えた。このほかにもさまざまな課題を取り上げているが、数分の短いコーナーなので、さらに取材を重ね、金曜午後7時30分の番組などに展開していくことにも取り組んでいきたい。

- 10月6日(土)、13日(土)の√るーと5min。「やしろとマツダと太郎ちゃんの夏の思い出～その1、2～」を見た。来年3月で10年になるそうだが、たった5分の番組だが、ばかばかしい内容が面白く、また次が見たくなる。10月19日(金)のさんいんスペシャル「√るーとhigh↑2 アラフォーの夏は終わらない in 鳥取市」も楽しみにしている。ただ、ゲストでボケ役の矢部太郎さんの肩や頭を叩くのは笑いとして理解できるが、効果音までつけるのは少しやり過ぎだと感じた。
- 9月27日(木)放送の「植物に学ぶ生存戦略 話す人・山田孝之」(Eテレ 後11:00～11:30)を見た。植物の、花粉を運んでもらうために、虫をだましたり、色仕掛けをしたり、しかもダメだと思つととつと逃げるといった、全く知らなかった謎めいた生態を、俳優の山田孝之さんがニコリともせず、人間の人生になぞらえて語っていたのがとてもシュールだった。異色かつ冒険的な番組だと感じた。

(NHK側)

「植物に学ぶ生存戦略 話す人・山田孝之」はネット上での反響が非常に大きく、10月11日(木)の総合テレビの「NET BUZZ」の中でも再放送された。開発番組なので、視聴者の反響なども見ながら今後の展開を検討することになる。

- 10月5日(金)の美の壺「天地の恵み 備前焼」を見た。現在活躍している3名の作家を取りあげ、作陶の様子や作品の特徴を紹介していて、伝統的な備前焼とはまた異なる若い人にも興味を持ってもらえるような新たな備前焼の魅力を伝えていた点が良かった。
- 9月22日(金)の聖火のキセキ「鳥取 人生を変えた運命のリレー」を見た。番

組で紹介されていた、今は閑散としている旧米子市役所の前で撮られた昔の写真が印象に残った。聖火リレーを見るために市役所の周りにもものすごい人数の市民が集まっている様子を、涙が出るほど感激した。オリンピックに対する当時の市民の熱望が伝わってきた。リポーター役の鳥取出身の元バレーボール選手の山本隆弘さんや、声優の満仲由紀子さんのナレーションも素晴らしかった。

- 9月21日(金)の「にっぽんトレッキング 100「神宿る山 聖なる力を求めて～宮島&大山～」(総合 後 7:30～8:29 鳥取県域)を見た。大山の峰の一つ、山岳信仰のつながりのある船上山を取り上げていた。登る人の少ない峰だが、ドローンを使った撮影などで山の魅力を紹介していた点はとても良かった。ただ、番組の中で使っていた、大山の登山地図にあしらわれていたネズミの絵が、おそらく大山に生息するハタネズミだったと思うのだが、ハタネズミには見えなかった。

10月6日(土)に再放送していたグレートトラバース3 日本三百名山全山人力踏破 第五集「大縦走！中国山地&六甲山」(BSプレミアム 後 1:30～2:59)では“シモツケ”という植物の名前が“シモツケソウ”と表記されていた。

(NHK側)

動植物の名称などについては、取材先や取材段階でお世話になった専門家にチェックを受けた上で放送するのが一般的だ。指摘のあった2点については、担当に伝える。今回県域で放送した「にっぽんトレッキング 100」のほかにも、他部局が制作した大山関連番組は多くあるので、季節感も意識しながら、適宜編成していきたい。

- 広島カープが優勝した9月26日(火)の「ニュースウオッチ9」を見た。スポーツコーナーで最初に取り上げるのかと思ったら、大谷翔平選手のケガのニュース、その次が日本女子オープンゴルフ選手権の展望で、3番目の扱いで、視聴者の感覚と合っていないのではないかと感じた。

(なお、欠席した委員より、文書で次の意見が寄せられた)

- 10月5日(金)の「第73回国民体育大会～福井しあわせ元気国体～陸上」を見た。中継がサブチャンネルになる前にサブチャンネルの見方の案内が出たのが分かりや

すかった。まだ見方が分からない人も多いと思うので、今後も継続してもらいたい。

10月5日(金)放送のラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「豪雨3か月 生活再建に必要なこと」は、豪雨の意識が薄らぎ、新たな課題を提示していて、良いタイミングでの放送だった。災害リバースモーゲージや弁護士会、水災補償についての問い合わせ先もスーパーで案内し、為末キャスターの疑問にも専門家が的確な回答をしていて分かりやすかった。全国の被災地の取り組みも初めて知る事が多く、勉強にもなった。ただ、大切な話をしている時に、視聴者の意見をスーパーで表示すると気が散ってしまうのでタイミングにはもう少し気を遣ってほしい。

NHK広島放送局  
番組審議会事務局

## 平成30年9月NHK中国地方放送番組審議会

9月のNHK中国地方放送番組審議会は、20日（木）、広島放送局において、10人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず「平成30年度後半期の国内放送番組の編成」について説明があったあと、「平成31年度の番組改定」も含めて意見交換を行った。続いて、放送番組一般について活発に意見交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向、10月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

### （出席委員）

委員長	安井 弥	（広島大学大学院医歯薬保健学研究科 教授）
委員	伊藤 康丈	（イワミノチカラ 代表）
	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館 館長代理）
	坂本トヨ子	（株式会社サカモト 取締役会長）
	坂本 直子	（走健塾 ランニングアドバイザー）
	佐田尾信作	（中国新聞社 論説主幹）
	中村 寿男	（有限会社中村茶舗 代表取締役）
	古市 了一	（株式会社ふるいち 代表取締役）
	松嶋 匡史	（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン 代表取締役）
	渡部 朋子	（NPO法人 ANT-H i r o s h i m a 理事長）

### （主な発言）

< 「平成30年度後半期の国内放送番組の編成」 および

「平成31年度の番組改定」 について >

- Eテレではティーンズ向けの番組を午後7時台に編成しているとのことだが、その時間に放送してターゲットの年代に見てもらえているのか疑問を感じる。若い人に見てもらふことは大切だと思うので、ターゲット層の視聴好適時間帯の分析やPRに力を入れてもらいたい。

### （NHK側）

ティーンズといっても実際に見ているのは小学校高学年から中学生

のローテーションが中心。その年齢層にとっては見やすい時間帯ではあり、少し年長の世代の世界を垣間見るような、興味を持ってもらえる内容・テーマの番組を編成している。さらに上の世代にも見てもらえるように努力している。

- 4K8K放送の視聴方法や視聴に必要な設備についてよく分かっていない人は多いと思う。周知・PRに力を入れてほしい。
- 若い世代はテレビ画面でも、インターネットに接続して動画サイトのコンテンツを見るようになっている。ネット動画を活用してテレビのコンテンツをPRするなど、ネットとの連携を強化し、若い世代に届く機会を増やしてほしい。

#### <放送番組全般について>

- 8月6日(月)特集ドラマ「夕凧(なぎ)の街 桜の国2018」(総合 後7:30~8:43)を見た。被爆者役を演じた、主演の川栄李奈さんは難しい役をよく演じていて、大変よかった。

そして、原爆投下直後の惨状を描写するのに使われていた、広島市立基町高校の生徒が被爆者の話を聞いて描いた「原爆の絵」の持つ力がすごく、効果的に使われていたと思う。

ただ、被爆2世の人生についてももう少し深く描かれていたらもっと良かった。「被爆者の家族もまた被爆者になる」という面もある。次の世代の人生に及ぼす影響が、演技を通して表現されていれば、物語により厚みが増したのではないか。

#### (NHK側)

今回のドラマの中での被爆2世の人生の描き方はさまざまな検討を重ねた。できれば多くの若い世代に共感を持ってもらいたいという思いで、さらに次の孫の世代・被爆3世の感じ方に重点を置いて描くことにした。

原爆投下直後の惨状をどのように表現するか、制作チームの中でも議論になった。ドキュメンタリーでは現実に起きたことだと伝えるために凄惨な写真でもそのまま使用することが多いが、今回のドラマでは想像力を喚起することを狙って、高校生の描いた「原爆の絵」を使

用することにした。若い人たちの反応が気になり、放送中、SNSでの反響も確認したが、初めて見て驚き、もう見たくないと思いつつも、目を背けてはいけないという意見が多く見受けられ、若い世代に8月6日の惨禍を伝えるのに効果的な演出だったのではないかと考えている。さまざまな意見を踏まえ、これからの伝え方について考えていきたい。

- 8月12日(日)NHKスペシャル「“駅の子”の闘い～語り始めた戦争孤児～」を見た。戦争孤児の戦後の苦難の人生に心打たれた。戦争の理不尽さを伝える出色の番組だったと思う。まだまだ伝えられていないことがあるのだと感じた。

また、残酷表現について、最近では悲惨な場面の映像を使用しない傾向が強いが、子どもたちに事実を伝えるためにはある程度は必要だと思う。

(NHK側)

戦争の惨禍を伝えていく、悲惨なものでも事実として映像で伝えていくことについては、価値観の変化も踏まえながら議論し、伝え方を検討していきたいと考えている。

- 9月18日(火)の「いろ★ドリ」を見た。連合軍兵士と日本人の間に生まれた孤児のための施設、エリザベス・サンダース・ホームの名前は知っていたが、鳥取県と深い関わりがあったことは知らなかった。施設で育った老人が、幼いころ夏を過ごした鳥取県岩美町の海を訪れ、亡くなった弟の散骨をするシーンは印象的で、スタジオでのコメントも思いがこもっていて心を打つりポイントだった。

(NHK側)

さまざまな分野で地元貢献した方々の歴史を発掘し、伝えていくことは地域の放送局の大切な役割だと考えている。エリザベス・サンダース・ホームと鳥取の関わりについては、今後も継続して取材する予定にしている。

- 8月6日(月)のニュースで中満泉国連事務次長の参加したパネルディスカッションについて伝えていたが、彼女の発言についてニュースの中で字幕スーパーをつけて紹介していた箇所と、実際に会場で聞いていて感じた発言全体の趣旨は異なるように思った。スーパーをつけることで視聴者の理解の助けになる一方で、怖さも感じた。



発言のどの部分を紹介するのか、どのようなスーパーをつけるのか、慎重に判断するようにしてほしい。

(NHK側)

スーパーの文言や発言のどの部分の音声を使用するかは、現場でも大変難しい判断だと認識している。視聴者が分かりやすいように伝える上で有益ではあるが、正確さを保つことを肝に銘じて取り組んでいきたい。

- 8月5日(日)@okayama「岡山を襲った豪雨 ～悲劇を繰り返さないためにすべきこと～」(総合 前7:45～8:25)を見た。キャスターの「岡山でこんなことが起きるとは思っていなかった」というコメントから、安全な場所と思い込むことの怖さ、放送を通していくら避難を呼びかけても逃げない人が多かったことの原因が実感できた。地域コミュニティの責任者が1軒1軒繰り返し避難を呼びかけて回ったことで犠牲者を出さなかった事例を紹介していたが、地域コミュニティにここまでの責任を負わせるのは良くないと感じた。避難の呼びかけ方、特に高齢者への対処の仕方について行政の課題を投げかけていたと思う。

(NHK側)

西日本豪雨災害から1か月の節目に、岡山県内の被害や課題に絞って県内向けに伝えた。岡山県出身のアナウンサーがキャスターを務め、個人的な思いも交えながら伝えた。多くの岡山県民に共感していただけの番組を目指した。

- 「もぎたて！」の豪雨災害関連のリポートの中で、高校生のボランティア活動を紹介していたのが印象に残っている。若者が夏休みに自分の時間を割いて必死に被災地で取り組む姿に感銘を受けた。
- 9月18日(木)の「もぎたて！」を見た。西日本豪雨災害の被災者の仮設住宅への入居が始まったというニュースと関連して、バリアフリー対応の仮設住宅が整備されていないため障害のある方々が困っていることも伝えていたが、同じニュースの中で自治体の担当者からこの課題への対応についても引き出し、伝えていた点は良かった。支援が必要な人は心強く感じたと思う。

(NHK側)

「もぎたて！」では、豪雨災害後のさまざまな課題だけでなく、復興の進捗状況など明るい話題も含めて連日放送している。今回の仮設住宅のバリアフリー対応の課題のように、見過ごされがちな課題も取り上げることで、対応が変わってほしいと思っている。全国各地で災害が相次ぎ世間の関心も移っていても、地元の災害について継続的に伝えていかなければならないと考えている。

- 8月3日(金)の「しまねっとNEWS 610」を見た。西日本豪雨から1か月が経ち見えてきた江の川流域地域の課題について伝えおり、現状を理解するのに役立った。地域住民の意識が課題だと言われているが、今後、防災上の課題や成功事例を放送で紹介することが契機となって、地域住民の間で対応について検証する流れが出来てほしい。  
また、最近、データ放送の使い方を放送で積極的に紹介をしているのは良いことだと思う。

(NHK側)

「しまねっとNEWS 610」の中で、何度かデータ放送の使い方を案内している。台風シーズンはまだ続くので、台風接近の際などにデータ放送を活用してもらえるように、地道に周知に取り組んでいきたい。

- 西日本豪雨、台風21号、北海道胆振東部地震など一連の災害報道について、NHKと民放キー局の災害報道に対する姿勢の差が際立っていたように感じた。被災地では長期間L字画面を続けていたが、ある研究者の報告によると、7月6日午前以降、9日夕方までNHKでは東京でもL字画面での放送を続けていたが、民放キー局では被災地からの生中継はあってもL字画面は無かったという。  
また、北海道胆振東部地震では大規模停電によって主要産業の酪農に大きな影響が生じたが、新聞では早くから報じられていた一方、テレビ、特に民放ではなかなか伝えられなかったように感じる。何が被災地にとって深刻な課題なのか、現地の苦境を伝える報道に努めてほしい。

(NHK側)

西日本豪雨災害にあたっては、特定の被災地に取材が偏らないように、広範な被災地を幅広く取材しその状況や課題を伝えるようにしているが、まだまだ各地の視聴者から取材を求める声が届く。簡易型の中継システムなどの新技術も積極的に活用して取り組んでいきたい。

L字画面を使った放送の内容にはまだ工夫の余地があるように感じている。L字画面で伝える内容はニュースの原稿よりもさらに個々の地区に密着した具体的な情報が求められるが、その区別がうまくできていないケースもあるので、改善していきたい。また、地域に密着した情報を伝えるのにはインターネットやデータ放送のほうが有効なケースもあるので、自治体等の災害情報サイトも含めホームページやデータ放送の使い方の案内にも力を入れている。

- 7月20日(金)ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「自宅で最期を迎えられますか?～変わる終末期の緩和ケア～」を見た。政府の指針の下、終末期もできるだけ自宅療養としていく社会的な流れの中で、地域でどのような動きが出ているかを報告していて、少し重い内容ではあったが、とても興味深かった。

それまで訪問介護ステーションの無かった地域で新たにステーションを立ち上げ、地域の住民の支援を受けることで経営を成り立たせている事例が紹介されていて参考になった。健康寿命が延びていることを考えると、60歳以上の方の中にも地域貢献型の起業に関心のある人、スキルのある人は多いと思う。中高年をターゲットにしている番組でもこのような取り組みを紹介することで、地域貢献への意識、関心を持てる機会を増やすと良いと思う。

(NHK側)

医療費削減のため入院期間を短くしようという流れの中で、希望に反して強制的に自宅に返されているケースが増えているのではないかという疑問から取材を始めた。

番組で紹介した訪問看護ステーションの取り組みは10年ほど続いている息の長い取り組みだが、成功要因を個人の資質や熱意に求めるだけでは他の地域の参考にならないので、どのような条件で事業が成り立っているのか分析し、丁寧に紹介した。

地域住民のニーズのあるサービスと、地域貢献の意欲がある人のマ

ツチングが、山間地域を含め中国地方で大きな課題になってくるので、今回紹介した取り組みが参考になればよいと思う。

- 8月31日(金)ラウンドちゅうごく「笑顔がつないだ“熱い”夏～佐伯高校 女子硬式野球部～」を見た。女子硬式野球部員たちのひと夏を追ったドキュメンタリーだった。ナレーションを女子野球選手の片岡安祐美さんが担当していたが、本人の野球経験、野球への思いが込められた聞きやすいナレーションだった。大会はコールド負けだったが、部員はみな笑顔で、大会に至るエピソードも含め、スポーツを通して成長していく素晴らしさをよく伝える内容だった。教育関係者や中高生にもぜひ見てもらいたいと思ったが、子どもたちにも興味を持ってもらうためにはタイトルの付け方に工夫が必要だと感じた。

(NHK側)

佐伯高校は中国地方で女子硬式野球部がある唯一の高校で、中国地方各県から部員が集まっている。実は、部員たちは地元の人たちの家にそれぞれ下宿していて、それに対して自治体も補助金を出すなど、高校存続のため町ぐるみで応援している背景がある。高校生たちがいきいきと成長する姿を伝えられたことは良かった。

- 9月7日(金)ラウンドちゅうごく「あなたの大切なものは何ですか？～広島・岡山・鳥取編～」を見た。紹介されている一つ一つのエピソードは良いのだが、その魅力が今一つ伝わってこない。レポートの仕方に工夫をしてほしい。

- 9月14日(金)“テッパン”話仕入れました！広島かたすみ食堂「バラの街 福山でおしゃれに進化する作業服！？編」を見た。おしゃれな作業服が若い人の雇用につながっていることは、この番組で初めて知って驚いた。本職のモデルでファッションショーのように作業服を紹介していたが、実際に仕事で着ているおじさんたちが出てきても、楽しかったのではないかと感じた。

その土地の名産品を使った料理コーナーでは、ゲスト2人が試食していたが、どのような味なのか全く伝わってこなかったのは残念だった。

(NHK側)

もともと繊維産業が盛んだった福山で、その伝統から新しいもの

が生まれてきていることが町の誇りにもつながってほしいという思いで伝えた。今後とも地元の人でもあまり知らない、面白い話の発掘に努めたい。料理コーナーの伝え方は工夫したい。

- 9月14日(金)@okayama「もう一度学びたい～“夜間中学”に集う若者達～」を見た。義務教育の過程で病気やいじめなどが原因で学校に通えずに十分に教育を受けられなかった若者が増えていて、その学び直しの場となっている夜間中学が岡山県ではボランティアで運営されているという実態を伝えていた。番組に登場した、小児糖尿病のため学校に通えなかった若者の勉強への思いが心に響いた。番組は、学び直しの場の必要性を訴えかけて終わったが、ボランティア任せでなく行政の責任で夜間中学が運営されるべきだと視聴者によく伝わったと思う。
- @okayama「もう一度学びたい」を見た。夜間中学がボランティアの力で運営されているという実態に非常に驚いた。夜間中学へのニーズは決して減っているわけではなく、不登校の子どもが増加など以前とはまた異なる理由で夜間中学の必要性が高まっている現実がよく分かった。行政がすべきこと、私たちにできることを投げかけるすばらしい番組だった。

(NHK側)

夜間中学は、各県ごとに設置することが求められているが、設置している都道府県は一部にとどまっている。岡山県も公立のものは無く、ボランティアの力で夜間中学が運営されているものの限界があり、月1回しかできないのが現状だ。まず8月7日(火)の「ハートネットTV」で夜間中学のような学び直しの場の必要性に力点を置いて全国放送で伝えたのち、公立の夜間中学が県内にない現状を伝える目的で、岡山県域放送の「@okayama」に展開した。番組で取材した若者たちが顔を出しての放送に応じてくれたこともあって、非常に説得力のある番組になったと思う。

- 7月20日(金)「どうなってるの？島根原発3号機」を見た。とっつきにくい話題だが、人形を使った演出などのおかげで幅広い層が見やすい番組になったのではないか。県民に向けて島根原発3号機の新規稼働の現状・課題を分かりやすく伝えており、客観的な内容だったと感じたが、廃炉や安全対策、再生エネルギーなど原発を取り巻

くさまざまな課題や世界の動向についても伝えてほしかった。北海道胆振東部地震の際に北海道全域で停電が発生したことで、電気の重要性やエネルギー問題への関心が高まっていると思うので、継続して伝えるようにしてほしい。

(NHK側)

7月に島根原発3号機の新規稼働申請に向けた動きがあることを踏まえ、原発の現状と課題を分かりやすく伝えることに主眼を置いて放送した。なるべく幅広い方々にも見ていただけるように、解説に人形を使うなど演出にも工夫した。

- 「どうなってるの？島根原発3号機」を見た。人形を使った演出もあり、子どもと一緒に見ることができた。番組全体の印象としては、やや反原発のトーンが強いように感じた。経済的な恩恵や廃炉の経費などもっと掘り下げる必要のある側面や課題もある。その一方で、市民の多数が避難の対象になる松江市をはじめ多くの県民に関わる問題なので、継続して取材してもらいたい。

(NHK側)

島根原発は全国で唯一県庁所在地に立地しており、原発から10キロ圏内には県庁のみならず、島根県警察本部、NHK松江放送局なども位置している。万が一避難が必要な事態が起きれば、隣県も含め避難受け入れを要請する想定だが、自治体の準備が不十分という課題もある。引き続き取材を続けていきたい。

- 島根原発で事故が起きた場合の避難経路の中には広島県も入っており、自宅のそばの公園も原発事故時には駐車場として利用する計画になっている。また、風向きによっては被害は同心円状に広がるのではなく、南側に広がる可能性もあると思う。このように、中国地方に広く関わる可能性のある問題であり、また、避難してきた方々にどのような支援が可能か考えるという視点でも、島根県・鳥取県だけでなく中国地方向けの放送でも取り上げてほしい。

(NHK側)

確かに原発事故が起きた場合、被害が中国地方全体、あるいはさらに広い範囲に及ぶ可能性もある。今回の番組は松江局の制作で島

根県・鳥取県での放送だったが、原発に関しては広島局発のニュース・番組でも取り上げていきたい。

- 9月14日(金)さんいんスペシャル「ごはんがつなぐ みんなの居場所～鳥取・倉吉～」を見た。注目されている「子ども食堂」に似た、子どもだけでなく高齢者も集う、地域の人たちが交流できる場を運営する女性の活動を取り上げていた。その奮闘ぶりが伝わってきたのは良かったが、鳥取県中部の地震との関わりなど設立するまでの曲折に触れても良かったのではないか。

(NHK側)

今後、同様の取り組みをしたい人の参考になるので、設立までの経緯については、紹介しても良かったと思う。都会では子どもの貧困が注目されるが、今回の番組を通して、地方だとお年寄りの孤立が大きな課題だと改めて思った。子育てする母親の孤立も課題だ。人口減少が進む地域社会の中で、人と人との結びつきをどう作るかは重要なテーマだと改めて実感している。

- 9月14日(金)Yスペ!「出張COOL JAPAN in 山口」を見た。外国の方ならではの視点は、地域興しに大変役立つ。ぜひ行ってみたい場所や、やってみたいことがたくさん紹介されていたが、どこへ行けば体験できるのか詳しい情報があるととても良かったと思う。

(NHK側)

この番組はもともとBS1で全国放送した番組を、山口県向けに再編集して放送した。山口局は今年度から地域放送サービス強化のパイロット局になっており、総合テレビの金曜夜7時30分からの番組枠を中心に山口県向けの番組の充実に取り組んでいる。その一環で、山口局で制作した番組に加えて、今回のような山口県の話を取り上げた全国放送番組を県内向けに展開することも増やしている。

- 9月8日(土)ブラタモリ「#111 鳥取砂丘」を見た。案内役を務めた地元の専

門家が、地質学的な鳥取砂丘の特徴を解き明かすことで、地元につながる神話と地形の関係など、地元の人も知らないような地域の魅力がどんどん伝わってきて引き込まれた。ただ、今回の番組の内容は、登場した地元の専門家を地域放送で先に起用していれば、全国放送で紹介されるよりも前に地域に向けて伝えることが出来たのではないかとも思った。最近では地元の歴史や特徴について学習することが重視されるようになってきている。このような観点からも、地域の特徴や魅力を発掘し、紹介することに努力してもらいたい。

(NHK側)

地元の魅力や特徴を分かりやすく紹介できる地元の専門家などの発掘にいっそう努力し、さまざまな魅力を地域に向けて先んじて取り上げられるように努めたい。

- 9月9日(日)さわやか自然百景「島根 地倉沼」を見た。地元の人も知らないような地域の魅力を全国に向けて発信してもらええることは地域振興につながり、非常にありがたい。
- 9月8日(土)NHKスペシャル 未解決事件 File.07「警察庁長官狙撃事件 ドラマ 容疑者Nと刑事の15年」(総合 後 9:00~10:30)を見た。この事件について、当時、あまりに手が込んでいる犯行に、一連のオウム関係事件の中では極めて異質で異常な事件だという印象を私も持っていた。実際、別の事件の容疑者だった中村泰が犯行を自供しているにも関わらず、公訴時効を迎えてしまった。刑事と公安の対立という警察内部の暗闘が事実上のテーマなだけに、思い切った番組づくりに頭が下がった。また、ドラマでは、その中村をイッセー尾形さんが好演していて、ドラマとしても面白かった。
- 「みんなで筋肉体操」(総合 8月27日(月)~8月30日(木) 後 11:50~11:55)をネット上で話題になっていることがきっかけになり、私も気になって再放送で見た。話題になっている通り、ツッコミを入れたくなる場所が随所にあって、新しい番組作りに挑戦していると感じた。今後の展開に期待したい。

(なお、欠席した委員より、文書で次の意見が寄せられた)



- 8月9日(木)「病院ラジオ」(総合 後 10:00~10:44)を見た。お笑いコンビ・サンドウィッチマンの2人が自分たちでラジオブースを立ち上げる光景は、手作り感満載で温かみを感じた。2人の話の聞き方が上手で、ゲストとしてブースにやってくる患者も家族も安心して明るく前向きに話せていた。日頃面と向かっては言えない家族への感謝のことばに感動した。

9月7日(金)Yスペ!「聖火のキセキ 山口」を見た。聖火リレーをきっかけに、その後の人生が変わった人たちのエピソードは54年たった今でも、とても新鮮で心を揺さぶられた。強い思いの火は消えることなく、つながっていく。まさしく聖火リレーのようで、見応えのある25分だった。

- 9月14日(金)さんいんスペシャル「ごはんがつなぐ みんなの居場所~鳥取・倉吉~」を見た。核家族化が進み、家族内でのコミュニケーションが不足したり、近所の人たちとの交流が減少したりする現代の課題を解決する方策のひとつとしての「子ども食堂」の役割がよく伝わった。

NHK広島放送局  
番組審議会事務局

## 平成30年7月NHK中国地方放送番組審議会

7月のNHK中国地方放送番組審議会は、19日（木）、広島放送局において、10人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向、8月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

### （出席委員）

委員長	安井 弥	（広島大学大学院医歯薬保健学研究科 教授）
副委員長	上大岡トメ	（イラストレーター）
委員	伊藤 康丈	（イワミノチカラ 代表）
	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館 館長代理）
	坂本 直子	（走健塾 ランニングアドバイザー）
	佐田尾信作	（中国新聞社 論説主幹）
	鷺見 寛幸	（大山町教育委員会教育長）
	中村 寿男	（有限会社中村茶舗 代表取締役）
	松嶋 匡史	（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン 代表取締役）
	渡部 朋子	（NPO法人 ANT-H i r o s h i m a 理事長）

### （主な発言）

#### <放送番組全般について>

- 西日本豪雨災害について、7月9日（月）ニュースウオッチ9冒頭で呉市安浦町の被害を取り上げていた。ここのほか、東広島市安芸津町や似島などの島しょ部などほかのメディアであまり報じられていなかった地域の被害を先んじて取り上げていたのはよかった。

ボランティアの受付状況や給水をはじめとした生活情報などの刻々と状況の変化する事柄について伝えるのには、放送、特にラジオの役割が非常に大きいので、引き続き力を入れて放送してほしい。

今回の災害では、23万人もの人口の都市である呉市が1週間にわたり孤立したということも衝撃的だった。今後も継続的な報道をお願いしたい。

(NHK側)

テレビや新聞で伝えられた地域ばかりに注目が集まり、支援物資がそこに集中してしまうという課題がある。また、亡くなった方が多い地域が注目されがちだが、人的被害がなくとも深刻な状況の地域もある。まだ報道できていない地域もあると思うので、幅広く取材しその状況や課題を伝えていきたい。

また、安全管理について、被災地からの中継などでも安全を確保したうえでその旨を伝えながら報道するようにしている。万が一にも二次被害を生じさせないように今後も安全管理を徹底しながら災害報道に取り組んでいく。

(NHK側)

放送には、ボランティア活動の様子や被害の最新状況といった情報が刻々と変わることを速やかに伝えることができる利点がある。被災した方の中にはテレビを見られない状況の方もたくさんいらっしゃるので、テレビとラジオ、それぞれのメディアの特徴を生かした報道を心がけたい。

また、最近はSNSやインターネットで情報を得る方もかなり多い。NHKとしても発災当初から、インターネットを使った情報発信にも力を入れている。

(NHK側)

ラジオ第1では、7日の夜から広島県内向けのライフライン放送を開始した。まず、NHKのラジオ放送でライフライン情報を伝えていることを聴取者に知ってもらうために、初めのうちは30分に1回10分程度ずつ放送した。聴取者に浸透してきたところで、回数を減らす代わりに、長い時間をかけてまとめて伝えるようにし、17日までの間に合計210回放送した。

今回の豪雨災害は被災地域が広範囲にわたったため、給水の情報を全地域分伝えようとするだけで10分近くの時間がかかる。こぼれる地域がないよう伝え方に工夫しながら取り組んでいる。

- 災害に関する情報について、自分で調べるには各機関のホームページをいちいち見なければならぬが、逆L字画面の情報は必要な情報がまとまっていて、非常に見や

すかった。今後、豪雨はもっと多くなるだろうし、中国地方で災害が発生する危険性も高まっていると思うので、放送を通して高齢者をはじめ視聴者に対して避難を強く促す方法を考える必要があると感じた。また、今後は、遠隔地にいながらできる支援の方法についても伝えてほしい。

(NHK側)

同じ降水量でも地域によって被害が異なる。今回の豪雨災害を通じて、中国地方の災害の危険性について改めて認識させられた。

山口からどんな支援ができるのか、今後地域放送番組の中でどのように紹介できるか検討したい。

- 被災地の支援には、直接被災者のみなさんに届く義援金のほか、被災地で活動するボランティアやNPOを支援する支援金がある。特に災害発生直後には、行政などからの活動資金の助成も間に合わず、ボランティア団体やNPOは支援のための資材を購入する資金も不足し、それが初動の遅れにつながっている。被災地支援の一つに支援金もあることをぜひ知らせてもらいたい。

今回の災害では各機関とも最新情報はホームページで周知という方法が取られているが、被災者の中には情報弱者も多く、ホームページを見られない方がたくさんいることにも留意してもらいたい。本当に困っている方に支援が届くように被災地を幅広く取り上げてほしい。

4年前の広島土砂災害を契機に砂防ダムの整備が進んだが、今回の災害は砂防ダムがあるだけでは防災の機能を果たさないことを示しているように感じる。今回のことを教訓にしながら日本国土全部の防災の考え方そのものを考え直す必要があると思う。

(NHK側)

ボランティアの支援金についてはすぐに取り上げたいと思う。

- NHKは深夜も豪雨に関するニュースを続けており、いざという時に頼れる存在だと実感した。愛媛県の肱川の氾濫では上流の野村ダムの緊急放流に際して、サイレンや防災無線で住民に伝えても雨音にかき消されてよく聞き取れなかったと聞いた。影響範囲が狭いことであっても放送で避難を呼びかけることが大切だと思った。

(NHK側)

自治体や行政機関からの発表の有無にかかわらず、人命に関わる情報は速やかに伝えることが原則。避難勧告や避難指示が発令されたら、それが小さな地域であっても速報スーパーなどで放送で伝えるとともに、インターネットなどでも伝えていくことにしている。

- 豪雨時には防災無線は聞き取りづらいので、ダムの緊急放水については地震速報と同じように速報するのがよいと感じた。また、水位や放水量は数値だけでは意味が理解しづらいので伝え方も工夫してほしい。インターネットが苦手な人にはデータ放送も有効だと思うので、日頃から使い方を知らせるようにするとよいと思う。

(NHK側)

ダムの緊急放水の呼びかけ方についてご意見を参考にしたい。また、データ放送の使い方を要所要所で伝えていくことは大切だと考えている。

- 7月6日(金)「しまねっと610」では、江の川流域の状況を詳しく伝えていて、島根県内での被害状況を知ることができた。  
島根県内は比較的被害が少なかったが、翌日には商店の店頭から商品がなくなって驚いた。大都市からの流通が滞ると、食べ物にすら困る状態が起こる。今回の災害の物流への影響についても今後検証してもらいたい。

(NHK側)

昨年7月5日に島根県に大雨特別警報が発令された際の経験も踏まえ、今回も県西部などに大きな被害が出る恐れもあるのではないかと警戒し、準備をしていた。確かに島根県内でも今回の災害が物流に与えた影響は大きかった。どうしても被害の報道に集中しがちだが、今後、社会に与えた影響という観点からの報道にも取り組んでいかなければならないと考えている。

- 今回の災害では、緊迫感を持って交通への影響なども含めて早め早めに情報を伝えていたので、実際の対応に役立った人も多いのではないかと。情報の迅速性と迫真性が重要だと実感した。

特に公共交通機関の情報は非常に参考になったし、支援に関する情報も早い段階か

ら伝えられていて、支援を考えている人だけでなく、被災者にとっても心強い情報だったのではないかと思う。

(NHK側)

公共交通機関の情報については、復旧に時間がかかることを踏まえて、代替手段や復旧の見通しについてなるべく見やすく伝えるように心がけている。

今回、倉敷市真備町で亡くなられた方のほとんどが高齢者で、岡山県は災害が起こらないという県民の中の思い込みが被害を大きくしたのではないかと懸念している。自分たちの住んでいる地域が安全だと決して思い込んではいけないと警鐘を鳴らすことの必要性を痛感した。避難の呼びかけについても、津波警報などと同様に切迫感が伝わるアナウンスの重要性を再認識した。

(NHK側)

交通情報については、当初は運休情報だけだったが、動いている交通機関の情報も加えるなど、被災地のニーズを考えて改善しながら伝えている。

- 7月12日(木)NHKスペシャル「緊急検証 西日本豪雨 “異常気象新時代” 命を守るために」(総合 後10:00~10:45)を見た。異常気象が常態化していることを改めて実感した。それにもかかわらず、過去の経験から、警報や避難勧告が出ていても避難しなかった人が多かったことを知った。対策として、地域でグループを作り全員で避難することを決めて声かけをすることが提言されていたが、過疎地では声かけするための自治組織自体がなくなりつつあり、難しさを感じた。

豪雨時にはケーブルテレビの受信状態も悪くなってしまう。災害時にはインターネット放送も有効だと感じた。

(NHK側)

避難の遅れの問題については、都市部と高齢化の進んでいる集落でどのような差があったのか、具体的にいつ頃どのようなことが起き、誰がどのように行動したのか、さらに取材を進めている。その成果は「クローズアップ現代+」など今後の番組やニュースの中で伝えていきたい。

(NHK側)

災害時には、災害に関するニュースをインターネットで放送と同時に提供することにしており、今回も実施している。ただ、同時提供は全国放送のニュースが中心となるため、ローカルのきめ細かな情報を伝える点は今後の課題だと捉えている。また、ラジオ放送は「らじる★らじる」でインターネット上でも聞くことができる。

- 「らじる★らじる」も、聞ける地域は一部に限られている。災害時だけでも1番身近な地元の放送局のニュースを聞けるようになったらよいと思う。
- 7月13日(金)ラウンドちゅうごく「西日本豪雨の警鐘～命を守るためには～」を見た。中国地方は災害が少ない地域と思っていたが、実際にはもろい地質の地域が多く、今回のような災害が起こりやすい地域だということを実感した。しかし、番組のもう一方の目的の身の守り方や備え方についてはあまり具体的でなく、実際にどうすればよいのか分からなかった。こういう状態になったら早く避難、膝上まで道路が冠水してしまったら外に出ず2階へ避難、など例示があるとよかった。また、必要とされている支援物資について逆L字画面などで伝えているが、必要としている場所に必要な物資を効率よく届けるためにはどうすればよいかについても伝えてほしい。

(NHK側)

取材を進めていくと、自分の住んでいる地域がどのような場所か知っている方は的確に避難していたことが分かってきた。避難指示が発令される前に河川が氾濫してしまったというケースもたくさんあった。結局、自分の暮らしている地域をきちんと知るということが、自分の身を災害から守る有効な備えなのではないかと感じている。改めてまとめて伝えていきたい。

- 「もぎたて！」を見た。岡山で頑張っている方々を紹介するなど、前向きになれる事柄をたくさん取り上げている点が良い。岡山には特徴のある美術館がたくさんあるが、インターネットだと自分の興味のあるものばかり調べてしまい、情報が伝わりにくい。「もぎたて！」のような地域番組の中で地元の美術館などについて伝えると、興味がないと思っていたものについても

新たな興味が湧くのではないかと期待している。

- 7月13日(金)さんいんスペシャル第2部「“観光列車”でGO!」は、山陰地方で新しい観光列車が運行開始するのに合わせ、観光列車について特集した番組だった。観光列車が地域活性化の手法の1つとして有効だということが示されており参考になる内容だったと思う。
- 7月13日(金)さんいんスペシャルを見た。鉄道について詳しい人とそうでない人をゲストにキャスティングしていたので、関心が薄くても見やすい番組になっていた。観光列車の裏側や沿線での取り組みも紹介していたのはよかったが、放送時間のわりに内容が盛りだくさん過ぎると感じた。

(NHK側)

観光列車が地域活性化の一翼を担っているという視点でレポートした。番組で紹介したもの以外の沿線での取り組みについても今後別の形で紹介していきたい。

- 7月13日(金)Yスペ!「山口球児の熱き戦い～夏の高校野球100回～」を見た。甲子園で優勝・準優勝などの活躍をしたチームだけでなく、1回戦で敗退したところもきちんと取り上げていて地元のチームの活躍を知ることができたのはとてもよかった。  
さらに今年の県大会の見どころも紹介すれば、この後の高校野球関連の放送への関心がもっと高まる番組になったと思う。
- 6月17日(日)日曜美術館「外国人を魅了する日本の美術館」を見た。美術館は決して初心者が入りにくいところではなく、さまざまな楽しみ方があるということが伝わった。また、外国人が日本人とは違う視点で庭園に注目していることなど、あまり紹介されない部分にも焦点が当てられていたので、インバウンド対策にも役立つ内容だったと思う。
- 6月22日(金)～24日(日)「第102回日本陸上選手権」(22日(金)BS1 後6:00～7:50、23日(土)BS1 後7:00～7:30、総合 後7:30～8:45、24日(日)総合 後4:00～6:00)を見た。男子100メートルへの関心が高い大会だったが、それ以外の種目についても解説者がよく取材していて分かりやすい中継だった。しかし、5,000メート



ルなどの長距離種目ではレース途中でフィールド種目の中継に移ってしまったのは残念だった。長距離種目に関心のある視聴者のためにワイド画面でも構わないのでレース中盤の様相も伝えてほしい。

また、今回の大会で男子円盤投げの日本記録が出たのに、その後のニュースであまり紹介されていなかった。日頃あまり注目されない競技について伝えることは競技人口が増えるきっかけにもなり得るので、積極的に取り上げてもらいたい。

- 7月8日(日) NHKスペシャル「オウム 獄中の告白～死刑囚たちが明かした真相～」は衝撃的だった。なぜ、これだけたくさんの人たちが関わる事件が起こされたのか。これからも検証が必要な事件だと思った。
- 「チョコちゃんに叱られる！」について、オープニング曲やCG、ナレーションなど演出の細部にわたって往年の人気番組をほうふつとさせる工夫があって興味が尽きない。また、出演者が回答を考えている時の真剣な表情から真実味が伝わってくる点もよい。
- 7月7日(土) ETV特集「“悪魔の医師”か“赤ひげ”か」を見た。修復腎移植の是非を巡る論争について、社会的な意義を考えると、意見の分かれる難しいテーマだと感じた。このテーマについて長期間取材していることがよく伝わってきた。  
万波誠医師の率直な物言いをするキャラクターも興味深かった。  
ただ、修復腎移植が本当に安全なのか番組の中では十分な答えが出ていなかったことは残念だった。証言が医師に偏っている点も気になった。

NHK広島放送局  
番組審議会事務局

## 平成30年6月NHK中国地方放送番組審議会

6月のNHK中国地方放送番組審議会は、21日（木）、広島放送局において、10人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向、7月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

### （出席委員）

副委員長	上大岡トメ	（イラストレーター）
委員	伊藤 康丈	（イワミノチカラ 代表）
	坂本トヨ子	（株式会社サカモト 代表取締役）
	坂本 直子	（走健塾 ランニングアドバイザー）
	佐田尾信作	（中国新聞社 論説主幹）
	鷺見 寛幸	（大山町教育委員会教育長）
	中村 寿男	（有限会社中村茶舗 代表取締役）
	納所裕美子	（アート・プロジェクト株式会社 代表取締役）
	松嶋 匡史	（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン 代表取締役）
	渡部 朋子	（NPO法人 ANT-H i r o s h i m a 理事長）

### （主な発言）

#### <放送番組全般について>

- 6月8日（金）ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「検証 変貌する基地の街」を見た。山口県岩国市のアメリカ軍基地の騒音や安全性の問題について、住民の視点に立って検証していたため、ひと事ではなく自分と関わる事として視聴者が考えることができる内容になっていたと思う。昨年から継続して取材し、適宜番組にまとめていることもとても良いので、今後も継続してもらいたい。

このテーマのように複数の県に関わる問題については、中国地方5県の放送局が1つになって取材し、中国地方だけでなく全国に向け、情報を提供できるようにしていくと良いと思う。

ただ、為末大キャスターが番組の最後で、アメリカ軍基地との向き合い方について、受けたサービスに対してお金を支払う海外の習慣「チップ」に例えて話していたのは、考えが深まる新しい視点だったが、最初に聞いたときには分かりにくかった。幅広い

テーマについての的確なコメントができるようになることを今後、期待したい。

(NHK側)

指摘のとおり、この番組は住民の視点に立つことにこだわって制作し、これから基地とどう向き合っていくのか番組で投げかけた。アメリカ軍基地の集中する沖縄には長年の経験があるが、岩国の取り組みは緒についたばかりなので、これからも継続して取材にあたっていきたい。

(NHK側)

この番組は、山口局と広島局の記者・ディレクターが、共同して制作に当たり、山口県内向けには県域放送の「Yスペ！」として、他の中国地方4県には「ラウンドちゅうごく」として放送した。

為末キャスターの最後のコメントは、地方自治体が、基地の経済的な恩恵のために国に対して物を言えないでいる現状に対して、基地の騒音や安全性の問題については要望をきちんと伝えるべきだという趣旨だと理解している。

私たちとしては、為末キャスターのこうした感性や言葉を通してテーマについて考える番組作りをできるだけ大切にしていきたいので、キャスターと制作者の相互理解を深め、分かりやすい番組作りを心がけながらさまざまなテーマに挑戦していきたい。

- 6月8日(金)ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～のほか、5月25日(金)ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「核廃絶への挑戦は今」を見た。この2つのテーマについて、予備知識がない状態で見したが、為末キャスターが難しい言葉を使わずに説明していたり、スタジオ内の大画面を活用してデータを提示していたり、大変分かりやすかった。

6月8日(金)ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～では、基地に関する世論調査を実施して、地元の人たちの意見を伝えていたのが分かりやすかった。基地の経済効果という良い側面と、騒音問題などの悪い側面、双方を取り上げていて、この問題の難しさについて考えさせられた。

(NHK側)

5月25日(金)ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～では、

為末キャスターから化学兵器や生物兵器など他の大量破壊兵器と核兵器でなぜ注目のされ方が異なるのかという問題提起があった。このような制作者の意識しない視点を生かした番組作りを心がけたい。

スタジオの大画面には、さまざまな可能性を感じているので、映像酔いのおそれに注意しながら、さまざまなデータ・映像をできるだけ分かりやすく提示できるように工夫していきたい。

- 6月8日(金)ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～を見た。冒頭で、実際の戦闘機の騒音を再現していて、大きな音に意表を突かれた。艦載機移転後、騒音回数が増えているという報告もあり、番組を通じて真剣な議論を促したことは良かったと思う。

また、番組の中で、視聴者の撮影した北広島町での訓練飛行中のフレア発射映像を使うことで、この問題が中国地方に広く関わっていることを示した点も良かった。岩国市の担当者のインタビューでは受け答えの様子からも市のあいまいなスタンスが伝わってきたのが良かった。朝鮮半島情勢が大きく動いているので、岩国基地のあり方にも影響があると思う。国際情勢も踏まえ、山口県萩市へのイーゼス・アショア配備計画も含め、今後も住民の視点に立ってこの問題を取り上げてほしい。

(NHK側)

5月24日(木)お好みワイドひろしま「北広島町スペシャル」では別の地元の方が撮影した戦闘機の騒音の映像を使用し、この映像は全国ニュースにも展開した。指摘のとおり山口県だけの問題ではなく、中国地方各県に関わる問題でもあるので、各局連携して今後も継続して取材していきたい。

インタビューの際には、相手の回答ではなく、身振り手振りなどが真実を語るという一面があるということは、機会ある度に後進に伝えていきたい。

(NHK側)

萩市のイーゼス・アショア配備計画については、先日開催された地方説明会を取材しニュースで伝えた。今後も継続して取材していく。

- 周防大島も飛行経路に入っており、最近騒音も増えている。岩国基地の問題については騒音のことを取り上げてほしい反面、観光への影響も懸念されて、大変悩まし

く感じている。

- 6月1日(金)ラウンドちゅうごく「あなたの大切なモノって何ですか？」を見た。一般の人たちの思い出が詰まった品物やその人物について、品物との出会いや、ともに歩んできた人生を紹介していて、ほのぼのとした気持ちになる番組だった。自分にとって大切なものは何だろうかと振り返るきっかけになった。

(NHK側)

「あなたの大切なモノって何ですか？」は「ひるまえ直送便」の中で毎週放送しているコーナーを、2か月に1本程度傑作選としてまとめ、「ラウンドちゅうごく」の枠内で今年度6本程度放送する予定にしている。

リポーターとディレクターが中国地方各地を巡り、基本的にはアポイントなしで一般の人たちを訪ねていき、大切にしている品物とそれにまつわるエピソードを聞き出すスタイル。大切にしている品物の背景にある視聴者が共有できる持ち主の人生の歴史や家族との絆などを見つけることが狙いなので、そうしたエピソードを数多く発掘できるように取り組んでいきたい。

- 6月1日(金)ラウンドちゅうごくの中で、鳥取市内の楽器店の方の大切なものとして紹介されていた本物同様に動くSL模型が大変すばらしく、実際に見てみたいと思った。番組に登場した方の、「人生を豊かにするものが宝物なんだな」という言葉が印象的だった。

ただ、一般の方々のさまざまな大切な品物が登場したが、それぞれのお宝を紹介しただけだと感じた。番組の構成にもっと工夫がほしかった。

(NHK側)

アポイントなしで意外なお宝を見つけることだけにとどまらず、一般の人々の宝物の背景にある人生のドラマに迫れるようにさらに努力していきたい。

- 6月1日(金)“テッパン”話仕入れました！広島かたすみ食堂「熱烈応援！カーブを“忍耐強く”支える男たち編」を見た。スタジアムの天然芝管理のスペシャリストが、普段どのように管理しているのかを紹介していた。グラウンドを美しく保つこと

にプライドを持って取り組んでいることが伝わってきた。

また、山口県岩国市の2軍練習場の人の多さに大変驚いた。ファンの多さ、熱狂ぶりが伝わってきた。練習場を訪れる人たちに地元名物のトマトカレーを作っている人たちが他のチームやアメリカ大リーグが好きだというところが、少し笑えて楽しく視聴できた。

このような球団を支える人たちを番組で取り上げると、ファンの人たちもそうでない人たちも興味を持って試合を見ることができるのではないか。

(NHK側)

プロフェッショナルのこだわりはきちんと伝えながら、子どもも含め家族でリラックスして見られるような番組を目指している。地元に住んでいる方でも知らない意外な地元の魅力を掘り下げていきたいと考えている。

- 5月18日(金)@okayama 「“人として生きたかった” ～受け継ぐ ハンセン病元患者たちの思い～」を見た。ハンセン病療養所のある長島と本州の間に「人間回復の橋」と呼ばれる橋がかかって30年経つというのに、番組を見るまで気にも留めていなかった。私のような人がほとんどというのが現状ではないか。元患者の方が、捨てられ、強制的に隔離された悲しみ、更に子どもを持つことも許されないという隔離政策の苦しみについて話していて、本当に何が生きが이었다のだろうかと深く考えさせられる番組だった。

大変重たい内容の番組だったが、岡山出身の女優・桜井日奈子さんの若々しいナレーションや、学生へのインタビューを織り交ぜることで、いくぶん番組の雰囲気や和らげ優しい印象の番組になっていた。

(NHK側)

この邑久光明園を含めて、瀬戸内海にある療養所では、世界遺産登録を目指して今活動を始めている。原爆の被爆体験の継承と同様に、元患者の方々の高齢化が課題になっている。語り継いでいくことが大切だと考えている。

岡山局にとってハンセン病の隔離政策の歴史、療養所の問題に向き合うことは、重要な課題と捉えている。その中で、5月はこの番組や「もぎたて!」の中で発信した。

記憶の継承をしていくうえで若者がどう受け止めているかを知る

ために、大学生にもインタビューした。ここで終わることのないように、現在「もぎたて!」の中で、番組キャスターによる元患者の方々の手記の朗読を週1回のペースで始めている。

- 最近の「もぎたて!」では、身近な山の楽しみ方や、夜間中学校の取り組みなど、地元に着したニュースや話題を細かく取り上げていて良い。知人からもNHKに取材されたという情報を聞くことが多くなってきた。地域に着した番組になってきており、今後も期待したい。

(NHK側)

夜間中学校の取り組みについては、全国放送番組への展開も予定している。今後も地域に着した番組制作を心がけていきたい。

- 6月13日(水)「しまねっとNEWS 610」の中で、4月に震度5強の地震があった大田市の三瓶山を取材していた。松江局のアナウンサーが山の恵みを伝える旅番組テイストのレポートで、三瓶山の魅力を県内各地に向けて伝えてくれたのは地震からの復興に取り組む地域の人たちにとって応援になったと思う。中国地方全体にも伝えてもらえるとありがたい。

また、今春から出演している浜田支局のキャスターは、地元のことを伝えたいという一生懸命さが伝わってきて大変良い。故郷のことを地域の人になり代わって伝えられる地元出身者の起用は今後も継続してほしい。

ツイッターを活用した番組やイベントの告知に取り組んでいるようだが、もっと力を入れてもらいたい。

(NHK側)

キャスターは江津市出身。地元に対して強い思いがあり、広島のみ放ラジオの Reporter として培ったスキルを生かして、積極的に地元取材に取り組んでいる。

- 6月8日(金)さんいんスペシャル「近藤泰郎のこんな所に城下町!？」を見た。鳥取藩32万石の城下町の400年にわたる歴史や文化について、ワイプや特殊なレンズで撮影した映像を駆使するなどさまざまな演出上の工夫をしながら伝える番組で、興味を持って見ることができた。

鳥取城ができるまでは、現在の市街地が湿地帯だったことなど知らないことも多か

った。町を作った先人たちの知恵と工夫に感心した。番組キャスターの鳥取への愛着が感じられる点も良かった。

番組の中で「昔は、店先はいくら寒くても開けとくんだって、よく先代から言われていました」と商家の気概を語る方が登場したが、シャッター街となっている商店街の店主の方々に勇気を与えるのではないかと期待した。

全国に放送することで鳥取への移住を促す良いPRになるのではないかと思った。

(NHK側)

放送後、県の西部の方から地元も取り上げてほしいという反響もあったので、第2弾も検討したい。今回の番組は7月5日(木)「ごごナマ」後3時台で全国放送する予定になっている。

- 6月8日(金)さんいんスペシャルを見た。鳥取大火によって、古いものは全部焼失してしまっているため、城下町の印象が薄い町だと感じていたが、全国12番目の規模だったなど知らないことがたくさんあって驚いた。多くの地元の人が出演してそれぞれが街の秘密を紹介するという番組構成で非常に興味を持って見る事ができた。「見えない部分・人の心の中にも城下町が息づいている」という結びも大変良かった。

(NHK側)

地元の人が出てくることで、少し難しい話でも身近に感じられるということもある。地元の人と一緒に作るという意識を強く持って制作していきたい。

- 5月18日(金)さんいんスペシャル「100歳の世界 “健康長寿” のヒミツ」を見た。自分も高齢にさしかかっていることもあり興味を持って見る事ができた。「幸せ感」を持って生活することが100歳まで健康を保つ秘けつということが印象的だった。

ただ、スタジオゲストと専門家のやり取りで、途中から目が合わなくなってしまう編集が見ていて気になった。

- 5月18日(金)さんいんスペシャルを見た。島根県は人口に対する100歳以上の方の割合(百寿者率)が5年連続で日本一だということに、驚きとともに誇りを感じた。番組の中で、さまざまな長寿の秘けつを紹介していたが、一般的な事柄ばかりだったのは残念だった。島根県ならではの長寿の理由が明らかになれば、地元に対する誇り



をもっと持てる内容になったと思う。

番組後半で出てきた「老年的超越」という言葉が印象に残った。若い時は自分の生活・将来が関心の中心だが、歳を重ねることで、関心が広がり周囲に奉仕もしていこう、還元していこうという気持ちを持つようになる。こうした気持ちの変化も「幸せ感」につながっていくのだろうと思った。大変よい勉強になった。

(NHK側)

大変多くの視聴者に見られ、健康・長寿に対する関心が非常に高いと感じた。百寿者率の上位を山陰が占めているのはなぜか、その理由に迫りたかったが、残念ながら今回はそこまで迫りきれなかった。また別の機会に挑戦したい。

ゲストと専門家の掛け合いの画面のはめ込みが、若干不自然だったと思う。今後の番組制作では留意したい。

- 6月15日(金)Yスペ!「これが山口の世界イチ!」を見た。県内各地の魅力を掘り起こしていく番組だったが、これを世界一と言っていいのかと疑問に思ってしまうようなものを結構取り上げていたことがおもしろみになっていた。「イタリアの青の洞窟みたい」というふれこみの洞窟に実際に訪れてみたら赤潮だらけだったところを「これは反対になかなか見られない光景なんです」と言ってしまうなど、本来なら悩んでしまうようなところをおもしろおかしくやって、突っ込みどころ満載の笑いながら見られる番組に仕上げた制作者はすばらしいと思った。ポジティブな番組でとてもよかった。

(NHK側)

ディレクターの目線で山口にはこういう知られていない魅力があるのだということを見聴者に楽しみながら伝えたいという意図の番組だった。

- 今年は大山開山1300年の節目の年だが、6月4日の大山夏山開き祭りのニュースの扱いが小さいように感じた。また、ニュースに関しては、朝伝えたニュースについて昼のニュースでは全く伝えられないことがある。その後のことも気になるので、続報も伝えるようにしてもらいたい。

(NHK側)

大山開山 1300 年行事については、地元のニーズもくみながら、どう取り上げていくか検討していきたい。

(NHK側)

まだ動きのあることが予想されるニュースについては時間の経過とともに少しずつ原稿を変えながら繰り返し報じることも必要と考える。朝のニュースを全員が見ているわけではない、昼のニュースで初めて知る方もいるということを今一度肝に銘じたい。

- 5月26日(土)「ブラタモリ」は「萩はなぜ世界遺産になったか」というテーマだった。明治維新の立役者が大勢いるからかと思いきや、地形・地理といった「ブラタモリ」でおなじみの切り口から世界遺産登録につながる町の秘密を解き明かしていて、面白いエピソードを知ることができた。世界遺産の反射炉が実は失敗作だったということはこの番組で初めて知った。失敗したものだからと世界遺産登録から外すのではなく、試行錯誤の結果としてあえて世界遺産にしたかった萩の人たちの熱意が伝わってきた。

地元のケーブルテレビでも地域の歴史に詳しい地元の方が出演する番組が人気だ。こうした地元の歴史に詳しい人たちと連携した番組を制作すると、地域の人にとっても改めて地元を見直す機会になって良いと思う。

- 「ブラタモリ」の萩の回では、山口局ではがきを制作してPRに役立てたと聞いた。人気番組で紹介されたことをPRすることは、町おこしにも大変効果があると思う。
- 5月27日(日)日曜美術館「茶の湯で国を治めた男～大名茶人 松平不昧～」を見た。収集家としての側面だけでなく、収集した茶器を手本に、現代にもつながる地場産業の育成に取り組んだ点に焦点を当てていたのが良かった。地域プロデューサーの先駆けだったという評価には地元の間人としてうれしかった。

(NHK側)

今回の番組の制作にあたっては、文物の本質を伝えようと、撮影方法にはかなりこだわり、専門家にどの角度からどのように撮影すれば伝わるのかアドバイスを受けながら、4Kカメラを使用し、単焦点のレンズで色の見せ方に非常にこだわって撮影した。

- 6月17日(日)日曜美術館「外国人を魅了する日本の美術館」を見た。定番の足立美術館に加えて島根県出雲市にある手銭記念館という小さいながらもすてきな美術館も取り上げていた。ネームバリューだけでなく、良いものをきちんと取材する細かいリサーチに感心した。

(NHK側)

手銭記念館というややなじみの薄い名所を紹介した今回の番組は地域放送にも展開したいと考えている。

- 5月1日(火)趣味どきっ!私の好きな民藝(みんげい)第5回「鳥取 焼き物」と5月8日(火)第6回「島根 焼き物」を見た。利用シーンに合わせたコーディネートを考えながら各窯を歩くおもしろい番組だった。

(NHK側)

今民芸がブームとなっており、生活の中のいろいろな場面で「使う物」として民芸を改めて見てみるシリーズとして4・5月に放送した。

- 6月10日(日)BS1スペシャル「在宅死 “死に際の医療” 200日の記録」(BS1 後10:00~10:50、11:00~11:49)に衝撃を受けた。200日にわたって現場で自ら撮影したディレクターの執念に感銘を覚えた。
- 6月4日(月)~6月8日(金)につぼん縦断 ころろ旅を見た。一般の方の思い出の手紙に基づいて訪ねる地元の風景は新鮮で、故郷を見直す機会にもなった。これからも長く続けてほしい。
- 6月18日(月)朝の大阪北部地震の発生時に、男性のアナウンサーの方が、何をすべきか時系列に沿って的確に伝えていた。パニック状態に陥りやすい時に何をすれば良いか伝わって良かった。ただ、あまり繰り返すとかえって不安をかき立ててしまうおそれもあり、いつまで続けるか難しさも感じた。また、日本に来て初めて地震に遭った外国人のための外国語での放送の充実は課題だと思った。

(NHK側)

地震・災害時の呼びかけ、情報の伝え方については、アナウンサ

一を中心に全国的に取り組んでいて、何が適切か、定期的に検討を重ねている。例えば、雪国かそうでない地域かによって、呼びかけの言葉が変わってくるだろうということも考え、地域ごとの呼びかけの案を作っていく取り組みも始めている。

日常的にトレーニングを積んでいるアナウンサーは災害時には状況に合わせた言葉が出てくるようになる。非常事態に直面した際、誰でも、どの地域でも同じような水準で伝えられるようにレベルアップを図るように努力している。

呼びかけの時間については、災害の一報から次の情報が入るまでの間、繰り返し呼びかけを入れるようにしている。その間の長さは個別の災害によって異なるが、長いと不安を助長するというご意見があったことは、是非共有したい。

また、外国人向けの災害時の呼びかけについて、ネットなどでも話題になっていたが、外国人をはじめ日本語が苦手な人のためにスーパードット記号の全ての文字にふりがなをふる取り組みもしている。

アプリなどを通じて国内でも視聴できる国際放送と連携した取り組みも始まっている。

- 和歌山県の資産家不審死事件のニュースで資産家のことを紀州のドン・ファンと紹介していたのは、ワイドショーのようで、NHKらしくないと感じた。
- 鳥取県西部に住んでいると、鳥取市など東部の出来事が取り上げられることが多く、西部の話題が少ないと感じることがある。

(NHK側)

県の東西で距離以上に心理的な隔りがあるかもしれないということも意識して、バランスの良い放送を心掛けたい。

(NHK側)

県内の出来事をバランス良く取り上げることは鳥取に限らず各県に共通した課題であると考え。広島では今年度から「支局だより」という形で支局の記者が自ら伝える機会を増やすなどの取り組みを始めている。

NHK広島放送局  
番組審議会事務局

## 平成30年5月NHK中国地方放送番組審議会

5月のNHK中国地方放送番組審議会は、17日（木）、広島放送局において、9人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、「平成29年度中国地方向け放送番組の種別ごとの放送時間」について、報告があった。続いて、放送番組一般も含めて活発に意見を交換したあと、放送番組モニター報告と視聴者意向、6月の番組編成の説明がそれぞれ行われ、会議を終了した。

### （出席委員）

副委員長	上大岡トメ	（イラストレーター）
委員	伊藤 康丈	（イワミノチカラ 代表）
	坂本トヨ子	（株式会社サカモト 代表取締役）
	坂本 直子	（走健塾 ランニングアドバイザー）
	佐田尾信作	（中国新聞社 論説主幹）
	納所裕美子	（アート・プロジェクト株式会社 代表取締役）
	古市 了一	（株式会社ふるいち 代表取締役）
	松嶋 匡史	（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン 代表取締役）
	渡部 朋子	（NPO法人 ANT-H i r o s h i m a 理事長）

### （主な発言）

#### <放送番組一般について>

- 4月27日（金）ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「どう支える？ “生活困難層” の子どもたち」を見た。貧困予備軍の指標について「所得が低い」「家計が苦しい」「子どもの体験などが足りない」という3つのうちどれかに該当する場合を想定し、「子どもの体験などが足りない」という類型について子どもの体験を15項目にリスト化し、そのうち3項目の経験が不足すると「生活困難層」に当てはまると定義していた。これに照らすと広島県では子育て世帯の25%が生活困難層にあることを初めて知った。この番組は、為末大キャスターと八田知大アナウンサー、中山果奈アナウンサーの3人で進行し、今回は教育行政学の専門家を招いていたが、さらにゲストが1人いれば番組の幅が広がったのではないか。番組の内容はよかったが、もっと多くの意見を聞きたかった。

(NHK側)

この番組では、全国の自治体で始まった子どもの貧困に関する調査のうち広島県のデータを紹介した。所得や家計といった経済的な側面だけではなく、子どもの体験の頻度が少ないことが生活困難層につながることを紹介したが、理解しにくい部分があったかもしれない。25分という放送時間の中で分かりやすく伝えるためにゲストの意見をどのように受け止めて紹介していけばよいかといった部分についても、今後検討していきたい。

- 私も「ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～」を見た。子どもの体験が不足することが貧困の予備軍になるという指摘は、新しい視点だった。ただ番組モニター報告では体験不足が貧困につながるということに違和感があり、生活困難層という用語が大げさだという意見もあって、貧困をどのように捉えるのかという点については、さまざまな受け止め方があると思う。そういった点をさらに整理して続編を制作してはどうか。この番組は全体としてやや堅く、まじめすぎるといった印象だった。今回のテーマが切実な問題で、為末さんのキャラクターの影響もあるのかもしれないが、もう少し柔らかく伝えてもよいのではないかと。今後に期待したい。

(NHK側)

この番組の後半では、貧困が子どもの成長を阻害する要因になりうることを紹介したが、貧困が格差といった社会の分断につながりかねない問題については、今後も丁寧に伝えていきたい。番組が全体的にまじめすぎるといった意見については、今回の番組は、出演者全員が初めてで緊張していたことも影響していたのではないかと。より親しみやすい番組を目指して研究していきたい。

- 5月11日(金)ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「右脚一本で世界をとる～パラサイクリング日本代表・川本翔大選手～」を見た。障害者スポーツをテーマにした番組ではとかく失ったものに目が行きがちだが、その障害があるために筋力や心理面が発達していることをよく伝えていた。為末さんは障害者スポーツにも精通していてコメントに説得力があったが、川本選手とディレクターの間にもっと信頼関係ができていれば、彼の気持ちや考え方をさらに引き出すことができたのではないかと。自転車の競技には上半身の筋力はあまり関係がないと思っていたが、パラサイクリング日本代表の権丈泰巳監督は、川本選手の上半身の体格を見て彼のサイクリストとしての

将来性を見抜いたことに感心した。パラサイクリングの競技を始めてわずか8か月で日本代表になったことにも驚いた。

(NHK側)

為末さんは障害者スポーツにも造詣が深い。前回子どもの生活困難層について伝えた時よりも、本人のことばで表現できたと思う。この番組は、川本選手への取材を始めて3か月ほどの時点で放送した。現在も担当ディレクターが川本選手とよい関係を保ちながら取材を続け、2020年の東京パラリンピックまで密着していきたいと考えている。期待してご覧いただきたい。

- 私もこの「ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～」を見た。川本選手が幼い頃に障害を負ったことを悲しむだけではなく、ほかの部位の筋力を鍛え、心理面を強くして、練習している姿をよく追っていた。番組では、スタジオの背景にCGやデータを映し出したり、為末さんが2002年シドニーオリンピックの陸上競技に出場した時の映像を流したりしていた。実際にスタジオで為末さんが片脚で自転車のペダルをこいでパラサイクリングの難しさを再現していたが、スポーツを取り上げたドキュメンタリー番組として新鮮さを感じた。

(NHK側)

川本選手は生後まもなく片脚を失ったが、母親の理恵さんは左脚がないことを否定的に捉えてほしくないという思いから、川本さんには半ズボン履かせて幼稚園に行かせ、高校では野球部に所属させるなど、ほかの人と一緒にさまざまなことに挑戦させてきたようだ。それが彼の力の源泉になっていることを伝えた。この番組を立ち上げるに際して、スタジオ部分の演出ではプロジェクション・マッピングという技術を用いて、スタジオ背面の壁をスクリーンに見立てて、映像やデータなどを映し出すことにした。視聴者からは「とても分かりやすい」という反応や「迫力がある」という声が寄せられており、多くの可能性があると感じている。今後もこの手法をうまく使いながら、さまざまなテーマに取り組んでいきたい。

- 私もこの「ラウンドちゅうごく」を見た。番組の末尾で障害者スポーツについて為末さんの「失ったものより、今残されたものの可能性をどう追求していくか」、「人



間の可能性を、障害者スポーツの競技者が追求しているのを見て学ぶところがある」というコメントがあったが、理論的で説得力があって心に残った。今後も為末さんのキャラクターを生かして番組を制作してほしい。

(NHK側)

われわれも、為末さんが博識でさまざまな事象に関心を持っていることに驚いている。為末さんはプロの伝え手ではないが、彼のことばや彼のよさを大切にしながら、いろいろな分野についてチャレンジしていきたい。

(NHK側)

広島局では金曜午後7時30分の時間には、広島県に向けて「“テッパン”話仕入れました！広島かたすみ食堂」を、中国地方に向けては「ラウンドちゅうごく」を、それぞれ放送している。「ラウンドちゅうごく」については、広島県だけではなく中国地方の各県に共通する課題や中国地方の皆さんに知ってもらいたい情報などを、今後も広く取り上げていきたい。

- 4月20日(金)に中国地方向けの「おはよう日本」を見た。杉山真理気象予報士が中国地方の気象情報を伝える時に、すずめが寒い時には羽毛を膨らませて暖かい空気を含ませて体を丸くして、暖かい時には逆に細くして体温調節をしていることを、自身が撮影した写真で分かりやすく説明していたのがとてもよかった。

(NHK側)

杉山気象予報士は、昨年4月から主に「おはようひろしま」や「ひるまえ直送便」などで気象情報を伝えている。日々のニュースのボリュームにもよるが、気象情報に時間を割くことができる場合には、例えば今回のように彼女が撮影した写真を使うといった工夫をして、気象情報を親しみやすく伝えていきたい。

- 「ひるまえ直送便」の月曜日の「美ユーターエクササイズ」のコーナーを見た。杉浦圭子アナウンサーが、いわば体当たりでスポーツトレーナーの指導を受けエクササイズをしながら番組を進めていた。日頃から体を動かしていないとなかなかできないと思うので、とても感心した。今後も頑張って伝えてほしい。

- 5月11日(金)「お好みワイドひろしま」で「メキシコ選手団招致の狙い」を見た。メキシコ選手団の練習風景や地域の交流について取り上げていたが、彼らの練習日程やいつ見学できるのかといった情報、見学をする時のマナーなども伝えてもらえれば、スポーツに対する関心も高まるのではないか。このコーナーはよかったが、レポートをした記者がやや暗い印象だったのが残念だった。

(NHK側)

このニュースについては、翌日のニュースや「お好みワイドひろしま」の2020年の東京オリンピックに向けた取り組みも紹介している。聖火リレーではどのような放送ができるか検討している。指摘のあったニュースの伝え方については指導を続けていきたい。

- 大型連休の前後に「もぎたて！」を見た。4月26日(木)は、TPPとEPAが発効した場合に、どの程度岡山県に影響があるかという試算結果を伝えていたが、岡山県の生産量を示していなかったため、生産額がどのくらい減少するのかが分からなかった。このニュースでは、価格が安ければよいと考える人と、国内の自給率を考えるべきだという人の二つに分かれていて、それぞれの思いがよく分かった。27日(金)「おかなび」では、大型連休中の県内でイベントが多く行われることが分かって驚いた。大型連休の前だったためか、番組の末尾で望月啓太アナウンサーが満面の笑顔で最後を締めくくっていたのが印象的だった。5月7日(月)には大型連休中に山陽新幹線の乗車率が高くなったというニュースやサッカーJ2の地元チームの試合結果を伝えていたが、連休中のイベント情報がなかったことが気になった。8日(火)には、降水確率がどのように決まるのかという説明があったが、とてもよかった。降水確率50%以上ではしっかりと傘を、30%から40%は折り畳みの傘を、10%から20%は雨の可能性は低い梅雨と夏の変化しやすいときは折り畳み傘を、それぞれ持っていくといった具合に、具体的に分かりやすく伝えていた。

(NHK側)

「もぎたて！」のキャスターを担当している望月啓太アナウンサーは、性格が明るくこれからも楽しく見ていただける番組にしていきたい。イベント情報については、大型連休の前に時間を割いて厚く伝えた。サッカーJ2の地元チームの試合結果は、昨年度に引き続き毎週月曜にコーナーを設けて伝えている。気象情報については、今年度か

ら気象予報士を起用して、全国の気象情報も含めてより詳しく伝えている。これからも気象にまつわるさまざまな情報を取り上げていくが、気象予報士がスタジオから外に出て中継で伝えることも検討している。

- 5月16日(水)「しまねっとNEWS 610」を見た。存続の危機にあるとされている木次線を取り上げ、沿線を明るく紹介していたのがよかった。今後は、中山間地の課題である代替交通についても取材をして、この問題に立ち向かっている人々にも焦点を当てることができれば、地域にも活気が出てくるのではないか。

(NHK側)

「しまねっとNEWS 610」では、木次線的话题を継続して取材している。ことし3月に三江線が廃止されたが、利用者が少ない木次線も廃止されるのではないかと心配する声も聞く。沿線地域の生活や風景、住民が記憶していることなどを、これからも取り上げていきたい。ローカル線の代替交通については、今後のあり方や行方などが注目されているので、引き続き取材を続ける。

- 5月7日(月)「いろ★ドリ」を見た。「トリ★ビューン」では、近藤泰郎アナウンサーが城下町を楽しそうに訪ねているシーンがあった。このコーナーの中で6月8日(金)に放送する「さんいんスペシャル」で旅の様子を放送すると伝えていたので、改めて見たくなった。

5月11日(金)「とっとりニュース845」では、近藤アナウンサーが、最初のニュースを伝える前に「母の日は、みなさんどうされるのでしょうか？」とコメントをしていたのが印象的だった。ふだんは全国ニュースでは悲しい事件や事故が伝えられることがあって気分が重くなる時もあるが、このコメントを聞いて温かい気持ちになった。

(NHK側)

「いろ★ドリ」では、5分程度の企画やリポートを伝えているが、それを発展させて1本の番組として放送することもある。6月8日(金)に放送を予定している「さんいんスペシャル」もその一つで、今後も「いろ★ドリ」と「さんいんスペシャル」を連動させて制作していきたい。近藤アナウンサーはニュースを伝えるだけではなく、臨機応変にコメントをすることができる。彼の強みを生かすことも含め、

県民の皆さんによりいっそう親しんでいただけるよう努めていきたい。

- 5月10日(木)「情報維新!やまぐち」の中で「やまぐち&ワールド」を見た。このコーナーでは外国からの移住者の目線で山口県がどのように映っているのかということを取り上げており、今回は画家のロベルト・ピピリさんというイタリアからの移住者を紹介していた。ロベルトさんは、県内で身近にある川原を見て「ああ、美しい」と言っていたが、「われわれはそんなに美しいところに住んでいたのか」という声も聞こえて、山口への思いをうまくもり立てていた。

(NHK側)

このコーナーでは、山口県の長所を外国人の独自の視点で見つめてもらい、地域に暮らすみなさんにもその魅力を再認識してもらえたと受け止めている。今回は、古い物件に住みながら絵を描いているロベルトさんの発想がとてもおもしろかった。「情報維新!やまぐち」では、これからもいろいろな国からきた人を紹介し、それぞれの文化を基にさまざまな角度から山口県を見てもらいながら、改めてここがよいところだと地元の皆さんに愛着を持ってもらえるような番組を放送していきたい。

- 5月11日(金) @ o k a y a m a 「のんびりゆったり路線バスの旅~岡山・真庭スペシャル~」を見た。連続テレビ小説「わろてんか」に漫才コンビの役で出演していた大野拓朗さんと前野朋哉さんの2人が、真庭市でSNSに投稿する写真を撮ることをテーマに旅をして、地元でも知られていないすてきな場所がたくさんあることを紹介していた。大野さんはとても犬が好きで、ペット温泉を訪れて犬の動画をかわいらしく撮っていた。2人の楽しそうな旅の様子がよく伝わってきた。

(NHK側)

「@ o k a y a m a」は、3月21日(水)に全国に向けて放送した「のんびりゆったり路線バスの旅」を再編集したものだ。午後6時台の「もぎたて!」では、月に1回程度、SNSに投稿する写真の撮り方を伝えていて、視聴者が撮影した写真も紹介している。そういった手法も取り入れて新たな場所を発見することができたのもよかったのかもしれない。

- 4月20日(金)Yスペ!「未来につなぐ農場～吉母 国際カップル就農日記～」を見た。この番組は、人口750人あまりで高齢化率が5割という下関吉母という地域に移住した、上野泰弘さんとイギリス出身のセラさん、一人娘の未来ちゃんの3人家族に密着した。上野さん夫妻に未来ちゃんが生まれ、高齢者が生き生きしている姿がよく伝わってきて、朗らかな気持ちになった。来日後国際結婚をして生活していく中で試練や苦労があったこと思う。それをどのように乗り越えてきたかという部分も取り上げてほしかった。

(NHK側)

この番組は「情報維新!やまぐち」で放送した内容を選びすぐって再編集したものだ。指摘のとおり2人が地域で暮らしていく上での苦労などをもっと盛り込んでもよかったかもしれない。上野さん一家については、ディレクターがよい関係が築きながら取材を続けているので、これからも未来ちゃんが育っていく様子を追いかけていきたい。

- 5月11日(金)Yスペ!「“光の海”かがやく青春～強豪・光高校ヨット部～」を見た。連続テレビ小説「とと姉ちゃん」に出演していた女優の吉本実憂さんが県立光高校にロケに行き、ヨットをあまり知らない人にも分かるように生徒と話をしながら、ヨットが進む原理などをうまく伝えていた。このヨット部に入部するために、名古屋や横浜の中学校から生徒が集まってくるような強豪高校が、山口県内にあったことに驚いた。

(NHK側)

県立光高校ヨット部が国体やインターハイにも出場するなど全国でも有数の強豪のチームで、卒業生が東京オリンピックに出場する有力な候補であることを知って取材を始めた。山口県光市は海がとても美しく松林もあって風光明媚な場所で、そういったところでヨット競技に切磋琢磨する高校生の青春やその強さの秘密、彼らを支える人々の熱い思いなども紹介した。このほかにも、瀬戸内海で練習に励むヨット部の青春をテーマにしたFMシアター「海を駆ける」を19日(土)に全国放送するので、ぜひ聞いていただきたい。

- 4月29日(日)目撃!につぼん「さようなら 三江線～本州最大の廃線に立ち向かう～」を見た。地域住民に密着して信頼関係を得て、よいコメントを引き出していた。

三江線が廃線になったにもかかわらず、大型連休中には宇都井駅に一日 150 名ほどが自転車やバイクで訪れていた。長い時間をかけて取材をしていたことからテレビで見たといった声もあり、この地域に人を呼び込むことができたようだ。放送の力の大きさを改めて感じた。

(NHK側)

この番組では、三江線の廃線が決まり改めてその存在を再認識し、廃止まで何ができるかと取り組んできた人と、廃線後の地域活性化のためにトロッコ列車を企画している人を取り上げた。地域が課題を抱えている中で、住民が何を考えてどう取り組もうとしているのかという部分も伝えていきたい。

- 5月16日(水)「ニュースウォッチ9」を見た。iPS細胞の心臓病治療で世界初の臨床研究が始まったというニュースに興味深く見た。今後もiPS細胞の話題を分かりやすく伝えてほしい。
- 5月8日(火) 趣味どきっ! 私の好きな民藝(みんげい)第6回「島根 焼き物」を見た。趣味の観点から島根県各地の焼き物をうまく紹介していた。今回は、松江市と出雲市の窯元を紹介しており、プロのコーディネーターや料理家が、実際に器に食べ物を盛っている映像がよかった。地元の器がきれいに紹介されれば、取り上げられた地域も知られていくと思うので、趣味の視点を通じて地域が輝くような番組を制作してほしい。

(NHK側)

この番組は本部が制作した全国放送の番組で、島根県の焼き物を取り上げた。地元のを伝えるために、こうした番組の素材を有効に活用して、島根県内向けに改めて紹介することも考えていきたい。

- 4月28日(土) ETV特集「平和に生きる権利を求めて～恵庭・長沼事件と憲法～」を見た。当時、日本国憲法前文の平和的生存権の観点から、自衛隊について検討した判事がいたことに驚いた。この番組を憲法記念日の前に放送した意味は大きかった。
- 私もこの番組を見た。恵庭事件や長沼ナイキ事件をきちんと捉えていて、憲法について考えるきっかけを与えてくれたよい番組だった。

- 4月29日(日) 新世代が解く！ニッポンのジレンマ「今大学って？学問ってなんだ？@広島大学」(Eテレ 前0:15~1:15)を見た。司会を務めていた社会学者の古市憲寿さんが、広島大学で平和を教えていることについて、「もっとそういうことから自由であってもいい」といった趣旨の発言があって、残念な思いがした。番組では、広島と長崎が出身地という学生が積極的に発言している場面があって希望を感じた。
- 5月11日(金) 「発達障害キャンペーン “普通”って何だろう？」(総合 後1:55~2:00)を見た。5分の短い番組で発達障害をポジティブに捉えて分かりやすく伝えていたが、放送時間が視聴しやすい時間ではなかったのが残念だった。「西郷どん」の見どころを紹介するPR番組についてはたびたび放送しているが、そればかりではなくこのような番組をもっと視聴しやすい時間帯に編成してほしい。

(NHK側)

発達障害については、大型連休中の4月30(月)に「超実践！ 発達障害 困りごととのつきあい方」(総合 前8:15~9:59)で分厚く伝えた。発達障害について伝える番組は、「あさイチ」の制作スタッフが中心になって制作しているが、「あさイチ」以外のさまざまな番組とも連動しており、チャンネルも幅広く総合だけではなくEテレでも放送しているので、引き続きご覧いただきたい。

NHK広島放送局  
番組審議会事務局

## 平成30年4月NHK中国地方放送番組審議会

4月のNHK中国地方放送番組審議会は、19日（木）、広島放送局において、11人の委員が出席して開かれた。

会議では、会議では、まず、「平成29年度中国地方向け放送番組の種別ごとの放送時間」について、報告があった。続いて、放送番組一般も含めて活発に意見を交換したあと、放送番組モニター報告と視聴者意向、5月の番組編成の説明がそれぞれ行われ、会議を終了した。

### （出席委員）

委員長	安井 弥	（広島大学大学院医歯薬保健学研究科 教授）
副委員長	上大岡トメ	（イラストレーター）
委員	伊藤 康丈	（イワミノチカラ 代表）
	坂本トヨ子	（株式会社サカモト 代表取締役）
	坂本 直子	（走健塾 ランニングアドバイザー）
	佐田尾信作	（中国新聞社 論説主幹）
	中村 寿男	（有限会社中村茶舗 代表取締役）
	納所裕美子	（アート・プロジェクト株式会社 代表取締役）
	古市 了一	（株式会社ふるいち 代表取締役）
	松嶋 匡史	（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン 代表取締役）
	渡部 朋子	（NPO法人 ANT-H i r o s h i m a 理事長）

### （主な発言）

#### <放送番組一般について>

- 新年度の「ひるまえ直送便」を見た。番組がリニューアルして爽やかになった。毎週月曜の「美ューティーエクササイズ」に出演しているスポーツトレーナーの下井慎一郎さんの教え方が上手だった。4月12日（木）の「まる得マルシェ」では、出演者がテーブルの台本を見ながらタケノコの食べ方を説明しているのがはっきりと分かったのが残念だった。テーブルに目隠しをするなど、台本が映らない工夫をしてはどうか。



(NHK側)

午前11時30分から放送している「ひるまえ直送便」は、新年度から杉浦圭子アナウンサーが20代の女性3人のリポーターとともに暮らしに役立つ新鮮な情報を伝えている。「美ューティーエクササイズ」は、月ごとにテーマを設定してテーマにふさわしいスポーツクラブのトレーナーに来てもらっている。このコーナーも女性のディレクターが担当している。指摘を頂いた台本の扱いについては改善したい。

- 私も「ひるまえ直送便」を見た。杉浦アナウンサーが全力で番組に取り組んでいるのが分かった。この番組は女性スタッフが制作しているようだが、番組に優しさが感じられコーナーのタイトルの付け方にも工夫が現れていた。新しいリポーターたちは初々しさがあるが、まだ緊張しているようで原稿を読み間違えたり言葉の語尾が不自然に上がったりすることがあった。杉浦アナウンサーと番組をうまく進められるようになることを期待している。

(NHK側)

「ひるまえ直送便」のスタッフは、キャスター、リポーター、ディレクターのほとんどが女性で、女性ならではの感性を大切に制作している。杉浦アナウンサーがこの番組のキャスターを務めることが決まったときに、若いスタッフの育成と指導にも注力し、これまで培ってきた経験を生かして取り組んでいきたいと意気込みを語っていた。われわれアナウンスグループもバックアップしていくので、引き続きご覧いただき意見を伺いたい。

- 新年度の「お好みワイドひろしま」を見た。4月13日(金)には広島県廿日市市女子高生殺人事件は発生から14年あまりが経過して容疑者が逮捕されたが、殺害された女子高生の父親のコメントをよく伝えていた。17日(火)は性犯罪被害者に対してワンストップで支援する広島県の専門機関についてのレポートも丁寧に解説していた。同日にはプロ野球選手の赤松真人さんが、がん治療を受けながら一軍復帰を目指すという企画もあったがこれもよかったので、さらに取材を積み重ねて全国に発信してほしい。全般的に特集コーナーは掘り下げて取材をしており、限られた時間内で分かりやすくまとめていた。

(NHK側)

廿日市女子高生殺人事件については、若手記者が長く担当して被害者の父親と人間関係を築いてコメントを引き出せた。性犯罪被害者を支援する取り組みは若い女性ディレクターが取材して伝えた。赤松さんのレポートはスポーツ担当の若手記者が東京のディレクターと協力して制作した。今後も若手の記者やディレクターが力を着実に付けていけるよう指導・育成していく。

- 「お好みワイドひろしま」は、広島県内のニュースを重点的に取り上げているためか、複数の県にまたがるニュースをあまり伝えられていないように感じる。土日・祝日に広島局から伝えている中国地方向けのニュースの中で伝えてほしい。米軍岩国基地のような国際情勢に影響のあるニュースについては、東京に任せずに各地域の放送局で取材して伝えてほしい。

(NHK側)

土日・祝日のニュースについては、頂いた意見を参考に伝え方を検討していきたい。米軍岩国基地の問題については山口放送局岩国支局の記者が取材を続けている。スイス・ジュネーブで開催される核拡散防止条約再検討会議(NPT)については広島放送から記者やカメラマン、ディレクターが取材に行き、全国のニュースや番組で伝えることにしている。被爆地・広島にある放送局として、こうした問題は継続して伝えていきたい。

(NHK側)

県外に関するできごとや事件・事故などについては、その地域に密接に関係するニュースであれば、NHKのネットワークを生かして積極的に伝えている。例えば、NPTの準備会合について広島放送局が取材したニュースやレポートについては、長崎放送局にも送って長崎県内にも向けて放送してもらおうなど、少しでも多くの視聴者に見てもらえるよう準備を進めている。

- 岡山放送局の午後6時台「もぎたて！」を見た。新年度になってスタジオセットの色調が青と黄色に変わり、キャスターの服装も明るい色になって爽やかだった。スポーツコーナーはサッカーの話題が多かったが、ほかのスポーツも入れてほしかった。

4月2日(月)には番組のテーマ曲を演奏しているアルケミストさんとわたなべゆうさんをゲストに招いていたが、望月啓太アナウンサーの進行とインタビューが上手で感心した。また10日(火)には瀬戸大橋開通30周年の特集はとてもきれいな映像だったが、内容は瀬戸大橋の利用状況に関するレポートだったので、地域経済への発展にどういった影響や変化があったのかといった部分も伝えてほしかった。17日(火)の地域の見どころを紹介するコーナーでは、岡山県奈義町の菜の花や新見市のシャクナゲなど、普段あまり取り上げられない場所を取材していた。プロの料理人が簡単にレシピを紹介する料理コーナーがあったが、まさに料理を作る時間帯でタイミングがよかった。視聴者から寄せられた写真やメッセージを紹介するコーナーは、親しみを持って最後まで温かい気持ちで見た。

(NHK側)

「もぎたて！」のキャスターは、3月まで東京から週末の昼のニュースを伝えていた望月アナウンサーに交代した。セットもリニューアルしたが番組のコーナーは大きく変えていない。毎週月曜は「もぎファジ」でサッカーJ2のファジアーノ岡山の選手の素顔を中心に伝えているが、4月9日(月)にはサッカーだけではなく、岡山県西栗倉村出身でピョンチャンパラリンピックのクロスカントリースキーで金メダルと銀メダルを獲得した新田佳浩選手に生出演してもらった。毎週火曜には簡単レシピを紹介する「できたて！」のコーナーがあり、昨年度から放送している。主に季節の食材や岡山の特産品を使ったレシピを紹介している。

- 松江放送局の午後6時台「しまねっと610」で、最後に伝えていた「あすの動き」がなくなった。この項目を参考にして翌日の予定を立てていたので不便になった。形を変えて伝える仕組みを整えてほしい。土日の午後6時45分からのニュースが島根県向けの放送ではなくなったのが残念だった。

(NHK側)

「あすの動き」については指摘のとおり見直しをしたが、視聴者からいろいろな情報を伝えてほしいという声が寄せられているので、「ひるまえ直送便」や「しまねっと610」の中で効果的に伝えていくことも含めて検討していきたい。

(NHK側)

土日・祝日の午後6時45分から伝えている地域向けのニュースについては、新年度から広島局のスタジオから中国地方向けにニュースと気象情報を伝えることにしたが、内容的には広島県だけではなく、中国地方各県の話題を盛り込んでいる。委員の意見や視聴者の声などを参考にして、今後どのようにニュースを取り上げて伝えていけばよいのか、検討していきたい。

- 新年度の「しまねっと610」は、よくまとまっていて落ちついて見る事ができた。4月9日(月)未明に島根県西部で発生した地震は風評被害も心配だが、行政のあり方を細かく突き詰めて伝えていてよかった。地震で被災した建物の倒壊危険性を、自治体が判断する「応急危険度判定」のレポートが分かりやすかった。当日のニュースを改めて確認したいと思ったときに、どのようにすれば見る事ができるのか伺いたい。

(NHK側)

主なニュースについては、放送後も各放送局のホームページで動画付きで掲載している。地震の発生以降、行政の対応や支援に関する情報の不足を指摘する声も聞くので、今後も「しまねっと610」を含め情報提供をしていきたい。

- 新年度の鳥取放送局の「いろ★ドリ」を見た。タイトルのとおり、スタジオがカラフルになった。今年度から番組を担当する五味哲太アナウンサーが新人の中山紗希キャスターをよくリードしていた。4月2日(月)に放送した「TOTTORI 2020」では、1964年の東京オリンピックの聖火リレーに参加した人の思い出を伝えており、ほっとする内容で2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据えた内容になっていた。今後も鳥取の歴史や文化など貴重な話題を楽しみにしている。

(NHK側)

午後6時台の新番組「いろ★ドリ」は、委員や視聴者の意見を生かしながら、今後さらに多くの視聴者に見てもらえるように取り組んでいきたい。キャスターも制作スタッフも若い世代が多いので、長いスパンで見て意見を頂きたい。

- 3月16日(金)めざせ3連覇！つかめ日本一！～カープ開幕直前特集～(総合 後7:30～8:43 広島県域)を見た。ゲストの大野豊さんと小早川毅彦さんの紹介がなかったので、プロ野球をあまりよく知らない私は飽きてしまった。“カープ女子”のうえむらちかさんが出演する場面がもっとあれば、野球をよく知らない人も楽しく見ることができたのではないか。

(NHK側)

この番組については、広島カープがセ・リーグの3連覇と日本一を目指してファンが盛り上がっていることもあり、73分間の生放送番組を制作した。準備は周到に進めていたつもりだが、段取りでややもたついた部分があった。頂いた意見を参考にして、野球に詳しくない視聴者にも届くような工夫をしていきたい。

- 4月13日(金)“テッパン”話仕入れました！広島かたすみ食堂(総合 後7:30～7:55 広島県域)を見た。通常のグルメ番組では店主をもちあげたりすることが多いが、この番組ではディレクターが率直に質問していてよかった。スタジオの屋台のセットが貧相に見えたのが気になった。

(NHK側)

この番組では、例えば尾道ラーメンといった有名なものではなく、人知れず親しまれているものを発掘して地域の“知られざる魅力”を紹介することをねらいにしている。広島放送局には若手のディレクターが多いこともあり、地域のみなさんに育ててもらいながら番組を制作しているので、これからも温かい目で見守っていただくとともに、さまざまな意見を聞かせてほしい。鉄板焼き店のセットについては、番組のタイトルのおりあまり目立たないものにしたが、今後検討していきたい。

- 4月13日(金)ありがとう三江線！あすへの出発(総合 後7:57～8:42 中国ブロック)を見た。三江線廃線直後の川戸駅のホームに出演者が集まって番組を進めていたが、ちょうど桜と菜の花がきれいに咲いている風景が映っていたのでうれしかった。岡山県の廃止された鉄道を取り上げて、廃線後の鉄道施設の活用事例を丁寧に紹介していたが、さらに島根県向けの「しまねっと610」の中でも伝えていたのもよかった。今後は廃線後の代替交通機関の行方が問題で、地域の人々の移動手段をどのよう

に確保していくのが課題になる。現役世代は主に自動車で移動するが、将来高齢化社会が進み、運転できなくなってから困ることがないように、地域住民の視点の沿った取材を続けてほしい。SNSでは「ローカル線 360 度『さようなら、三江線』」と題して、廃止前の列車の走行シーンを 360 度カメラで撮影した動画を掲載しているが、最新の取り組みを紹介していただきたい。

(NHK側)

この番組には三江線を愛する人たちが出演していたので、そのこだわりもよく伝わったのではないかと。三江線のVR（バーチャル・リアリティー）映像はNHKオンラインにも掲載されているので、ぜひご覧いただきたい。

- 私も「ありがとう三江線！あすへの出発」を見た。俳優の六角精児さんと鉄道に詳しいジャーナリストの田中雅美さん、松江放送局で鉄道の趣味がある斎康敬アナウンサーが出演していた。三江線が好きな人にも注目されるような、三江線の特徴や歴史を丁寧に紹介していた。番組の後半でグルメを紹介する部分があったが必要だったのか疑問だった。岡山県の廃止された鉄道の事例があったが、三江線廃線後の沿線自治体の様子についても、ニュースや番組で伝えてほしい。

(NHK側)

この番組は三江線の廃止直後だったこともあり、三江線の歴史や鉄道資産をどのように活用するのかというような町おこしにつながる内容もあった。三江線廃止後についても考えてもらうというコンセプトはよかったが、テーマをやや盛り込みすぎたという気もする。代替交通機関の問題や沿線自治体の取り組みについては、引き続き取材を続けていきたい。

- 4月13日(金)@okayama「青春プロレスごっこ」を見た。さまざまな立場にいる50代の男性が、かつて夢見たプロレスに挑戦する姿を追っていた。一人一人が抱える健康や家族の悩みといったデリケートな部分もよく描かれて、素晴らしい番組に仕上がっていた。続編を楽しみにしている。

(NHK側)

この番組の提案説明を受けた時に、プロレスだけではなく、出演者の人生を丁寧に取材するように指示したが、よくできていたと思う。プロレスに挑戦する男性の思いを、ナレーションではなく、本人に存分に話してもらったのがよかったのかもしれない。高校教師を務めながらかつてオリンピック出場を夢見ていた人やがんを患っている人がプロレスの試合に出場しているシーンを見て、勇気が出たという視聴者もいるのではないか。

- 1月20日(土)から3月31日(土)にかけて毎週土曜に放送している5分版の「√るーと5min. 『若桜鉄道の旅』」を見た。若桜鉄道でロケをした番組で、マンボウやしろさんとハイキングウオーキングの鈴木Q太郎さんの2人に与えられたミッションをクリアしながら、若桜鉄道の駅を次々に訪ねるといふ企画がよかった。2人の道中にはユーモアがあって、地元の人にも勇気や喜びなどを伝えられたのではないか。終点の若桜駅に到着した時に、2人を模したかかしを見つけて、それを駅舎のどこに置くかというやりとりもおもしろかった。「√るーとhigh↑2」は、新年度から「さんいんスペシャル」の中の1つの番組に変わり、島根県にも行くようになって可能性が広がったが、この25分間の番組だけではなく、この5分版の「√るーと5min.」もおもしろかった。

(NHK側)

「√るーと5min. 『若桜鉄道の旅』」は、かつて廃線にひんしながら第三セクターに転換した鉄道を舞台に、7回にわたってマンボウやしろさんと鈴木Q太郎さんの道中を放送した。2人を模したかかしは若桜駅に設置しているので、ぜひご覧いただきたい。この番組は、視聴者から5分版の「√るーと5min.」は見やすいという意見が寄せられており、今年度も継続する。4月13日(金)には鳥取県と島根県向けに放送した、さんいんスペシャル「√るーとhigh↑2 『海と神と妖怪がつながる町 松江市・美保関町』」を放送したが、その中では映らなかった場面を入れて、5分版の「√るーと5min.」を制作することになっている。

- 3月16日(金) YAMAGUTIC「山口暮らしですがなにか」を見た。周南市の酒造会社に就職する女子高生、阿武町の移住政策、下関市の牛飼いに取り組む若者という3つのケースを取り上げて、人口が減り続ける山口県の問題点をよく伝えていた。一つ目のケースでは県立田布施農工高校には「酒造蔵部(くらぶ)」という部活動があって、実際に高校生が日本酒を造っていることを知って驚いた。酒造蔵部の3人の女子高生のうち1人が酒造会社に就職したが、ほかの2人は山口県外に出て全く異なる職業に就職したが、今後も山口県とつながっていてほしいと感じた。阿武町の移住促進の取り組みでは、県外の若者に来てもらって町内を案内していたが、実際に見学にやってきた若者は定住する気がなく、生活の拠点を一つに定めずにいくつかの地点に置く「多拠点」という生き方を希望していることに驚いた。阿武町役場に勤める石田雄一さんは若者に定住を押し付けずに、町と関わりを持って盛り上げてほしいと言っていたが、懐の深さがよく描かれていた。下関市で畜産に取り組む25歳の若者のケースでは、同じ世代の多くが県外に出てしまうが、逆にチャンスが多いという趣旨の言葉に触発された。現在の若者の意見を盛り込んだ番組で、いろいろと考えさせられた。

(NHK側)

現在、山口県では県外への人口流出が大きな問題になっているが、その中で若者の雇用や山口県で暮らす魅力、可能性について考える番組を制作した。番組では必ずしも定住を求めない「多拠点」という考え方が出てきたが、地域の自治体ではそれを拒まずむしろ受け入れる度量があって、それが人口減少を考えるときのキーワードになっているのではないかと感じた。地域で過疎化が進むと言われている中で、こういった考え方もあることを提示していきたい。

- 私もこの番組を見た。下関市で牛飼いの家業を継いだ25歳の若者が、親がこれまでやってきた肥育経営ではなく和牛の繁殖経営に挑戦している姿が頼もしく、人口が減っているからこそ、逆にチャンスがあるというコメントが心に響いた。同世代の若者にこのような生き方を知ってもらえるよい番組だった。阿武町の担当者が移住促進について話し合いをする中で、定住するつもりはないと断言した女性には違和感を覚えたが、一方で町はもっと地元を目を向けることが重要だとも思えて、実際に移住政策を実行していく難しさを感じた。地方再生には「関係人口」という考え方があって、まず県外にいる出身者に振り向いてもらうという取り組みがある一方で、田布施農工高校酒造蔵部の2人の女子高生は仕事が地元になく県外で就職しているという現実



もある。実際にはいったん県外に出ても夢を持って帰ってくる人もいるので、そうした都会での知識や経験を持った人たちを紹介することができれば、地元の人たちにも参考になるのではないか。

(NHK側)

若者が夢を持って山口に帰ってくるというケースもあるという指摘については、参考にしたい。

- 4月13日(金)Yスペ!「ぬくもり 運びます～錦川清流線～」を見た。錦川の美しさに魅了されて転職を決意し、広島から移住した錦川鉄道の新人運転手を取り上げていたが、鉄道での通学を楽しみにしている男の子とのふれあいがよく描かれて、この運転士を応援したくなった。この番組を見て錦川鉄道を知った人には、もう少し番組を工夫して実際に来てもらえるかもしれない。例えば、山口県岩国市では「やまぐちブランド」にもなっている「岸根ぐり」の産地として知られているが、これを番組で取り上げれば、地域振興にも役立つのではないか。

(NHK側)

この番組は、内容を再構成し「小さな旅」として5月に全国に向けて放送することになっている。今後も県外から移り住んで来た人や戻ってきた人を応援したいと思ってもらえるような番組を作り続けていきたい。

- 島根県松江市では松平不昧の没後200年を迎え「不昧公200年祭」が始まっているが、これに連動してさまざまな番組が制作されているので、とても期待している。
- 4月9日(月)未明に発生した島根県西部の地震では自宅が大きく揺れたので、すぐ起きてNHKのテレビ放送を見たが、早い時点で津波の心配はないという速報があったので安心した。松江放送局のアナウンサーが迅速に地震を伝えたことをネットや雑誌などで報じられているが、ニュースでは地震発生時は就寝中で、すぐに自宅を出たということだったので、職業意識が強いことに感心した。こういった情報についてはNHKの報道を頼りにしているが、今後も期待している。

- 島根県西部の地震については、揺れた時に地鳴りがしてその後も余震が続いたので、恐怖を感じた。「しまねっと610」でもこの地震について丁寧に説明していたので、島根県内各地の被害がよく分かった。島根県大田市は観光地でもあるので、風評被害が起きないように工夫して伝えてほしい。

(NHK側)

地震の速報については、東京の放送センターや広島放送局では泊まり勤務のアナウンサーがいて直ちに伝えられるが、地域の放送局では職員も限られている。松江放送局の斎康敬アナウンサーは自宅で就寝中に下から突き上げるような揺れのあと強い横揺れがあったことや出勤の途中で街灯がついていたことを的確に伝えていた。今回の地震については、迅速に対応できたと思う。

- 4月10日(火)にEテレで再放送したハートネットTV「戦場からきたアフィファ～アフガニスタン 義足女性のメッセージ」を見た。この番組は、もともとは昨年10月6日に中国地方に向けて放送したフェイス「戦場からきたアフィファ～アフガン 義足女性の19日間～」に映像を追加・再編集して、昨年12月4日に全国放送したものだと思うが、視聴者から要望があって再放送したのであればうれしい。これからも期待している。
- 4月4日(水)探検バクモン「カレーの聖地！神田の謎」を見た。なぜ東京の神田にカレー屋さんが多いのか疑問に思っていたが、この番組でよく分かった。
- 3月15日(木)英雄たちの選択「“奇跡”の藩政改革者 山田方谷 無血開城に挑む」を見た。今回は小説家や経営コンサルタントをゲストに迎え、さまざまな視点から説明があってよかった。戊辰戦争では新政府軍から備中松山城の明け渡しを求められ無血開城したが、山田方谷の英断がなければ、今この地域に生きる人たちが、果たしてどうなったのか分からなかったもので、深く考えさせられた。

(NHK側)

「英雄たちの選択」はゲストにさまざまな分野の専門家を迎えて、英雄たちの心中に深く分け入り、新しいアプローチで日本の歴史を描き出す歴史教養番組だ。経済的な分野については、事実を積み重ねても視聴者に伝わらない部分があるが、ゲストが自らの専門分野の知見

を出し合う形で進めているので、視聴者に伝わりやすくなっていると思う。

- 4月6日(金)新日本風土記「ハワイ第1回」を見た。明治18年の「第1回官約移民」では、広島県と山口県からハワイに多くの移住が行われたためだろうか、沖縄県出身の移民の日本語が広島や山口の方言に似ていたのが興味深かった。広島県に縁の深いハワイ移民の歴史を美しい風景とともに描いていて斬新だった。
- 新年度のEテレの「基礎英語0」世界エイゴミッションを見た。ドラマ仕立てで、タブレット型コンピューターを使いクイズ形式で番組を進めていた。初めて英語を聞く子どもにも分かりやすくとても役立つと思った。
- ラジオ第2の新番組「基礎英語0」では、芸人のサンシャイン池崎さんが番組を盛り上げていておもしろく聞くことができた。番組の構成も「子ども科学電話相談」のように小学生の疑問に電話で答えるスタイルで分かりやすかった。「らじる★らじる」でもこの番組を聞くことができるが、スマートフォンからホームページに飛んで、単語帳を見たり発音を聞いたりすることができた。この番組以外についてもこの手法を採用すれば、効率的に勉強ができるのではないか。
- 山口放送局の「My “I SHIN”」の1分スポットを見た。手書きのロゴが目を引きとともに、山口県と福岡県出身の5人組のロックバンド・L I L I L I M I T が作った明るくテンポのよい曲が印象的だった。現在、全国・世界に向けて挑戦する3人の若者を紹介しているが、短い時間だが興味を引く内容で、山口放送局のキャンペーンを知ってもらうにはよい糸口になっていると思う。ただ高齢者が登場するスポットも加えてほしいと感じた。

(NHK側)

山口放送局の「MY “I SHIN”」に登場する人物は、維新の志士になぞらえて20代・30代を選んでいる。L I L I L I M I Tの皆さんには、このキャンペーンのために「s i g n a l」という曲を新たに書き下ろしてもらったが、彼らの山口に対する熱い思いや若い世代を応援したいという気持ちが表れていて、キャンペーンの趣旨によく合っていた。

- 山口放送局のホームページにある「MY “I SHIN”」のサイトを見た。このキャンペーンは、特に山口県内に就職した若者に見てほしい番組が多いので、NHKオンラインだけではなく、若い人たちに親和性のあるSNSなども通じてアプローチすることも考えてほしい。
  
- 鳥取放送局の「とっとりの、ときと、ともに。」というプロモーションビデオを見たが、ラップのBGMが印象的だった。「彼女が仲間と汗を流すとき。彼はわが子を抱き上げるとき。ひとりひとりのとっとりのときがある」というコメントが心に残った。

NHK広島放送局  
番組審議会事務局